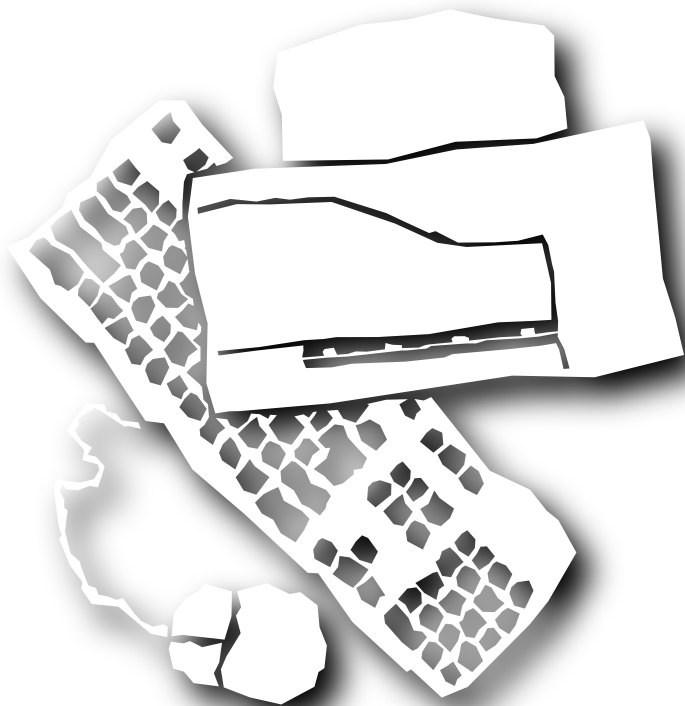


FMV-DESKPOWER

Pliche



- ▷ 本パソコンの取り扱い
- ▷ オプション機器を使うには
- ▷ BIOSセットアップ
- ▷ 仕様一覧
- ▷ 付録
- ▷ 索引

FMV 本体 & オプションガイド

パソコン本体の取り扱い方法や
オプション機器の接続方法を説明しています。
プリンタやメモリを接続するときなど、
必要なときにお読みください。

5

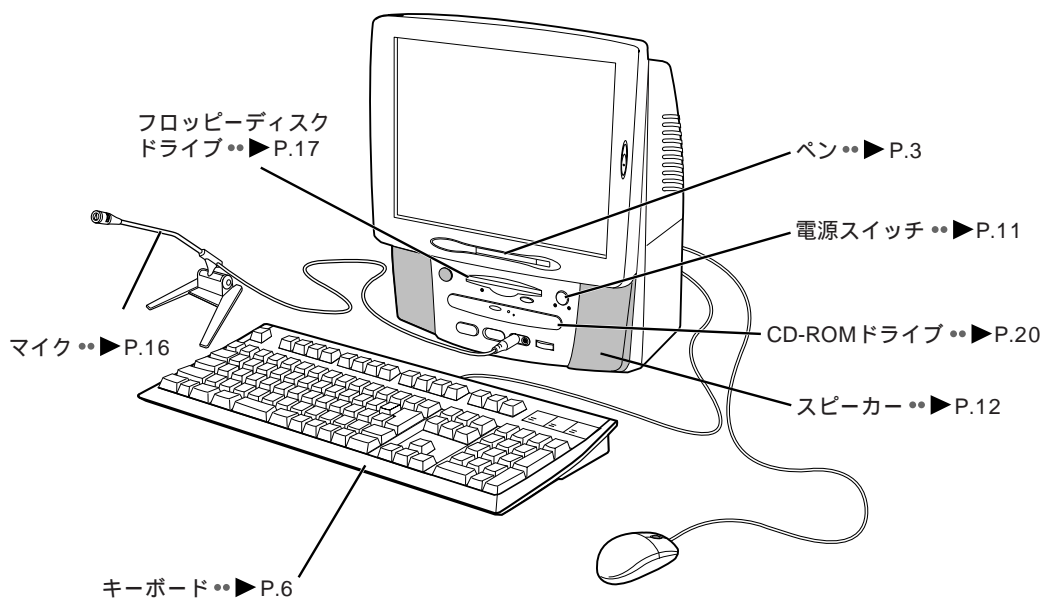
FUJITSU

『FMV 本体&オプションガイド』は、本パソコンの取り扱い方法や、別売りのオプション機器の取り付け方法について説明しています。

ここでは、本書の各章の内容を説明します。

第1章 本パソコンの取り扱い

本パソコンの各部の名称と働きや、取り扱い方法について説明しています。●▶P.1

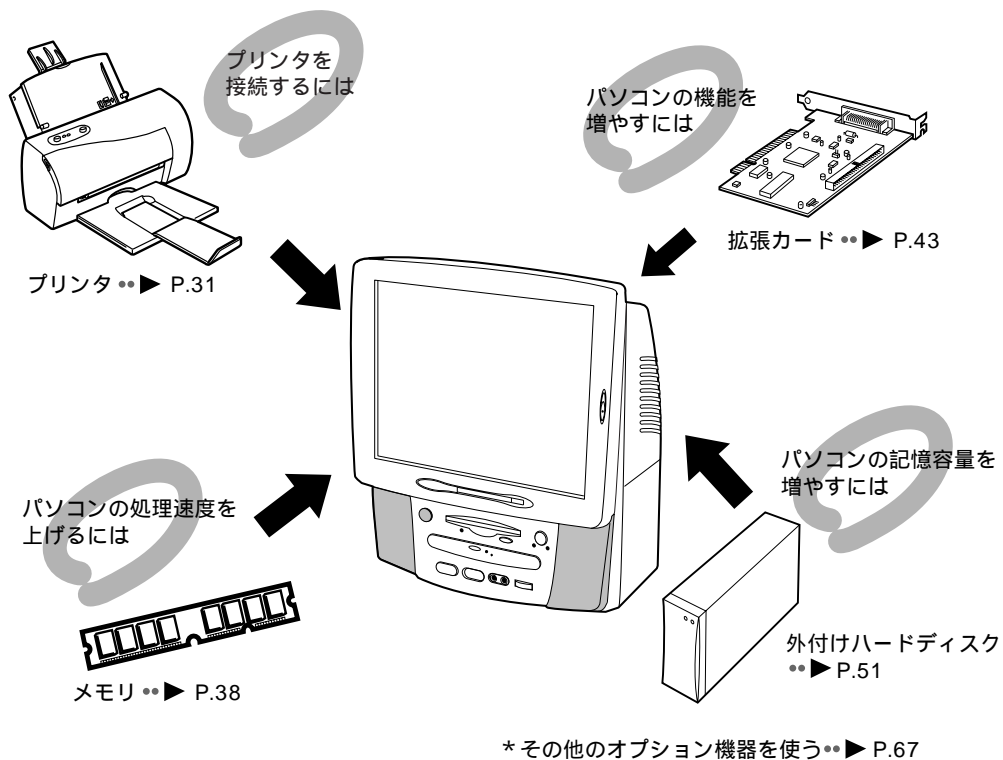


*お手入れのしかた ●▶P.23

(イラストは936Tです)

第2章 オプション機器を使うには

別売りのオプション機器の取り付け方法や設定方法について説明しています。●▶P.27



第3章 BIOS セットアップ

BIOS セットアップの始めかたや終わりかた、設定をご購入時の状態に戻す方法について説明しています。
●▶P.71

日常にお使いになる範囲では、BIOS セットアップを操作する必要はありません。

仕様一覧

本パソコンの仕様について説明しています。●▶P.99

付録



その他の注意事項などについて説明しています。●▶P.109

本書の表記について




安全にお使いいただくための絵記号について

本パソコンおよびその他のオプション機器を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。


本書では、いろいろな絵表示をしています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、本文をお読みください。

 警告	 注意
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。


また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

記号の例とその意味	
	で示した記号は、警告・注意をうながす内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な警告内容（左図の場合は感電注意）が示されています。
	⓪で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中には、具体的な禁止内容（左図の場合は接触禁止）が示されています。
	で示した記号は、必ずしたがっていただく内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な指示内容（左図の場合は一般的な強制事項）が示されています。

画面例および入力例について

- 表記されている画面は一例です。お使いの機種やモデルによって、画面が若干異なる場合があります。
- お客様に入力していただく文字列（コマンドライン）などは、入力例の文字上にアミ  をかけて表しています。
- 特に指定がない場合、英数字、記号は半角で入力します。また、大文字と小文字の区別はありません。
- 入力時に空白を入れる必要がある場合は、以下のように表しています。

dir c:

この場合は、「dir」と入力したあと、（空白キー）を1回押し、続けて「c:」と入力してください。












- FMV-DESKPOWER Pliché model 936Tをお使いの方は、特に指示がない場合、クリック、ダブルクリックの操作は、マウス、ペンのどちらで操作しても構いません。

イラストについて

- FMV-DESKPOWER Pliché model 936Xを例にしています。他の機種では若干異なる場合があります。
- 本来接続されているケーブル等を省略している場合があります。

本文中の記号について

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
	操作する前に確認していただきたいことを記述しています。必ずお読みください。
	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
	知っていると便利なことを記述しています。必要に応じてお読みください。
	手順が分かれる場合などに、次に進む箇所を示しています。
	参照先を記述しています。
	ご覧になっていただきたいマニュアルを記述しています。  の中に番号がある場合は、マニュアルの表紙の番号を示しています。
	CD-ROM を表しています。
	フロッピーディスクを表しています。
	覚えていただきたい用語を解説しています。パソコンを初めてお使いになる方はぜひお読みください。

製品の呼びかたについて

製品名称を、次のように略して表記しています。

製品名称	本書での表記
Microsoft® Windows® 98 operating system	Windows98
Microsoft® IME 98	MS-IME98
VirusScan for Windows 95/98	VirusScan
Intellisync® for Notebooks	Intellisync
情報処理機器の省エネルギー化推進に関する法律	省エネ法

機種名の表記について

次のように略して表記しています。

機種名	本書での表記
FMV-DESKPOWER Pliché model 936X/model 936T	本パソコン
FMV-DESKPOWER Pliché model 936X	936X
FMV-DESKPOWER Pliché model 936T	936T

目次

本書のご案内

本書の表記について

第 1 章 本パソコンの取り扱い

1. 各部の名称と働き	2
● パソコン本体前面	2
● パソコン本体背面	4
● キーボード	6
2. 電源を入れる / 電源を切る	8
● 電源を入れる	8
● 電源を切る	9
● 電源スイッチについて	11
3. スピーカー / ヘッドホンを使う	12
● スピーカーの音量を調節する	12
● ヘッドホンを使う	14
4. マイクを使う	16
● マイク取り扱い上の注意	16
5. フロッピーディスクを使う	17
● お使いになれるフロッピーディスク	17
● フロッピーディスク取り扱い上の注意	18
● フロッピーディスクをセットする / 取り出す	19
● フロッピーディスクのデータを守るには	19
6. CD-ROM を使う	20
● お使いになれる CD-ROM や音楽 CD	20
● CD-ROM や音楽 CD 取り扱い上の注意	20
● CD-ROM や音楽 CD をセットする / 取り出す	21
7. お手入れのしかた	23
● パソコン本体 / 液晶ディスプレイ / タッチパネル / キーボードのお手入れ	23
● マウスのお手入れ	24
● フロッピーディスクドライブのお手入れ	25
● CD-ROM ドライブのお手入れ	26

第2章 オプション機器を使うには

1. オプション機器を増設する前に	28
● 取り付けられるオプション機器	28
● オプション機器の接続にあたって	29
2. プリンタを接続する	31
● プリンタを接続するまで	31
● 必要なものを用意する	32
● プリンタを接続する	33
3. 本体カバーを取り外す / 取り付ける	36
● 本体カバーを取り外す	36
● 本体カバーを取り付ける	37
4. メモリを増やす	38
● メモリを増やすまで	38
● 必要なものを用意する	39
● メモリを取り付ける	40
5. 拡張カードを増設する	43
● 拡張カードを増設するまで	43
● 拡張カードを取り付ける前に	44
コラム	
代表的な拡張カードの種類	44
● 拡張カードを取り付ける	47
6. ハードディスクを増設する	51
● ハードディスクを増設するまで	51
● ハードディスクを取り付ける前に	52
コラム	
終端抵抗 (ターミネータ)	53
● 外付けハードディスクを取り付ける	54
● 領域を設定する	56
コラム	
ハードディスク増設時のドライブ名の割り当て	62
● フォーマットする	63
7. その他のオプション機器を使う	67
● MO (光磁気ディスク) ドライブを使う	67
● スキャナを使う	68
● ターミナルアダプタを接続する	69
● USB 機器を接続する	70

第3章 BIOS セットアップ

1. BIOS セットアップとは	72
2. BIOS セットアップの操作のしかた	73
● BIOS セットアップを起動する	73
● 設定を変更する	74
● 変更内容を取り消す	75
● BIOS セットアップを終了する	76
3. ご購入時の設定に戻す	78
4. BIOS セットアップメニューの詳細	80
● System Information	81
● Product Information	82
● Date and Time	83
● Boot Options	84
● Disk Drives	86
● Peripherals	88
● Video	91
● PnP/PCI	92
● Power Management	93
● Exit Setup Utility	95
5. BIOS が表示するメッセージ一覧	97
● メッセージが表示されたときは	97
● メッセージ一覧	97

仕様一覧

1. 仕様一覧	100
● パソコン本体	100
● 液晶ディスプレイ	101
● FAX/ ボイスモデムカード	101
● スピーカー	101
● サウンド機能	102
● タッチパネル (936T のみ)	102
● 表示できる解像度と発色数	102
● IRQ (割り込み要求) 一覧	104

コラム

IRQ (割り込み要求:Interrupt Request) とは	104
---	-----

2. コネクタのピン配列と信号名	107
------------------------	-----

付録

1. ディスプレイドライバ/サウンドドライバのインストール.....	110
● インストールのときに気を付けること	110
● ディスプレイドライバをインストールする	111
● サウンドドライバをインストールする	115
2. コアの取り付け	120
3. 936T についての注意事項	121
● タッチパネルについて	121
● タッチパネルの補正	122
● タッチパネルドライバのインストール	123
● 赤外線通信ポートをお使いになるときは	124
4. その他の注意事項	125
● 液晶ディスプレイの特性	125
● 液晶ディスプレイの廃棄	125
● かんたんメールボタンについて	125
● スタンバイ時の注意	125
● 画面表示について	125
● カラーイメージスキャナ (RapidScan) RS-100 についての注意	126
● 市販の MIDI 機器を接続するには	126
● 外部 MIDI 使用時の注意	126
● 電源の切断について	126
● 赤外線通信ポートをお使いになるうえでの注意	126
● ACPI について	128
索引	132

1

本パソコンの取り扱い

パソコン本体やキーボードなどの取り扱い方法やお手入れのしかた、各部の名称などについて説明しています。

1. 各部の名称と働き	2
2. 電源を入れる / 電源を切る	8
3. スピーカー / ヘッドホンを使う	12
4. マイクを使う	16
5. フロッピーディスクを使う	17
6. CD-ROM を使う	20
7. お手入れのしかた	23

1

各部の名称と働き

ここでは、パソコン本体前面、背面、キーボードの各部の名称と働きを説明します。

パソコン本体前面

イラストは936Xです。

フロッピーディスク
取り出しボタン
フロッピーディスクを取り出すときに押します。

フロッピーディスク
ドライブ (●▶ P.17)
フロッピーディスクをセットしてデータを読み書きします。

EJECTボタン
CD-ROMドライブに、CD-ROMや音楽CDをセット、または取り出すときに押します。パソコン本体の電源が入っているときに使えます。

フロッピーディスクアクセス
表示ランプ
フロッピーディスクにアクセスしているときに点灯します。

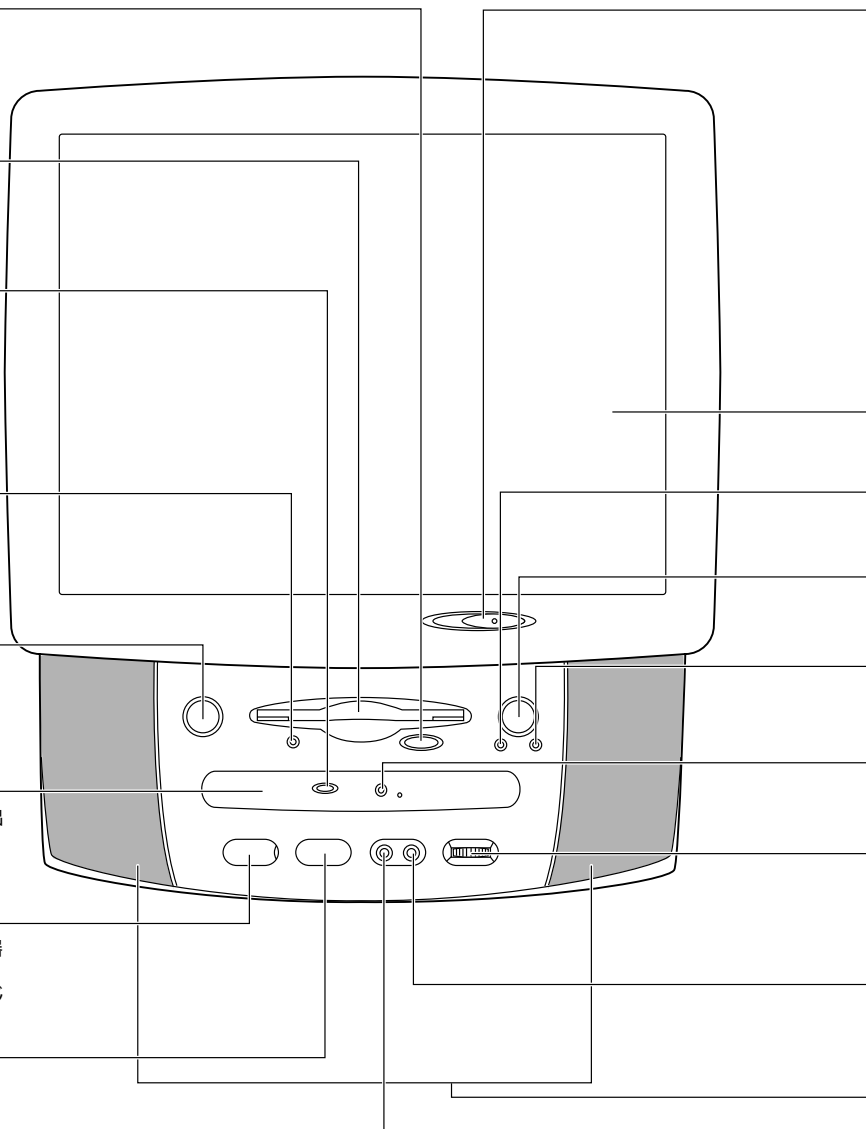
かんたんメールボタン
ワンタッチでEメールを受信するボタン機能と、Eメールの到着をお知らせするランプ機能を提供、サポートします。

CD-ROMドライブ (●▶ P.20)
CD-ROMのデータやプログラムを読み出したり、音楽CDを再生したりします。

USBコネクタ
カバーを左にスライドさせて、USB機器 (●▶ P.70) を接続します。お使いにならないときは、カバーを閉じておいてください。

赤外線通信ポート (●▶ P.126)
赤外線通信を行うための送受光部です。

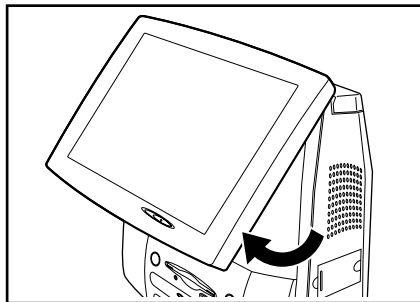
マイク端子
添付されているマイク (●▶ P.16) を接続します。



アドバイス

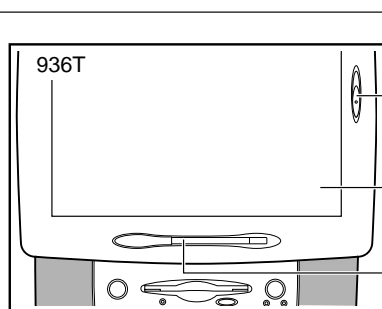
液晶ディスプレイの角度が調節できます

液晶ディスプレイの下部を引き出すと、液晶ディスプレイの角度が調節できます。



1

本パソコンの取り扱い（各部の名称と働き）



ブライツネスボリューム

液晶ディスプレイのバックライトの明るさを調節します。右（936Tは上）にスライドさせると明るくなり、左（936Tは下）にスライドさせると暗くなります。

タッチパネル（936Tのみ）（ ●▶ P.121）

パソコンの画面を表示します。
タッチ操作するときに使います。

ペン（936Tのみ）（ ●▶ P.121）

画面に文字や絵を書くときやタッチ操作をするときに使います。
マウスに代わって、クリック、ダブルクリックができます。右クリック、ドラッグ、ポイントなどの操作はマウスをお使いください。

液晶ディスプレイ
パソコンの画面を表示します。

ハードディスクアクセス表示ランプ
ハードディスクにアクセスしているときに点灯します。

電源スイッチ（ ●▶ P.11）
パソコン本体の電源を入れるときや、スタンバイにするとき、またはスタンバイから復帰させるときに押します。

電源ランプ
パソコン本体に電源が入っているときに点灯します。

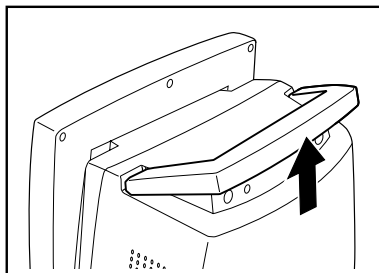
BUSYランプ
CD-ROMからデータを読み込んでいるときや、音楽CDを再生しているときに点灯します。

音量ボリューム（ ●▶ P.12）
スピーカー、ヘッドホンの音量を調節します。

ヘッドホン端子
市販のヘッドホン（ ●▶ P.14）を接続します。

スピーカー（ ●▶ P.12）
本パソコンの音声を出力します。

パソコン本体背面



取っ手
持ち運ぶときに、引き上げて使えます。

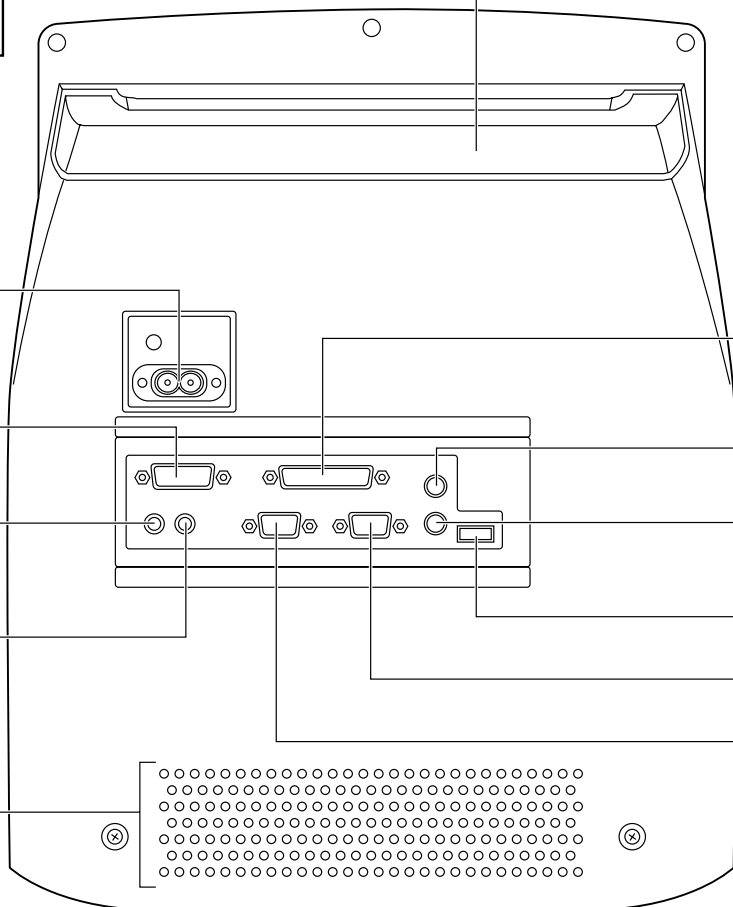
インレット
電源ケーブルを接続します。

MIDI / JOYSTICK端子
MIDIケーブルやジョイスティックを接続します。

LINE OUT端子
オーディオ機器の入力端子とつながるオーディオケーブルを接続します。

LINE IN端子
オーディオ機器の出力端子とつながるオーディオケーブルを接続します。

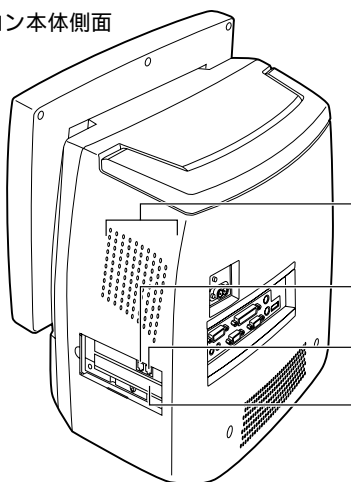
通風孔
パソコン本体内部の熱を逃がすための開孔部です。ふさがらないでください。



⚠ 注意

けが パソコン本体を持ち運ぶときは、必ず取っ手を持つようにしてください。
取っ手以外の部分を持つと、落下してけがの原因となることがあります。また、故障の原因となることがあります。

パソコン本体側面

**通風孔**

パソコン本体内部の熱を逃がすための開孔部です。
ふさがないでください。

LINE端子

電話回線とつながるモジュラーケーブルを接続します。

PHONE端子

電話機とつながるモジュラーケーブルを接続します。

拡張スロット (●▶ P.43)

拡張カードを取り付けると、コネクタがここに見えます。

パラレルコネクタ

プリンタ (●▶ P.31) やスキャナ (●▶ P.68) などのケーブルを接続します。
パラレルポートともいいます。

マウスコネクタ

マウスを接続します。

キーボードコネクタ

キーボード (●▶ P.6) を接続します。

USBコネクタ

USB機器 (●▶ P.70) を接続します。

ディスプレイコネクタ

別売りのCRTディスプレイのケーブルを接続します。

シリアルコネクタ (COM1)

デジタルカメラ、ターミナルアダプタ (●▶ P.69)、IRコマンドなど
RS-232C規格に対応した機器のケーブル (D-SUB9ピン) を接続します。
シリアルポートともいいます。

用語 USB (ユーエスピー)

Universal Serial Bus の略で、マウス、キーボード、プリンタ、モデム、ターミナルアダプタ、スピーカーなどの機器を接続するための規格です。

キーボード

キーボードは、パソコンに対して指示を与え、実行させるためのものです。
本パソコンのキーボードは「109キーボード」というタイプのキーボードです。
パソコン本体背面のキーボードコネクタ（●▶P.5）に接続します。

F（ファンクション）キー
アプリケーションごとにいろいろな役割が割り当てられます。

Esc（エスケープ）キー
作業を取り消すときに使います。

**Caps Lock（キャスロック）
英数キー**
アルファベットを入力するときに、**[Shift]**を押しながらこのキーを押すと、大文字/小文字入力が切り替わります。

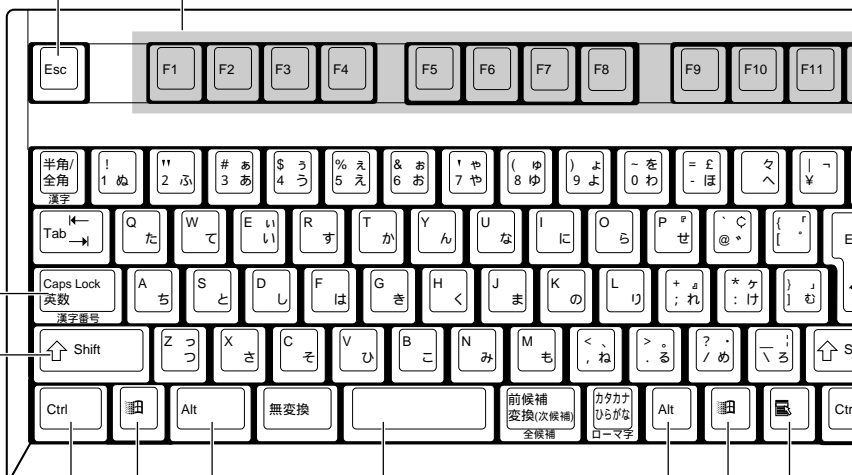
Shift（シフト）キー
他のキーと組み合わせて使います。**[Shift]**を押しながら文字キーを押すと、キーの上段に刻印されている文字や記号が入力できます。

Scroll Lock（スクロールロック）キー
画面がスクロールしないようにするときに押します。

Print Screen（プリントスクリーン）キー
画面表示をビットマップファイルにするときに押します。
詳しくは「**[4]** 困ったときのQ&A」の「気に入った画面を保存しておきたい」をご覧ください。

Insert（インサート）キー
入力する文字の挿入/上書きを切り替えるときに押します。

Back space（バックスペース）キー
カーソルの左側の文字を削除するときに押します。



空白（スペース）キー
空白を入力するときに押します。

Alt（オルト）キー
他のキーと組み合わせて使います。

Windows（ウィンドウズ）キー
「スタート」メニューを表示するときに押します。

Application（アプリケーション）キー
右クリックと同じ役割をします。

Ctrl（コントロール）キー
他のキーと組み合わせて使います。

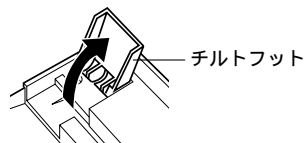
アドバイス

キー動作は異なることがあります

アプリケーションによって、キー動作が異なることがあります。
ここでは、一般的なキー動作を説明しています。

キーボードに角度をつけて置くには

キーボード底面にあるチルトフットを起こすと、キーボードに角度をつけて置くことができます。



チルトフット

Pause (ポーズ) キー

画面のスクロールを一時的に止めるときに押します。

Home (ホーム) キー

カーソルを行の先頭に移動します。

[Ctrl] を押しながらこのキーを押すと、カーソルが文書の最初に移動します。

インジケータ

次のキーを押すと点灯し、各機能が使えるようになります。

もう一度押すと、消灯します。

- Num Lock : [Num Lock] を押す
- Caps Lock : [Shift] を押しながら [Caps Lock 英数] を押す
- Scroll Lock : [Scroll Lock] を押す

Num Lock (ニューメリカルロック) キー
テンキーの機能を切り替えるときに押します。

Page Up (ページアップ) キー
前ページに切り替えるときに押します。

テンキー

Num Lockインジケータ点灯時に、数字や記号が入力できます。

Num Lockインジケータ消灯時は、キー下段に刻印された機能が使えます。

Page Down (ページダウン) キー
次ページに切り替えるときに押します。

カーソルキー

カーソルを上下左右に移動します。

End (エンド) キー

カーソルを行の最後に移動します。

[Ctrl] を押しながらこのキーを押すと、カーソルが文書の最後に移動します。

Delete (デリート) キー

カーソルの右側の文字を削除するときに押します。

Enter (エンター) キー

入力した文字を確定するときなどに押します。

リターンキーまたは改行キーとも呼ばれます。

2

電源を入れる / 電源を切る

ここでは、本パソコンの電源の入れかたと切りかたについて説明します。

⚠ 注意



けが

- フロッピーディスクをセットまたは取り出すときは、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。
- CD-ROM や音楽CDをセットまたは取り出すときは、CD-ROMドライブのトレイに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

電源を入れる

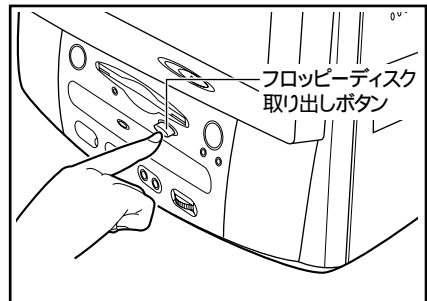
重要

電源を入れるときの注意

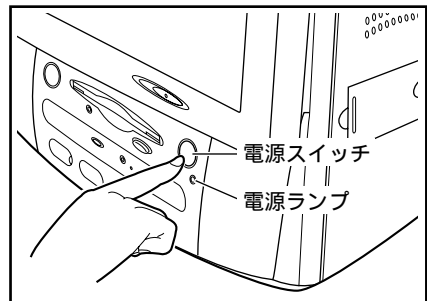
電源を切ったあとに再び電源を入れるときは、10秒ほどお待ちください。

1 本パソコンに接続されている機器の電源を入れます。

2 フロッピーディスクがセットされていないことを確認します。
セットされているときは、フロッピーディスク取り出しボタンを押して、フロッピーディスクを取り出してください。



3 電源スイッチを押します。
電源ランプが点灯します。
しばらくすると、Windows98の画面が表示されます。



アドバイス

先にパソコン本体の電源を入れてしまったら

接続されている機器の電源を入れる前にパソコン本体の電源を入れてしまうと、Windows 98が正常に機器を認識できない場合があります。Windows 98が完全に起動するのを待って、以下の手順に従って操作してください。

- 1 本パソコンに接続されている機器の電源を入れます。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。
- 3 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。

本パソコンが再起動し、接続されている機器が認識されます。

電源スイッチを押してもWindows 98が起動しないときは

電源スイッチを押してもWindows 98が起動せず、英語のメッセージが表示されたままになっているときは、「BIOSが表示するメッセージ一覧」(●▶ P.97)をご覧ください。

電源を切る

重要

電源スイッチは押さないでください

本パソコンの電源を切るときは、Windows 98上で操作します。

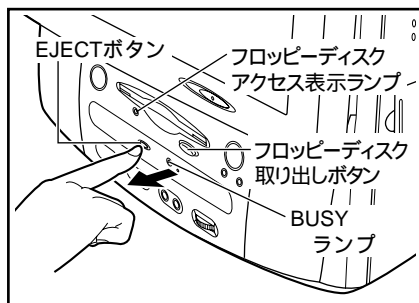
電源スイッチは、通常は使わないでください。

必ずアプリケーションを終了してください

アプリケーションを起動したままWindows 98を終了すると、本パソコンが正常に終了できなかつたり、次に起動するときに正常に起動できなくなることがあります。

- 1 それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。

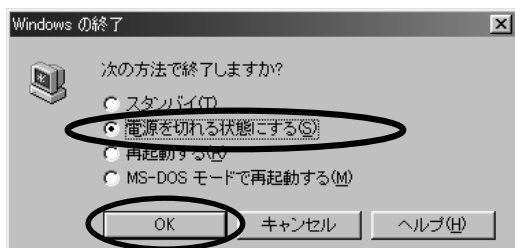
- 2 フロッピーディスクやCD-ROMがセットされているときは、取り出します。
フロッピーディスクアクセス表示ランプ、またはBUSYランプが消えていることを確認してから、取り出してください。



- 3 「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。



- 4 「電源を切れる状態にする」をクリックし、「OK」をクリックします。

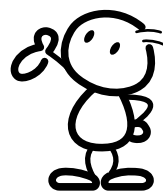


アドバイス

フロッピーディスクがセットされていると終了できません

「フロッピーディスクが入っています。Windows の終了を中止します。」というメッセージが表示された場合は、「閉じる」をクリックし、フロッピーディスクを取り出して、手順 3 から操作し直してください。

- 5 本パソコンに接続されている機器の電源を切ります。



電源スイッチについて

電源スイッチは、通常は次のときに使います。

- パソコンの電源を入れるとき(●▶P.8)
- パソコンをスタンバイ(電力消費を抑えて、画面の表示が消えた状態)にするとき
- パソコンを、スタンバイから元の状態に戻すとき

スタンバイ機能について

Windows98が起動したあとに電源スイッチを押すと、スタンバイ(電力消費を抑えている状態)となり、画面が真っ暗になります(電源ランプの点灯が、緑色からオレンジ色に変わります)。

元の状態に戻すには、もう一度電源スイッチを押します。しばらくすると、電源ランプが緑色に点灯し、画面が再び表示されます。また、マウスを動かすか、キーボードの□□□□や(Shift)を押しても、画面が再び表示されます。完全に表示されるまでに5~10秒かかります。

Windows98から電源を切れない場合

使用中のアプリケーションが何らかの理由で動かなくなり、強制終了もできなくなったときは、パソコン本体の電源スイッチを4秒以上押し続けて、パソコンの電源を切ってください。

なお、アプリケーションの強制終了のしかたについては、④『困ったときのQ&A』の「操作中に動かなくなった」をご覧ください。

電源スイッチを4秒以上押し続けて電源を切ったあとは、パソコン本体の電源ランプが消えている(電源が切れている)ことを確認してください。パソコン本体の電源ランプがオレンジ色に点灯している場合(スタンバイの状態)には、再び電源スイッチを4秒以上押し続けて電源を切ってください。

再び電源を入れるときは、10秒ほど待ってから電源スイッチを押してください。

通常の場合は「電源を切る(●▶P.9)」の手順に従って本パソコンの電源を切ってください。Windows98が動作している状態で、電源スイッチを4秒以上押しても電源は切れません。

重要

次の場合は電源スイッチを押さないでください

- 電源を入れたら、Windows98が完全に起動してデスクトップ画面が表示され、ハードディスクアクセス表示ランプが消えるまで、電源スイッチを押さないでください。Windows98の起動途中で電源スイッチを押すと、スタンバイ機能が不完全に働いて、本パソコンが正しく動作しないことがあります。
- ハードディスクアクセス表示ランプやBUSYランプが点灯しているときは、電源スイッチを押さないでください。
- 動画や音声・音楽データの再生中に電源スイッチを押すと、スタンバイ機能が不完全に働いて、本パソコンが正しく動作しないことがあります。
動画や音声・音楽データの再生を終了させてから、電源スイッチを押してください。
- 通信中は電源スイッチを押さないでください。通信を終了させてから、電源スイッチを押してください。

電源スイッチを連続して押さないでください

連続して押すとスタンバイ機能が正しく働かない場合があります。

アドバイス

画面が真っ暗になった場合

本パソコンの電源を入れた状態で約30分操作しないと、自動的にスタンバイ機能が働いて画面が真っ暗になり、パソコン本体の電源ランプがオレンジ色に変わります。このときは、電源スイッチを押すか、マウスを動かすか、キーボードの□□□□や(Shift)を押すと、画面が再び表示されます。

3

スピーカー / ヘッドホンを使う

ここでは、スピーカーの音量を調節する方法、ヘッドホンを使う方法について説明します。スピーカーネットは取り替えられます。スピーカーネットの取り替え方法について詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

スピーカーの音量を調節する

音量は、次の2つの方法で調節できます。

- パソコン本体前面の音量ボリュームを使う
- 画面の音量つまみを使う

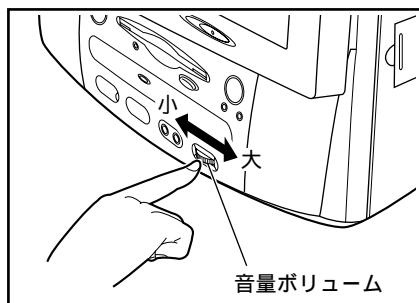
それぞれの音量調節は相互に関係があります。

たとえば、2つの音量調節機能のうちどちらかの音量を最小にすると、もう一方の音量を大きくしてもスピーカーからの音は聞こえません。また、2つの音量を最大にすると、スピーカーからの音量は最大となります。


ここでは、それぞれの音量調節のしかたを説明します。

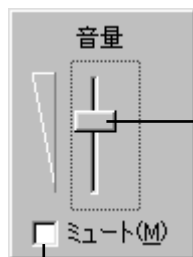
パソコン本体前面の音量ボリュームを使う

- 1 パソコン本体前面の音量ボリュームを回して適切な音量に調節します。
左に回すと小さく、右に回すと大きくなります。




画面の音量つまみを使う

- 1 タスクバーの  (音量) をクリックします。
音量つまみが表示されます。
- 2 音量つまみを上下にドラッグして、適切な音量に調節します。



音量つまみ
下にドラッグすると音が小さく、
上にドラッグすると音が大きくなります。

ミュート
ここをクリックして にすると音が消え、タスクバーの表示が  に変わります。
もう1度クリックして にすると元の音量に戻ります。

3 デスクトップの何もないところをクリックします。

音量つまみが閉じます。


音量つまみが閉じなかったときは、いったん音量つまみをクリックしてからデスクトップの何もないところをクリックしてください。

アドバイス

その他の音量の調節のしかた

「出力マスター」ウィンドウの「出力マスター」の音量つまみを上下にドラッグしても、音量を調節できません。

「出力マスター」ウィンドウの表示方法は次の2つです。

- タスクバーの (音量) をダブルクリックする
- 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」, 「アクセサリ」, 「エンターテイメント」の順にマウスポインタを合わせ、「ボリュームコントロール」をクリックする

「出力マスター」ウィンドウでは、以下の音量調節ができます。

- 出力マスター : パソコン全体の音量
- Wave : Wave ファイルの音量
- シンセサイザ : MIDI の音量
- CD : 音楽 CD の音量
- ライン入力 : ライン入力の音量


なお、各項目で調節した音量は、パソコン本体の電源を切るとご購入時の状態に戻ることがあります。

スピーカーから音が聞こえないときは

スピーカーから音が聞こえないときは、次のことを確認してください。

適切な音量になっているか

パソコン本体前面の音量ボリューム (●▶P.12) または画面の音量つまみ (●▶P.12) が、適切な音量に調節されているか確認してください。


また、画面の音量つまみのミュートが になっている (タスクバーに  と表示されている) と音は聞こえません。 をクリックして にしてください。


ヘッドホンが接続されていないか

ヘッドホンがヘッドホン端子 (●▶P.3) に接続されていると、スピーカーからの音は聞こえません。ヘッドホンを取り外してください。

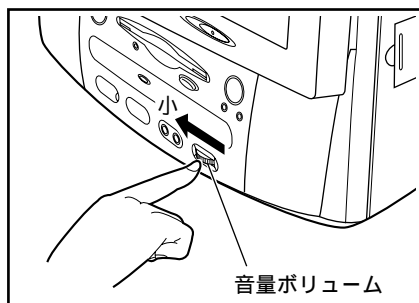
ヘッドホンを使う

⚠注意

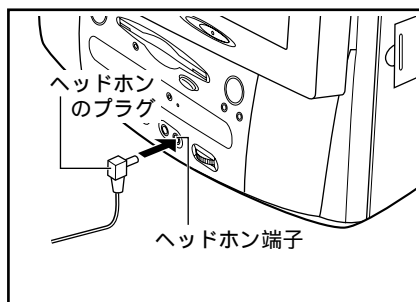
聴力障害  ヘッドホンをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。
耳を刺激するような大きな音量で長時間お使いになると、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

聴力障害  ヘッドホンをしたままパソコン本体の電源を入れたり切ったりしないでください。
刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

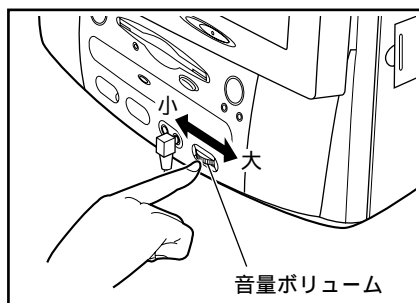
- 1** パソコン本体前面の音量ボリュームを左いっぱい
に回して、音量を最小にします。



- 2** ヘッドホン端子にヘッドホンのプラグを差し込み
ます。
2つ並んでいる差し込み口の右側です。
ヘッドホンを接続すると、スピーカーからは音が聞こ
えなくなります。



- 3** 音量ボリュームで適切な音量に調節します。
左に回すと小さく、右に回すと大きくなります。



ヘッドホンから音が聞こえないときは


ヘッドホンから音が聞こえないときは、次のことを確認してください。

ヘッドホンが正しく接続されているか

ヘッドホンは、ヘッドホン端子(●▶P.3)に接続します。正しく接続されているか確認してください。

適切な音量になっているか

パソコン本体前面の音量ボリューム(●▶P.12) または画面の音量つまみ(●▶P.12)が、適切な音量に調節されているか確認してください。

また、画面の音量つまみのミュートがになっている(タスクバーにと表示されている)と音は聞こえません。をクリックしてにしてください。



4

マイクを使う

本パソコンでは、マイクを使って録音できます。

また、本パソコンには、マイクを使って楽しめる「TEO - もうひとつの地球 - フィンフィン アミルの森とツブの林 99春プリシエバージョン」というソフトウェアが添付されています。

マイクはパソコン本体前面のマイク端子（**▶P.2）に接続します。

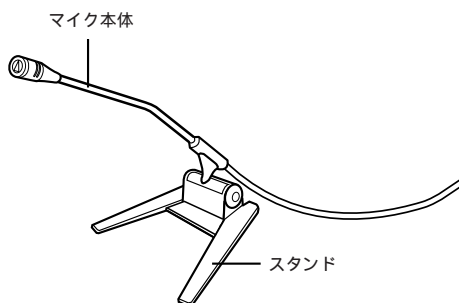
ここでは、マイクの取り扱い上の注意について説明します。

マイク取り扱い上の注意

マイクをお使いになるときは、次の点にご注意ください。

- スピーカーから離してお使いください。ハウリング（キーンと音がすること）を起こす場合があります。
- マイクに向かって録音するときは、マイクと口との距離が15～30cmの範囲になるようにお使いください。
- マイクの先を手を持たないでください。

録音方法については、④『困ったときのQ&A』の「マイクを使って音声を録音したい」をご覧ください。



アドバイス

マイクをお使いになるときは

以下の手順に従って設定してください。

- 1 タスクバーにある (音量) をダブルクリックします。
「出力マスター」ウィンドウが表示されます。
- 2 「出力マスター」の音量つまみが最大になっていることを確認します。
最大になっていないときは、音量つまみを上にドラッグして、音量を最大にします。
- 3 「オプション」メニューの「プロパティ」をクリックします。
- 4 「表示するコントロール」にある「マイクroフォン」の をクリックして にし、「OK」をクリックします。
「出力マスター」ウィンドウに「マイクroフォン」が表示されます。
- 5 「マイクroフォン」の「ミュート」の をクリックして、 にします。
- 6 「オプション」メニューの「トーン調整」をクリックします。
「出力マスター」ウィンドウの「マイクroフォン」のところに「トーン」が表示されます。
- 7 「マイクroフォン」の「トーン」をクリックします。
「マイクroフォンの詳細設定」ウィンドウが表示されます。
- 8 「そのほかの調整」の「マイクroフォンブースト」が になっていることを確認し、「閉じる」をクリックします。
 になっているときは、 をクリックして にしてください。
- 9 「出力マスター」ウィンドウの右上にある (閉じるボタン) をクリックして、「出力マスター」ウィンドウを閉じます。

市販のマイクはお使いになれません

必ず添付のマイクをお使いください。

5

フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクドライブは、フロッピーディスクにデータを保存したり、フロッピーディスクからデータを読み出したりするための装置です。

ここでは、本パソコンのフロッピーディスクドライブでお使いになれるフロッピーディスク、フロッピーディスクのセットのしかたや取り出ししかたなどについて説明します。

お使いになれるフロッピーディスク

本パソコンのフロッピーディスクドライブは、1.44MB、1.2MB、720KBの各記憶容量のフロッピーディスクを読み書きできる3モードドライブです。

本パソコンでは、次の2種類のフロッピーディスクがお使いになれる。ただし、1.2MBにフォーマットすることはできません。

2HD フロッピーディスク

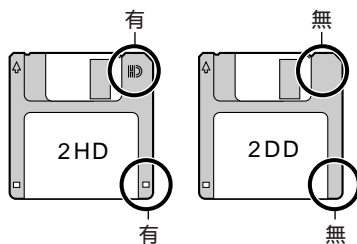
1.44MB（メガバイト）、1.2MBの記憶容量のものです。

2DD フロッピーディスク

2HD フロッピーディスク（1.44MB）の半分の720KB（キロバイト）の記憶容量のものです。

上記の2種類のフロッピーディスクの外見は、下図のような違いがあります。

HDのマークの有無



穴の有無

なお、フロッピーディスクのフォーマット方法については、『[1](#)『かるがるパソコン入門』の「フロッピーディスクを使うには」をご覧ください。

用語 MB（メガバイト）

バイトとは、パソコンで扱うデータの大きさを表す単位のことです。M（メガ）は100万を表します。1MBとは、約100万バイトのデータということです。

パソコンで扱われる単位には、他にKB（キロバイト）、GB（ギガバイト）があります。1KBは約1000バイト、1GBは約10億バイトのデータを表します。

アドバイス

データを読み出せないことがあります

同じ記憶容量のフロッピーディスクでも、フォーマットした環境（機種、ソフトウェア）が違うと、フロッピーディスクのデータを読み出せないことがあります。

また、他社製のパソコンでフォーマットしたフロッピーディスクはお使いになれないことがあります。

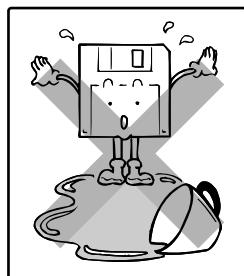
フォーマット済みのフロッピーディスクをご購入の場合は

「DOS/V用フォーマット済み」と書かれたものを、ご購入ください。

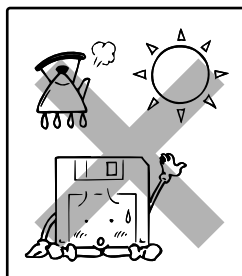
他の形式（Macintoshフォーマットなど）でフォーマットされたフロッピーディスクをご購入の場合は、本パソコンで再フォーマットしてください。

フロッピーディスク取り扱い上の注意

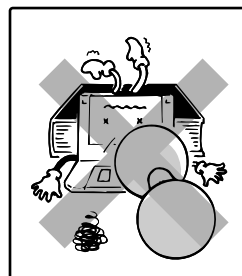
フロッピーディスクをお使いになるときは、次の点にご注意ください。データが保存できなくなったり、読み出せなくなることがあります。



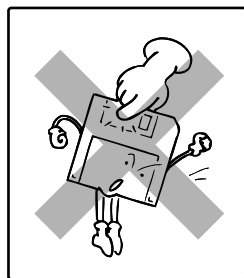
コーヒーなどの液体をかけないでください。



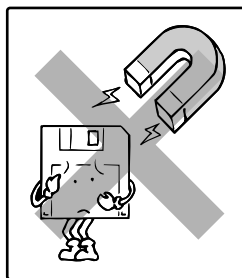
湿度の高い場所や直射日光の当たる場所には置かないでください。



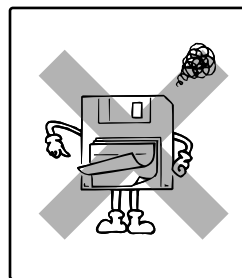
曲げたり、重い物をのせたりしないでください。



シャッタを開いて、中のディスク面に絶対に触れないでください。



磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。



ラベルを重ねて貼らないでください。
ドライブから取り出せなくなる原因となります。

フロッピーディスクをセットする / 取り出す

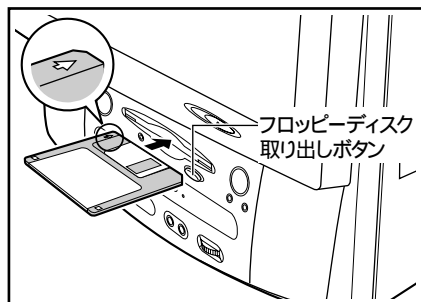
⚠ 注意



フロッピーディスクをセットまたは取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

セットする

- 1 矢印のある面を上にして、フロッピーディスクドライブに差し込みます。「カシャッ」と音がして、フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出します。



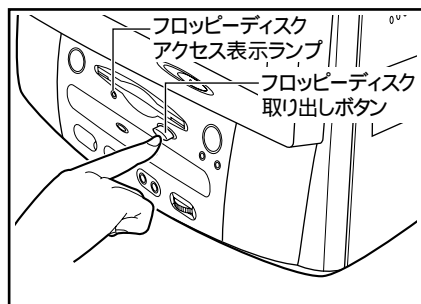
取り出す

重要

フロッピーディスクを取り出すときの注意

フロッピーディスクアクセス表示ランプの点灯中に、フロッピーディスクを取り出さないでください。データが壊れるおそれがあります。

- 1 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えていることを確認し、フロッピーディスク取り出しボタンを押します。フロッピーディスクが出てきます。

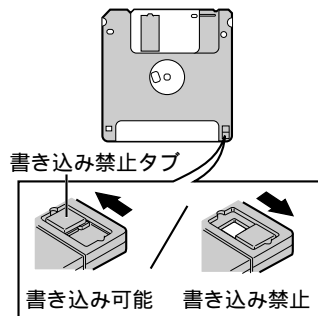


フロッピーディスクのデータを守るには

フロッピーディスクに保存してある情報を誤って消さないようにするには、フロッピーディスクの書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が開いた状態（書き込み禁止の状態）にします。

再び情報を書き込みたいときは、書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が閉じた状態にします。

また、フロッピーディスクに強い磁気を帯びたものを近づけると、フロッピーディスクのデータが壊れる場合があります。磁石など、強い磁気を帯びたものを近づけないでください。



6

CD-ROM を使う

CD-ROMドライブでは、CD-ROMの映像や音声、音楽CDを再生できます。また、パソコンのプログラムやデータの読み込みができます。

ここでは、CD-ROMドライブでお使いになれるディスクや、CD-ROMドライブの使いかたを説明します。

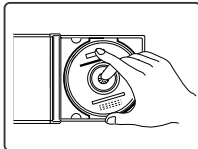
お使いになれる CD-ROM や音楽 CD

本パソコンでは、下図のマークがついた CD-ROM や音楽 CD(12cm、8cm) がお使いになれるます。

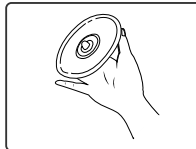


CD-ROM や音楽 CD 取り扱い上の注意

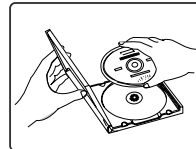
CD-ROM や音楽 CD をお使いになるときは、次の点にご注意ください。



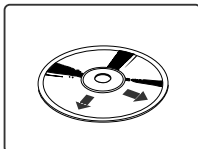
ケースからCD-ROMや音楽CDを取り出すときは、ケースの中央を押しながら取り出してください。



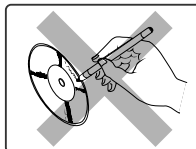
データ面（裏面）に触れないように、CD-ROMや音楽CDのふちを持つようになしてください。



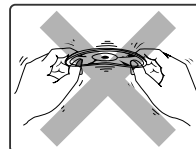
使わないときは、ケースに入れて保管してください。



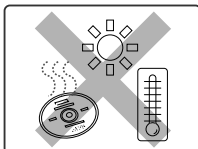
汚れたり水滴がついたりしたときは、乾いた柔らかい布で、中央から外側へ向かって拭いてください。



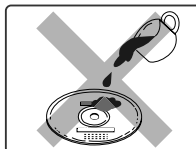
ラベルを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。また、傷をつけたりしないでください。



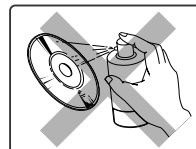
曲げたり、重い物をのせたりしないでください。



高温・低温の場所に保管しないでください。



コーヒーなどの液体をかけないでください。



ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。

アドバイス

CD-ROM が結露したときは

CD-ROMの表面に水滴が付いて、CD-ROMドライブがデータを読み出せないことがあります。このときは、乾いた柔らかい布でキズを付けないように水滴を拭いてから、自然乾燥させてください。ヘアードライヤーなどで乾燥させないでください。

CD-ROM や音楽CD をセットする / 取り出す

CD-ROM や音楽CD は、パソコンの電源が入っている状態のときにセットや取り出しができます。

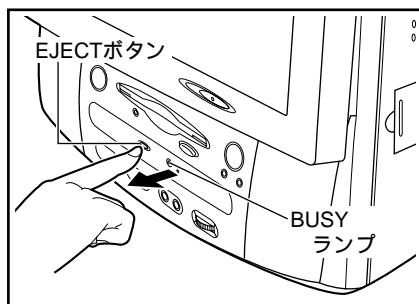
⚠ 注意



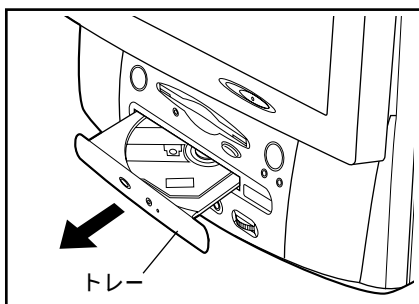
けが CD-ROM や音楽CD をセットまたは取り出すときは、CD-ROM ドライブのトレーに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

セットする

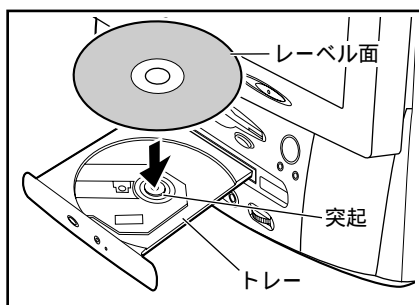
- 1 EJECT ボタンを押します。
CD-ROM や音楽CD をセットするトレーが少し出きます。



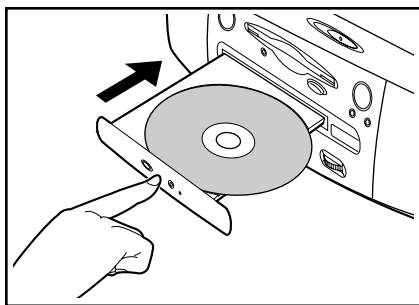
- 2 出てきたトレーの中央を持って、手で引き出します。



- 3 CD-ROM や音楽CD のレーベル面（印刷側）を上にして、トレー中央の突起に「カチッ」という音がするまではめ込みます。



- 4 トレーの中央部を押して、トレーを戻します。
トレーを「カチッ」という音がするまで手で静かに押し込んでください。
CD-ROM や音楽CD がセットされ、BUSYランプが点灯します。BUSYランプが消えたことを確認してから、次の操作に進んでください。



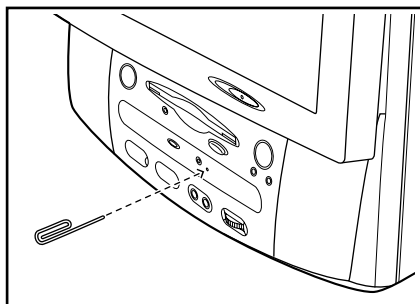
取り出す

- 1 CD-ROM を使っているアプリケーションがあれば終了します。
- 2 BUSY ランプが消えていることを確認し、EJECT ボタンを押します。
CD-ROM や音楽 CD がセットされたトレイが少し出てきます。
- 3 出てきたトレイを手で引き出し、CD-ROM や音楽 CD を取り出します。
トレイ中央の突起を押さえながら、CD-ROM や音楽 CD のふちを持ち上げてください。
- 4 トレーを戻します。
トレイを静かに「カチッ」という音がするまで手で押し込んでください。

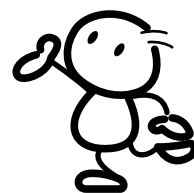
CD-ROM や音楽 CD が取り出せないときは

曲がりにくい針金(大きなクリップをのばしたものなど)をご用意のうえ、以下の手順でCD-ROM や音楽 CD を取り出してください。

- 1 パソコン本体の電源を切ります。
- 2 用意した針金を、CD-ROM ドライブの中央にある穴に差し込みます。
まっすぐに、少し力を込めて差し込んでください。
トレイが少し出てきます。



- 3 トレーを引き出して、CD-ROM や音楽 CD を取り出します。



7

お手入れのしかた

ここではパソコンを快適にお使いいただくために、パソコンのお手入れのしかたを説明します。お手入れのしかたは、ディスプレイ、マウス、フロッピーディスクドライブなど、各部によって異なります。それぞれの部分に合ったお手入れをしてください。

パソコン本体 / 液晶ディスプレイ / タッチパネル / キーボードのお手入れ

重要

お手入れ前に行うこと

感電やけがの原因となることがあるので、お手入れをする前に、次のことを必ず行ってください。

- パソコン本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- プリンタなどの接続されている機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。

通風孔（**▶P.4、5）にほこりが溜まらないように定期的に清掃してください。

汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどいときは、水または中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使って拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取るときは、パソコン本体、液晶ディスプレイやタッチパネル、キーボードに水が入らないよう十分に注意してください。

シンナーやベンジンなどの揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

マウスのお手入れ

重要

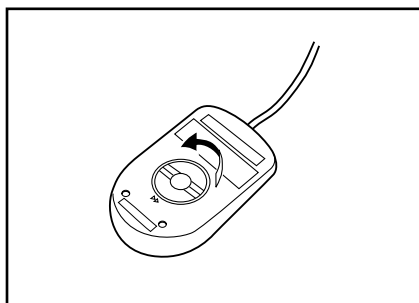
お手入れ前に行うこと

感電やけがの原因となることがあるので、お手入れをする前に、次のことを必ず行ってください。

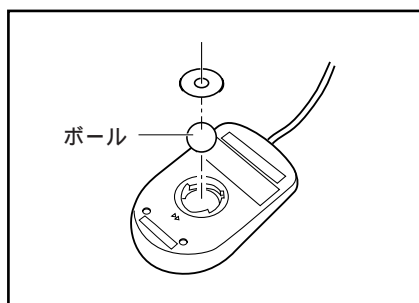
- パソコン本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- プリンタなどの接続されている機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。

表面の汚れは、乾いた布か、または水中性洗剤を含ませた布で軽く拭き取ってください。また、マウスの裏にあるボールが汚れていると、すべりが悪くなります。マウスのボールは、マウスから取り外してクリーニングできます。ボールのクリーニング方法は次のとおりです。

- 1 マウスの裏ボタンを、矢印の方向に回して取り外します。

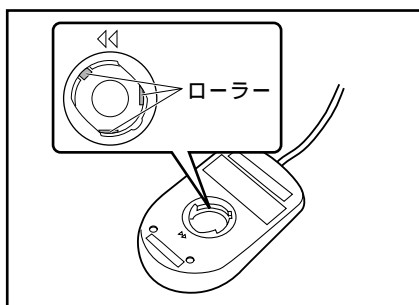


- 2 ボールを取り出して、水または中性洗剤で洗います。



- 3 ボールは洗ったあと、乾いた布でよく拭いて十分に乾かします。

- 4 ボールを乾かしている間に、マウス内部の汚れを拭き取ります。
水に浸して固く絞った布で、マウス内部および裏ボタンを拭きます。
ローラー部分は水で湿らせた綿棒などで拭いてください。



アドバイス

ゴミは完全に取り除いてください

ローラー部分にゴミがたまると、マウスが正常に動かない原因となることがあります。

- 5 ボールをマウスに戻し、裏ボタンを取り付けます。

フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクドライブは長い期間使っていると、ヘッド（データを読み書きする部分）が汚れてきます。ヘッドが汚れると、データを正常に読み書きできなくなります。別売りのクリーニングフロッピーをご購入になり、3ヶ月に1回はクリーニングを行ってください。

用意するもの

商品名 : クリーニングフロッピーマイクロ

商品番号 : 0212116

(富士通ピー・アンド・エス取り扱い品 お問い合わせ : 03-3434-0147)

お手入れのしかた

⚠ 注意



けが クリーニングフロッピーをセットまたは取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れしないでください。けがの原因となることがあります。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」にマウスポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックします。
「MS-DOS プロンプト」ウィンドウが表示されます。
- 2 「C:¥WINDOWS >」に続けて次のように入力し、**[Enter]**を押します。
c:¥fjuty¥clndsk 0
「clndsk」と「0」の間は を1回押してください。「0」は、数字のゼロです。
- 3 クリーニングフロッピーをフロッピーディスクドライブにセットし、**[Enter]**を押します。
「クリーニング中です。あとXX秒」と表示され、クリーニングがはじまります。
しばらくすると、「ヘッドクリーニングが終了しました。」と表示されます。
- 4 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えているのを確認し、クリーニングフロッピーを取り出します。
- 5 「MS-DOS プロンプト」ウィンドウ右上の **✕** (閉じるボタン) をクリックします。
「MS-DOS プロンプト」ウィンドウを全画面表示しているときは、**exit** と入力し、**[Enter]**を押してください。

CD-ROM ドライブのお手入れ

CD-ROM ドライブは長い期間使っていると、レンズ（データを読み出す部分）が汚れてきます。レンズが汚れると、データを正常に読み出せなくなります。別売りのCD-ROM クリーニングディスクをご購入になり、1ヶ月に1回はクリーニングを行ってください。

用意するもの

商品名 : CD-ROM クリーニングディスク

商品番号 : 0632410

(富士通ピー・アンド・エス取り扱い品 お問い合わせ : 03-3434-0147)

重要

お手入れには乾式のCD-ROM クリーニングディスクをお使いください

湿式のCD-ROM クリーニングディスクをお使いになると、故障の原因となることがあります。

お手入れのしかた

本パソコンの電源が入っている状態で行ってください。

⚠ 注意



けが CD-ROM クリーニングディスクをセットまたは取り出すときは、CD-ROM ドライブのトレイに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

- 1 CD-ROM クリーニングディスクの固定用のリングを取り除きます。
- 2 CD-ROM クリーニングディスクケースに付いている小型のブラシで、CD-ROM クリーニングディスク裏面の特殊清掃刷毛をそろえます。
- 3 EJECT ボタンを押してトレイを引き出し、CD-ROM クリーニングディスクの赤い三角マークを手前にしてトレイにセットします。
- 4 トレイを戻します。
クリーニングが始まります。このときコツコツと軽い音がしたり、ディスクの回転音が聞こえることがありますが、故障ではありません。
- 5 トレイを戻して約 20 秒間たったら、CD-ROM クリーニングディスクを取り出します。
- 6 CD-ROM クリーニングディスクの特殊清掃刷毛を、保管ケースのパッド面の穴に合わせて、正しく収納します。
- 7 トレイを戻します。

2

オプション機器を使うには

パソコンは、さまざまなオプション機器を接続して機能を拡張することができます。

お使いになる目的に応じて、オプション機器を取り付けてください。本章では、別売りのオプション機器を使うために必要な、接続や設定のしかたについて説明しています。

1. オプション機器を増設する前に	28
2. プリンタを接続する	31
3. 本体カバーを取り外す / 取り付ける	36
4. メモリを増やす	38
5. 拡張カードを増設する	43
6. ハードディスクを増設する	51
7. その他のオプション機器を使う	67

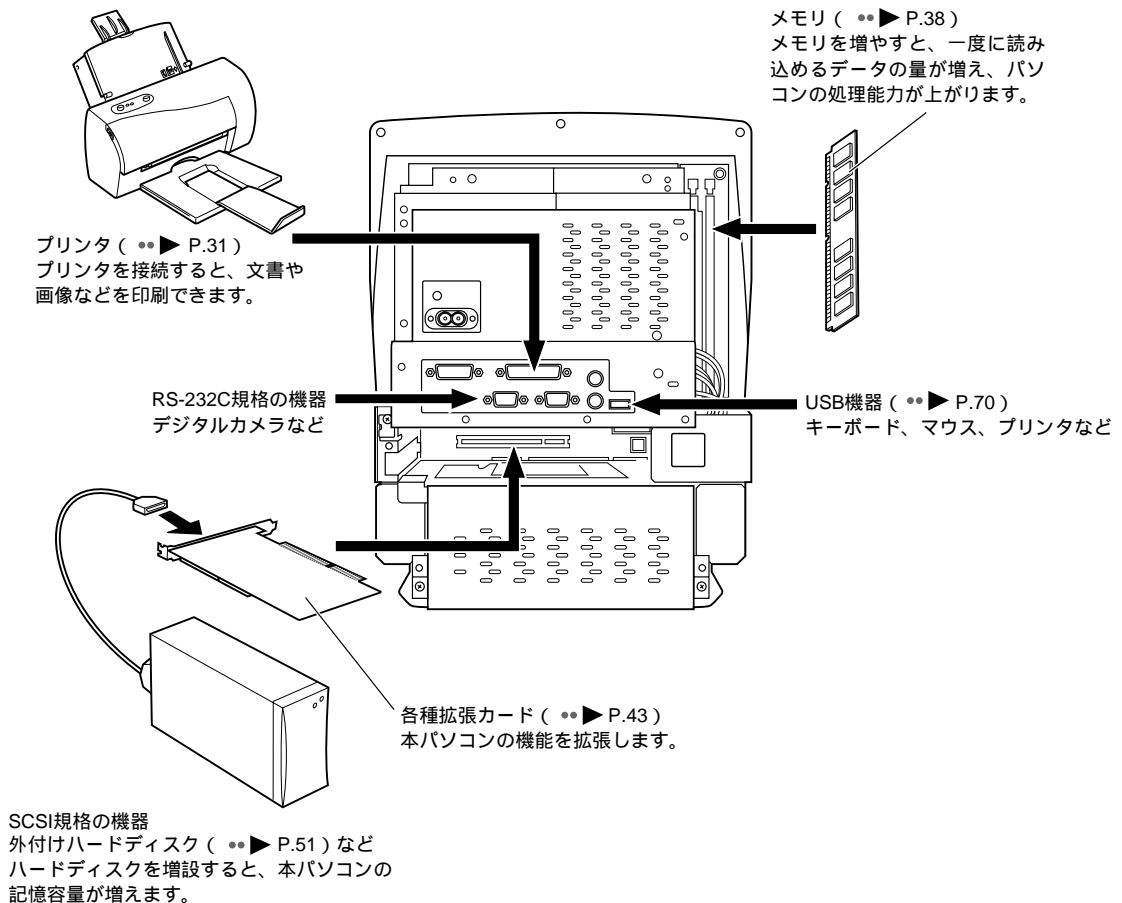
1

オプション機器を増設する前に

別売りのオプション機器を取り付けると、本パソコンの性能を上げたり、機能を付け加えたりできます。ここでは、本パソコンに取り付けられるオプション機器の種類や、オプション機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことなどを説明します。

取り付けられるオプション機器

取り付けられる主なオプション機器の種類と場所は以下のとおりです。



この他に、MO (光磁気ディスク) ドライブ、スキャナ、ターミナルアダプタなども取り付けられます。詳しくは、「その他のオプション機器を使う」(●▶ P.67)をご覧ください。

オプション機器の接続にあたって

ここでは、オプション機器を取り付ける前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明します。

本パソコンは「PC/AT 互換機」です

パソコンには、さまざまな規格のがあります。本パソコンは、「PC/AT(ピーシーエーティー)互換機」と呼ばれる規格のパソコンです。

本書では、オプション機器の接続について、PC/AT 互換機の特徴にそって説明しています。

オプション機器によっては設定作業が必要です

パソコンのオプション機器の中には、接続するだけでは使えないものがあります。このようなオプション機器は、接続したあとで設定作業を行う必要があります。

たとえば、プリンタや拡張カードを使うには、取り付けたあとに「ドライバのインストール」という設定作業が必要です。また、ハードディスクを増設したときは、取り付けたあとに「領域の設定」と「フォーマット」という設定作業が必要です。ただし、メモリなどのように、設定作業が必要ないオプション機器もあります。

用語 ドライバ

ドライバとは、パソコンに取り付けた機器を正しく扱うためのソフトウェアのことです。「デバイスドライバ」とも呼ばれます。

ドライバは、OSとオプション機器との仲立ちをします。パソコンのプログラムが実行しようとする命令を、オプション機器が理解できるように翻訳するのが役目です。

ドライバは、それぞれのオプション機器に対して専用のものがあります。メーカーや機種が違えばドライバも異なります。ほとんどのオプション機器には、ドライバがフロッピーディスクなどで添付されています。

用語 インストール

インストールとは、ソフトウェアをパソコンのハードディスクにコピーして、使える状態にする作業です。

ケーブルは専用です

オプション機器を接続するときを使うケーブルは、パソコンの規格に合わせた専用のものをお使いください。

本パソコンで使えるケーブルは、「PC/AT 互換機用」などと表示されたものです。さらに、プリンタをつなぐにはプリンタケーブルを使うというように用途も定まっています。

形状が同じように見えても、実際には規格が異なっていて使えない場合があります。また、ケーブルに使用されているコネクタの大きさによっても使えない場合があります。よく確かめてご用意ください。

オプション機器のマニュアルもご覧ください

本書で説明しているオプション機器の取り付け方法は一例です。オプション機器によっては、取り付け方法や設定作業などが異なる場合があります。オプション機器を取り付けるときは、本書とあわせてオプション機器のマニュアルも必ずご覧ください。


純正品をお使いください

接続するオプション機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします。

他社製品をお使いになる場合は、本パソコンで正しく動作することを製造元のメーカーにご確認ください。

取り付けるときの注意

オプション機器を取り付けるときは、次の点に注意してください。

- オプション機器は、Windows98のセットアップ(●▶『取扱説明書』)終了後に取り付けてください。Windows98のセットアップを行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われないおそれがあります。
- 一度に複数のオプション機器を取り付けしないでください。ドライバのインストールなどが正常に行われないおそれがあります。
- 作業を行う前に、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。内蔵オプション機器の取り付けや取り外しを行う場合は、電源を切ったあと10分ほど待ってから、作業を始めてください。
- 内部のケーブル類や装置を傷つけたり、加工したりしないでください。
- 内蔵オプション機器は、基板や電子部品がむきだしになっています。これらの部分は、人体にたまる静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- 基板表面やはんだ付けの部分、コネクタ部分に触れないように、金具の部分や基板のふちを持つようにしてください。
- 本書で説明している以外のオプション機器の取り付けや、分解を行った場合は、保証の対象外となります。

必要な工具

パソコン本体内部のスロットカバーなどを取り外すために、プラスのドライバーが必要です。

本パソコンで使われているネジは、「M3 ネジ」という規格のものです。ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズに合ったドライバーをお使いください。

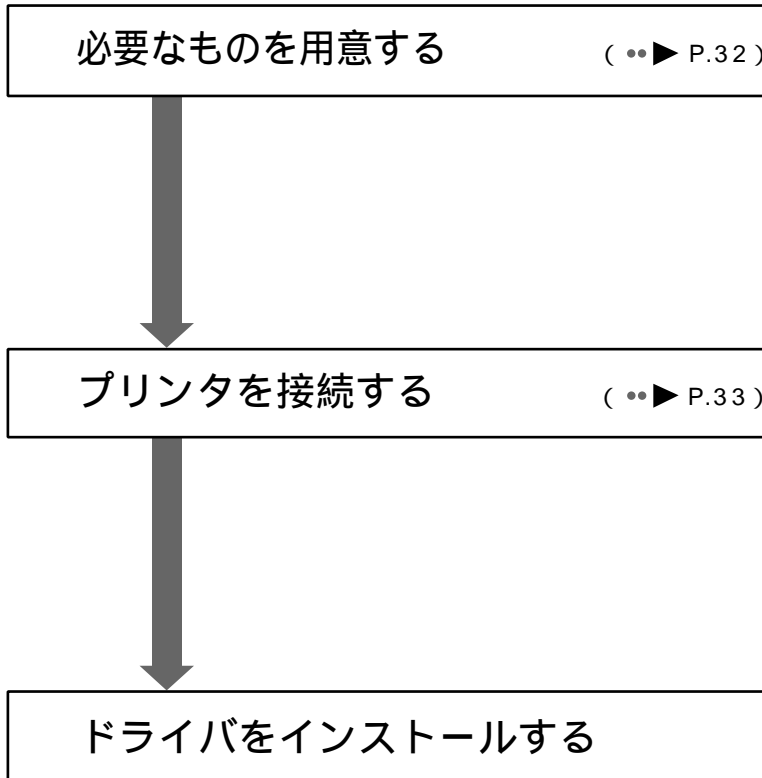
2

プリンタを接続する

プリンタを接続すると、文書や画像などを印刷できます。

プリンタを接続するまで

プリンタを接続するための作業の流れを説明します。

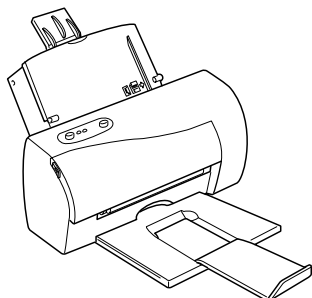


接続したプリンタを使えるように設定します（プリンタドライバをインストールします）。
詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。



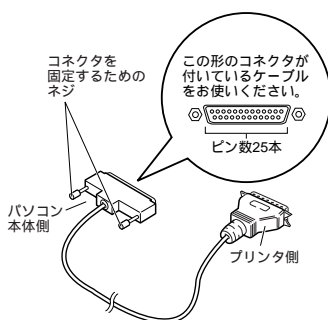
必要なものを用意する

プリンタを接続するには、次のものが必要です。



プリンタ

Windows98 で動作可能なものをご購入ください。

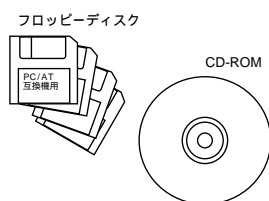


プリンタケーブル

プリンタとパソコンを接続するためのケーブルです。「PC/AT互換機用」などと記載されていて、コネクタが「D-SUB25ピン」で、ネジで固定する形のものをお使いください。

プリンタケーブルは、通常プリンタに添付されていません。別途ご購入ください。

また、USBケーブルで接続するプリンタもあります。



プリンタのドライバ

プリンタに添付されています。

プリンタドライバのフロッピーディスクが数枚添付されている場合は、「Windows98対応」「PC/AT互換機用」などと記載されたものをお使いください。



プリンタのマニュアル

CD-ROM で見るマニュアルもあります。

重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外のプリンタ、およびプリンタケーブルを取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

プリンタを接続する

ここでは、プリンタをパソコン本体の平行コネクタに接続する方法について説明します。
USB コネクタに接続するプリンタについては、「USB 機器を接続する」(●▶P.70) をご覧ください。

警告



プリンタの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電・火災または故障の原因となります。

注意



- プリンタケーブルは正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体およびプリンタが故障する原因となることがあります。
- プリンタ、およびプリンタケーブルは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外のプリンタ、およびプリンタケーブルをお使いになると、故障の原因となることがあります。

重要

プリンタは、Windows98 のセットアップ終了後に取り付けてください

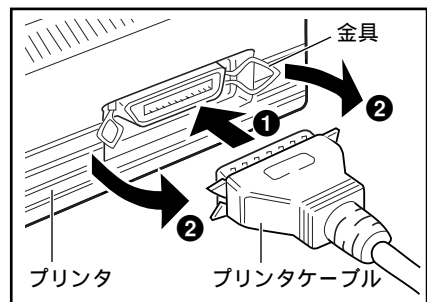
Windows98のセットアップ(●▶『取扱説明書』)を行う前に取り付けたら、Windows98のセットアップが正常に行われないおそれがあります。

プリンタのマニュアルもご覧ください

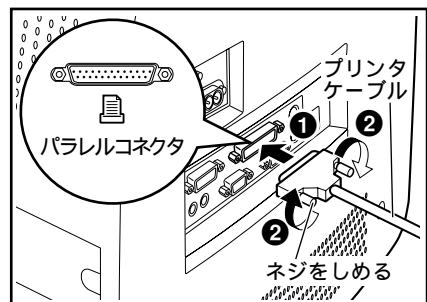
接続方法は、プリンタによって異なります。プリンタのマニュアルもあわせてご覧ください。

1 パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

2 プリンタ側のコネクタに、プリンタケーブルのネジが付いていないコネクタを接続します。
プリンタ側のコネクタとプリンタケーブルのコネクタは正面から見ると台形になっています。その形を互いに合わせて差し込んでください。
プリンタ側のコネクタの左右に金具が付いている場合は、金具でプリンタケーブルを固定してください。



3 パソコン本体背面の平行コネクタ(昌)に、プリンタケーブルのネジが付いているコネクタを接続します。
平行コネクタとプリンタケーブルのコネクタは正面から見ると台形になっています。その形を互いに合わせて、差し込んでください。
プリンタケーブルのコネクタの左右のネジをしめて、プリンタケーブルを固定してください。



- 4 プリンタに電源ケーブルを接続します。
プリンタに電源ケーブルがつながっている場合もあります。詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。
- 5 本パソコンおよび接続されている機器、プリンタの電源プラグを、コンセントに差し込みます。

初めて接続するプリンタの場合は、続いてプリンタの設定（プリンタドライバのインストール）を行う必要があります。プリンタのマニュアルをご覧ください。プリンタの設定を行ってください。プリンタのマニュアルに記載されている手順どおりに設定が進まない場合は、次のアドバイス「プリンタドライバのインストール時の注意」をご覧ください。

アドバイス

プリンタドライバのインストール時の注意

プリンタのマニュアルに「接続して電源を入れると自動的にドライバのインストールが始まります。」と記載されていても、お使いの環境によっては、プリンタのマニュアルに記載されている手順どおりに設定が進まないことがあります。そのときは、以下の手順でドライバをインストールしてください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「プリンタ」をクリックします。
- 2 「プリンタの追加」をクリックします。
「プリンタの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 3 画面の指示に従って、ドライバをインストールしてください。

Windows98のCD-ROMを要求するメッセージが表示されたときは

「OK」をクリックしてください。「ファイルのコピー」ウィンドウが表示されます。
「ファイルのコピー元」に `c:\windows\options\cabs` と入力し、「OK」をクリックしてください。

ご購入時のCD-ROMドライブはEです

CD-ROMからプリンタのドライバをインストールする場合に、CD-ROMドライブ名を指定するときは `e:\` と入力してください。

通常使うプリンタに設定してください

接続したプリンタは、通常使うプリンタに設定してください。

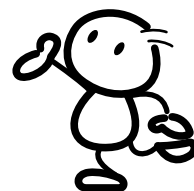
弊社製FMLBPシリーズのプリンタをお使いの場合

プリンタ側とパソコン側のモードが合っていないために、印刷が正常に行われず場合があります。その場合は以下の手順でモードを変更してください。

- 1 プリンタの操作パネルなどで、現在のプリンタのモードを調べます。
操作パネルについてはプリンタのマニュアルをご覧ください。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「プリンタ」をクリックします。
「プリンタ」ウィンドウが表示されます。
- 3 接続したプリンタのアイコンをクリックします。
プリンタのウィンドウが表示されます。
- 4 プリンタのウィンドウの「プリンタ」メニューの「プロパティ」をクリックします。
- 5 「現在のモード」タブをクリックします。
- 6 プリンタ側のモードと同じモードを選びます。
プリンタ側のモードがESC/Pモードの場合は「ESC/Pモード」、FMモードの場合は「FMモード」をクリックします。
- 7 「OK」をクリックします。

弊社製プリンタ「XJ-350 / XJ-550」をお使いのとき

- 本パソコンには、以下のプリンタドライバがあらかじめ用意されています。そのため、これらのプリンタをお使いになる場合は、プラグアンドプレイ(**▶ P.45)でプリンタが認識されたあとに、自動的にドライバのインストールが始まります。
XJ-350 : V1.0L10 XJ-550 : V1.0L10 (1999年2月現在)
 - プリンタドライバは、バージョンアップされることがあります。最新版のドライバは、パソコン通信やインターネットなどのオンライン情報サービスにてご案内します。
 - NIFTY SERVE 富士通FMシリーズ情報「FM INFO」(GO FMINFO でアクセスできます)
 - インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」(<http://www.fmworld.ne.jp>)
 - 最新版のドライバのインストールは、次の流れにそって行ってください。
 - 1 プリンタの電源を切ります。
 - 2 古いバージョンのドライバを削除します。
削除のしかたについては、プリンタのマニュアルをご覧ください。
 - 3 本パソコンを再起動します。
 - 4 Windows98 が起動したら、プリンタの電源を入れます。
 - 5 ダウンロードした最新版のドライバを、「プリンタの追加」でインストールします。本パソコンを再起動するときにプリンタの電源が入っていると、プラグアンドプレイが行われ、古いドライバが自動的にインストールされてしまいます。必ず、プリンタの電源を切ってから、本パソコンを再起動してください。
インストール方法などについて詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。
-



3

本体カバーを取り外す / 取り付ける

パソコン本体内部にオプション機器を取り付けるときは、本体カバーを取り外す必要があります。

⚠ 警告



感電

本体カバーを取り外すときまたは取り付けるときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。

感電・火災または故障の原因となります。



誤飲

取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。

万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

⚠ 注意



けが

本体カバーを取り外すときまたは取り付けるときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。

指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



けが

基板表面上の突起物には手を触れないでください。

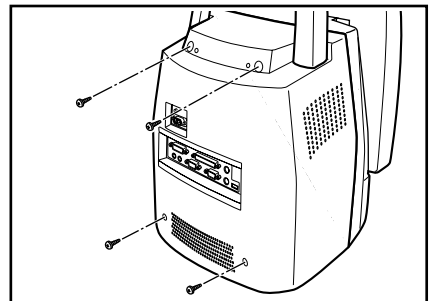
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

本体カバーを取り外す

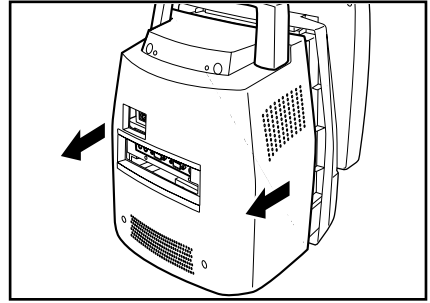
本体カバーは、次の作業を行うときに取り外します。

- メモリを取り付けるとき
- 拡張カードを取り付けるとき

- 1 パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2 取っ手を垂直に持ち上げます。
- 3 パソコン本体背面のネジ（4カ所）を外します。



- 4** 本体カバーを矢印の方向に取り外します。
パソコン本体背面に向けてスライドさせてください。



メモリを取り付ける場合

●▶ P.41

手順 2 へ



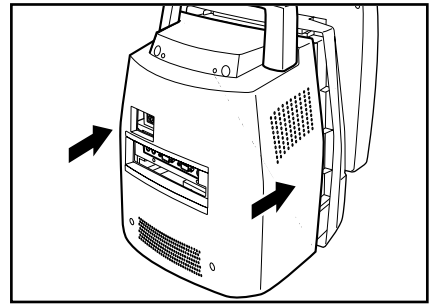
拡張カードを取り付ける場合

●▶ P.49

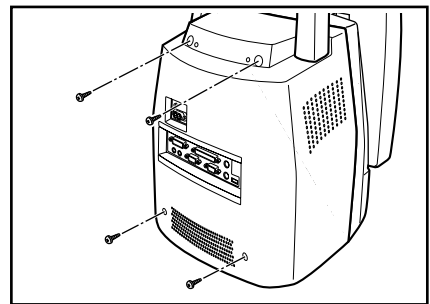
手順 2 へ

本体カバーを取り付ける

- 1** 本体カバーを取り付けます。
パソコン本体前面に向けてスライドさせます。



- 2** パソコン本体背面のネジ（4カ所）を取り付けます。



- 3** パソコン本体および接続されている機器の電源プラグを、コンセントに差し込みます。



メモリを取り付けた場合

●▶ P.42

アドバイス「メモリ容量を確認してください」へ



拡張カードを取り付けた場合

●▶ P.50

手順 6 へ

4

メモリを増やす

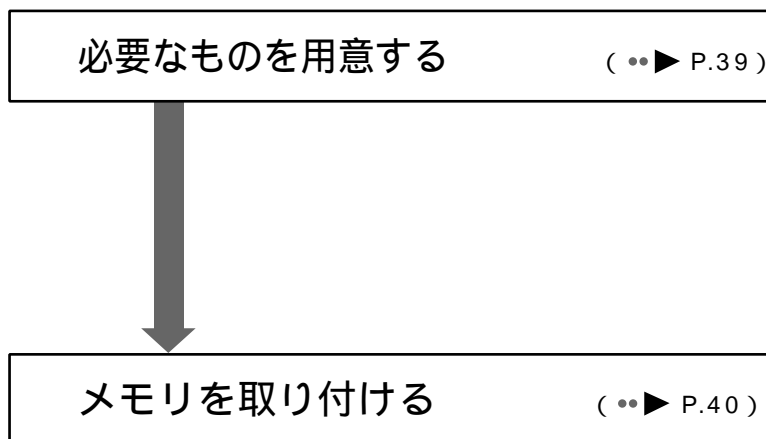
メモリを増やすと、一度に大きなデータを扱えるようになり、複数のアプリケーションを同時に起動するときなどにパソコンの処理が快適になります。

用語 メモリ

メモリは、CPUが処理するデータを一時的に記憶する装置です。パソコン本体に内蔵されています。

メモリを増やすまで

メモリを増やすための作業の流れを説明します。



メモリを取り付けたあと、取り付けたメモリが本パソコンで使える状態になっているかを確認してください(●▶ P.42)。

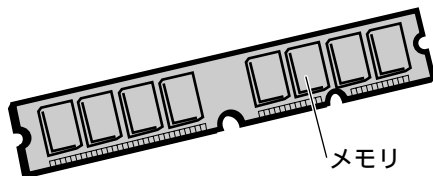


必要なものを用意する

お使いになれるメモリは、次のようなものです。

メモリ

- 種類…… SDRAM (エスディーラム)
DIMM (ディム) XSPD 付き)
- ピン数… 168 ピン
- 容量…… 32MB (メガバイト) 64MB
- ECC …… なし



重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外のメモリを取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

用語 SPD (エスピーディー)

SPD は、Serial Presence Detect の略で、メモリの機能のひとつです。

必ず SPD 付きのメモリをご購入ください。なお、弊社製の SDRAM は、SPD 付きです。

用語 ECC (イーシーシー)

ECC は、Error Correcting Code の略で、データの中の誤りを検出し、訂正する機能のことです。

本パソコンでは、この機能は使いません。

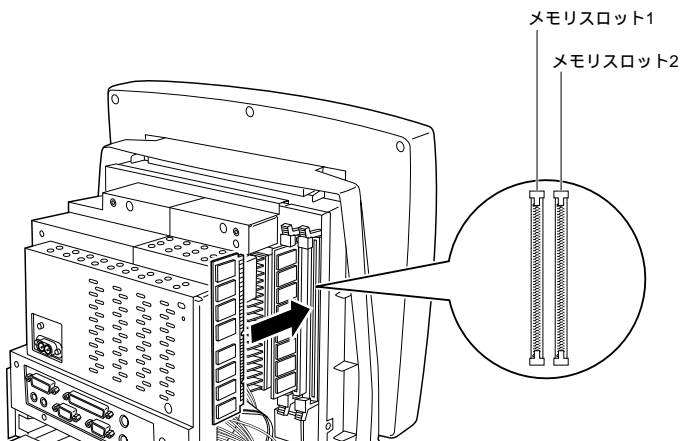
メモリの取り付け場所

メモリは、パソコン本体内部のメモリスロットに取り付けます。

本パソコンのご購入時は、メモリスロット 1 に 64MB のメモリが 1 枚取り付けられています。

メモリ容量を増やすには、メモリスロット 2 に、新たにメモリを取り付けます。

メモリは最大 128MB (64MB × 2 枚) まで増やせます。



メモリの組み合わせ表

次の表で、メモリの容量とメモリスロットの組み合わせを確認してください。表以外の組み合わせにすると、本パソコンが正常に動作しない場合があります。

総容量	メモリスロット1 (DIMM1)	メモリスロット2 (DIMM2)
64MB(ご購入時)	64MB	なし
96MB	64MB	32MB
128MB(最大)	64MB	64MB

メモリを取り付ける

警告



メモリの取り付けまたは交換を行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電・火災または故障の原因となります。

注意



メモリの取り付けまたは交換を行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。

指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



基板表面上の突起物には手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- メモリは、弊社純正品をお使いください。純正品以外のメモリをお使いになると、故障の原因となることがあります。
- メモリを取り付けるときは、メモリの差し込み方向をお確かめのうえ、確実に差し込んでください。誤ってメモリを逆方向に差したり、差し込みが不完全だったりすると、故障の原因となることがあります。

重要

メモリは、Windows98のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows98のセットアップ(●▶☐『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われないおそれがあります。

電源を切ってから10分ほど待ってください

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。メモリを取り付けるときは、電源を切ったあと10分ほど待ってから、作業を始めてください。

放電してから作業してください

メモリは人体にたまる静電気によって悪影響を受けます。取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れて静電気を放電してください。

メモリは何度も抜き差ししないでください

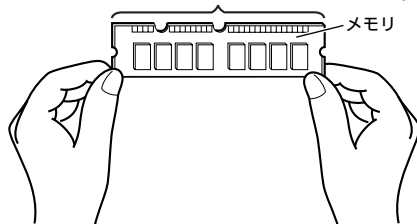
故障の原因となることがあります。

アドバイス

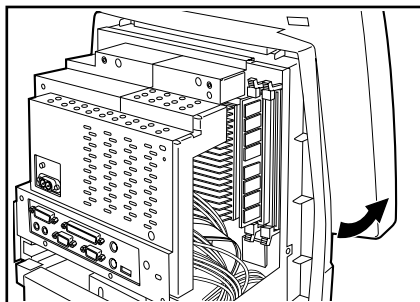
メモリの持ちかた

メモリは右図のようにふちを持ってください。
金色の線が入っている部分(端子)には、絶対に手を触れないでください。

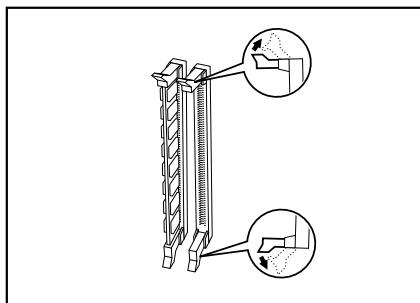
この部分には手を触れないでください。



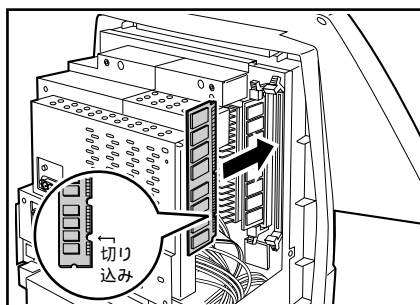
- 1 「本体カバーを取り外す」(●▶ P.36) をご覧になり、本体カバーを取り外します。
- 2 液晶ディスプレイの下部を引き出します。



- 3 メモリを取り付けるメモリスロットの両側のレバーを外側に開きます。
メモリの取り付け場所については、「メモリの取り付け場所」(●▶ P.39) と「メモリの組み合わせ表」(●▶ P.40) をご覧ください。



- 4 メモリをメモリスロットに差し込みます。
端子に切り込みが入っている方を下側に向けて、メモリスロット正面からまっすぐに差し込んでください。メモリがメモリスロットに差し込まれると、スロット両側のレバーが自動的に閉じて、メモリがロックされます。
必ず、メモリがロックされたことを確認してください。



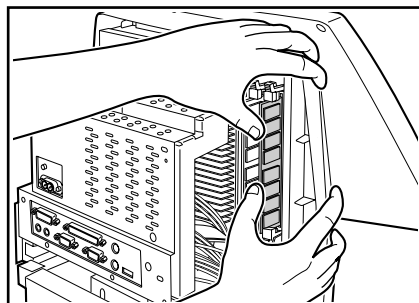
重要

メモリの方向をよく確認して正しく差し込んでください
無理に差し込むと故障の原因となります。

アドバイス

メモリを差し込むときは

右図のように、液晶ディスプレイとパソコン本体の間に手を入れ、メモリをしっかりと押し込んでください。





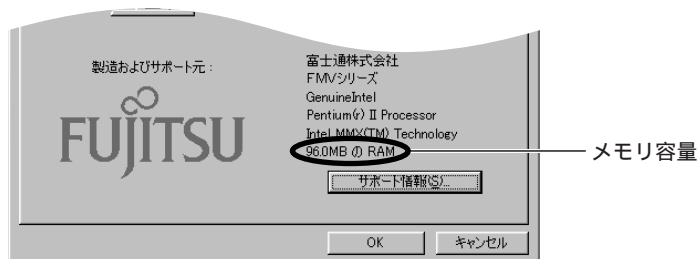
- 5 「本体カバーを取り付ける」(●▶P.37)をご覧になり、本体カバーを取り付けます。

アドバイス


メモリ容量を確認してください

メモリを取り付けたあと、増やしたメモリが本パソコンで使える状態になっているかを確認してください。必ず、本体カバーを取り付けてから確認作業を行ってください。

- 1 パソコン本体の電源を入れます。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 3  (システム) をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4  で囲んだ部分の数値が、増やしたメモリの分だけ増えているかを確認します。



画面は、32MBのメモリを増設して、96MBに増やした例です。
お使いのシステム構成によっては1MB少なく表示される場合があります。

- 5 「OK」をクリックします。
- 6 「コントロールパネル」ウィンドウ右上の  (閉じるボタン) をクリックします。

数値が増えていないときは

メモリ容量の数値が増えていなかった場合は、次のことを確認してください。

- 増やしたメモリが本パソコンで使える種類のものか
 - ▶「必要なものを用意する」(P.39)
- メモリがメモリスロットにきちんと差し込まれているか
 - ▶「メモリを取り付ける」(P.40)
- 正しいスロットに取り付けているか
 - ▶「メモリの取り付け場所」(P.39)
- メモリを正しく組み合わせているか
 - ▶「メモリの組み合わせ表」(P.40)

電源を入れても何も表示されないときは

メモリが正しく取り付けられていないと、本パソコンの電源を入れたとき画面に何も表示されない場合があります。その場合は、電源スイッチを4秒以上押し続けて本パソコンの電源を切り、メモリを取り付け直してください。

5

拡張カードを増設する

拡張カードを使うと、パソコンにさまざまな機能を追加できます。

拡張カードを増設するまで

拡張カードを増設するための作業の流れを説明します。

必要なものを用意する

(●▶ P.46)

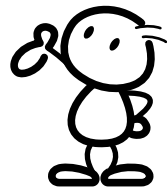
本パソコンで使える拡張カードについて理解したあと、必要なものを用意してください。

拡張カードを取り付ける

(●▶ P.47)

ドライバをインストールする

拡張カードによっては、自動的にドライバのインストールが行われます。

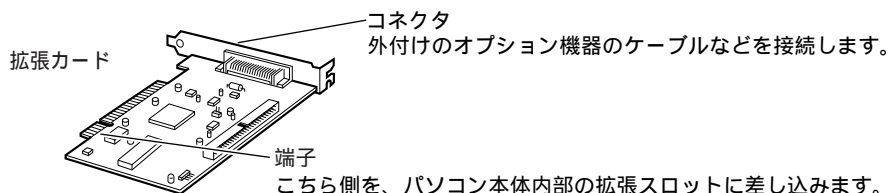


拡張カードを取り付ける前に

ここでは、本パソコンに取り付けられる拡張カードにはどのようなものがあるか、拡張カードを取り付けるのに必要なものや、必要な作業について説明します。

拡張カードとは

「拡張カード」は、パソコン本体内部に取り付けて、いろいろな機能を追加するためのものです。



コラム

代表的な拡張カードの種類

代表的な拡張カードには、以下のものがあります。

- SCSI カード
SCSI 規格の外付けハードディスクや MO (光磁気ディスク) ドライブなどを接続するときに必要な拡張カードです。外付けハードディスクについて詳しくは「ハードディスクを増設する」(▶P.51)をご覧ください。
- モデムカード
パソコン通信、インターネット、FAX 送受信などを行うときに必要な拡張カードです。また、ボイス機能を備えているモデムカードは、留守番電話として使うこともできます(専用のソフトウェアが必要です)。本パソコンには、ご購入時にあらかじめ FAX / ボイスモデムカードが取り付けられています。
- LAN カード
複数台のパソコンやプリンタなどを接続し、データを転送したり共有したりするときに必要な拡張カードです。LAN カードでパソコンやプリンタを接続するには、LAN ケーブルなどの LAN 機材も必要となります。
- PC カードスロット
PC カードを本パソコンでお使いになるときに必要な拡張カードです。PC カードはパソコン本体側面にセットできます。
- ビデオキャプチャカード
ビデオの画像をパソコンのディスプレイに表示したり、ビデオの画像をパソコンにデータとして取り込んで加工できるようにしたりする拡張カードです。カードによって、静止画だけを扱えるものと、静止画と動画の両方を扱えるものがあります。

お使いになれる拡張カード

拡張カードには、いくつかの規格があります。本パソコンでは、「PCI（ピーシーアイ）」という規格に対応した拡張カードが使えます。

拡張カードは、パソコン本体内部の「拡張スロット」に取り付けます。本パソコンの拡張スロットは、PCI規格のスロットです。

拡張カードは本パソコンの空いている拡張スロットに増設できます。

また、拡張カードの大きさには、大きく分けて「フルサイズ」と「ハーフサイズ」があります。本パソコンでは、ハーフサイズの拡張カードのみ増設できます。

拡張スロット	空き状況	取り付け可能なサイズ
PCI1	FAX / ボイスモデムカードを搭載済み	—
PCI2	空き	ハーフサイズ（176.41mmまで）

拡張カードを増設するには

拡張カードには、「プラグアンドプレイ」というしくみに対応しているものと、対応していないものがあります。本パソコンで使える PCI 拡張カードはプラグアンドプレイに対応しています。

プラグアンドプレイに対応している PCI 拡張カードを増設するときは、拡張スロットに拡張カードを取り付けて、ドライバをインストールするだけで使えるようになります。

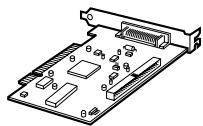
お使いになる拡張カードが必要とする IRQ（割り込み要求）が、本パソコンの空いている IRQ に設定できない場合は、拡張カードを取り付ける前に設定が必要です。詳しくは、「IRQを解放する」（**▶P.105）をご覧ください。

用語 プラグアンドプレイ（Plug&Play/PnP）

プラグアンドプレイとは、パソコン本体に接続される機器の設定を自動化するためのしくみのことです。特別な設定をしなくても、拡張カードやその他のオプション機器を接続しただけで使えるようにします。Windows98はプラグアンドプレイに対応しています。

必要なものを用意する

拡張カードを増設するには、次のものがが必要です。

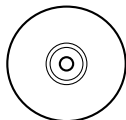


PCI 拡張カード

フロッピーディスク

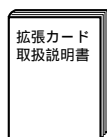


CD-ROM

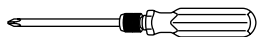


拡張カードのドライバ

拡張カードによっては、添付されていないこともあります。



拡張カードのマニュアル



プラスのドライバー

重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外の拡張カードを取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

ディスプレイ関係の拡張カードはお使いになれません

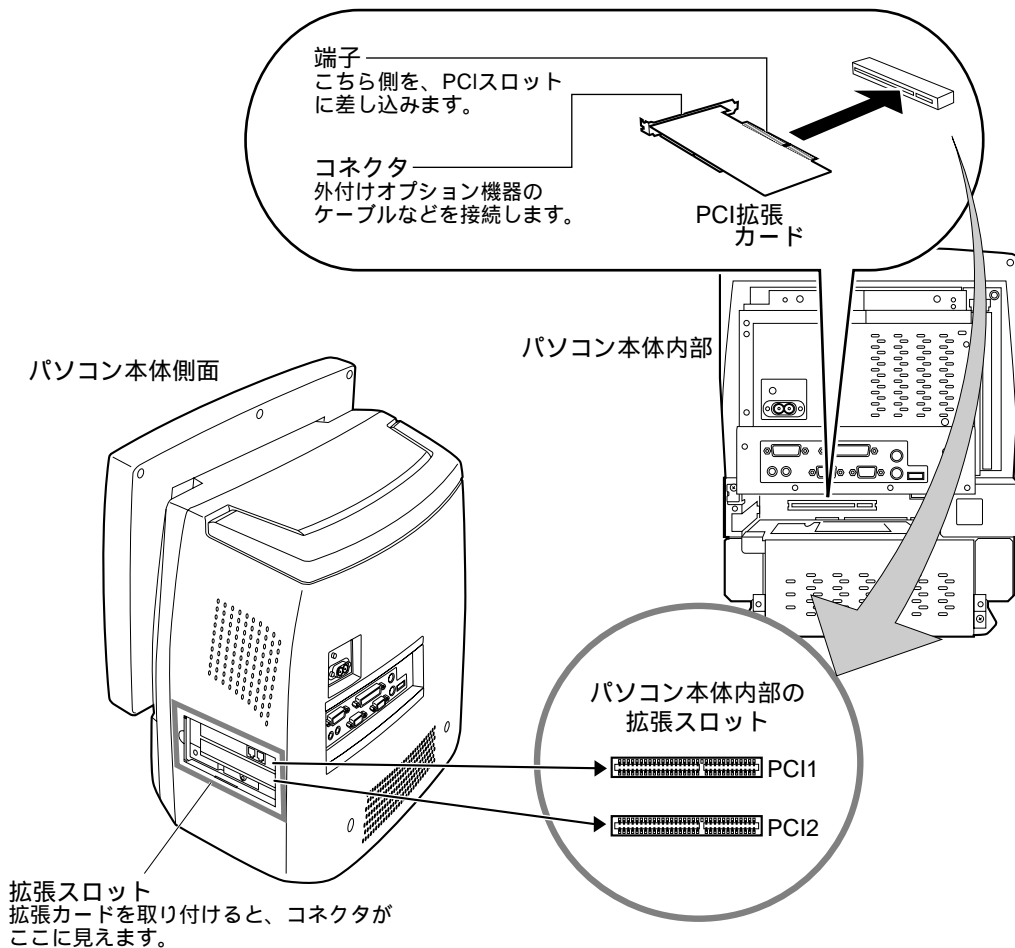
本パソコンでは、PCIグラフィックアダプタなどのディスプレイ関係のPCI拡張カードに対応していません。

拡張カードを取り付ける

ここでは、拡張カードを取り付ける位置と取り付け方法について説明します。

拡張スロットの位置

拡張カードは、パソコン本体内部の拡張スロットに取り付けます。



拡張スロットは、上から順に PCI1、PCI2 となっています。

本パソコンでは、PCI2 にハーフサイズの PCI 拡張カードのみ増設できます。

取り付ける

警告

感電 拡張カードの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電・火災または故障の原因となります。

誤飲 取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

注意

けが 拡張カードの取り付けや取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。
また、故障の原因となることがあります。

けが 基板表面上の突起物、および指定されたスイッチ以外には手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

故障 拡張カードは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外の拡張カードをお使いになると、故障の原因となることがあります。

重要

拡張カードは、Windows98のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows98のセットアップ(●▶ 『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われないおそれがあります。

電源を切ったあと10分ほど待ってください

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。
拡張カードを取り付けるときは、電源を切ったあと10分ほど待ってから、作業を始めてください。

拡張カードはしっかりと差し込んでください

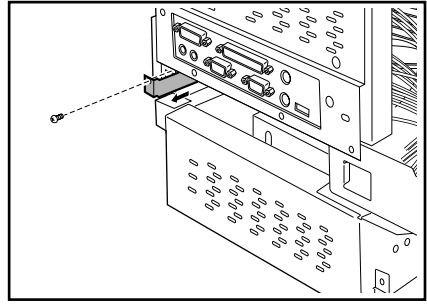
拡張カードを取り付けるときは、拡張カードが拡張スロットに完全に差し込まれていることを確認してください。
完全に差し込まれていないと、拡張カードのドライバのインストールが正常に行われなかったり、故障の原因となることがあります。

確認

SCSIカードを取り付けるときは

SCSIカードのSCSI IDは7番に設定してください(通常、SCSIカードは7番に設定されています)。詳しくは、SCSIカードのマニュアルでご確認ください。

- 1 「本体カバーを取り外す」(●▶P.36) をご覧になり、本体カバーを取り外します。
- 2 ネジ(1カ所) を外して、スロットカバーを取り外します。



アドバイス

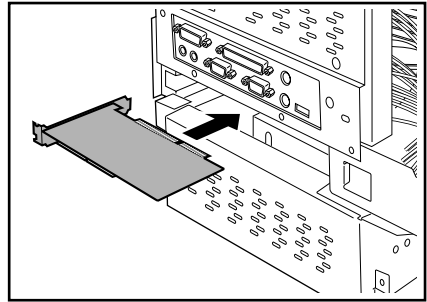
スロットカバーは保管してください

取り外したスロットカバーは捨てずに保管してください。拡張カードを取り外した場合は、スロットカバーを取り付けてください。



スロットカバー

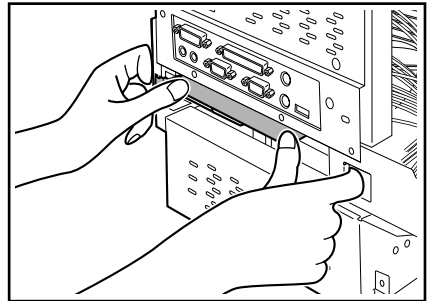
- 3 拡張スロットに、拡張カードを差し込みます。拡張カードの端子を、拡張スロットの奥まで完全に差し込んでください。



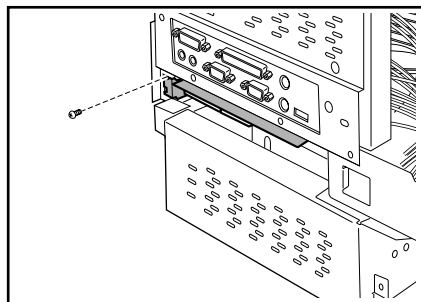
アドバイス

拡張カードを差し込むときは

右図のように、拡張スロットの隣にある金具に指をかけ、拡張カードをしっかりと押し込んでください。



- 4** 手順2で外したスロットカバーのネジ（1カ所）で、拡張カードを固定します。
ネジは固くしめすぎないようにしてください。



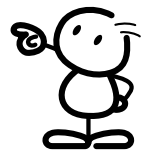
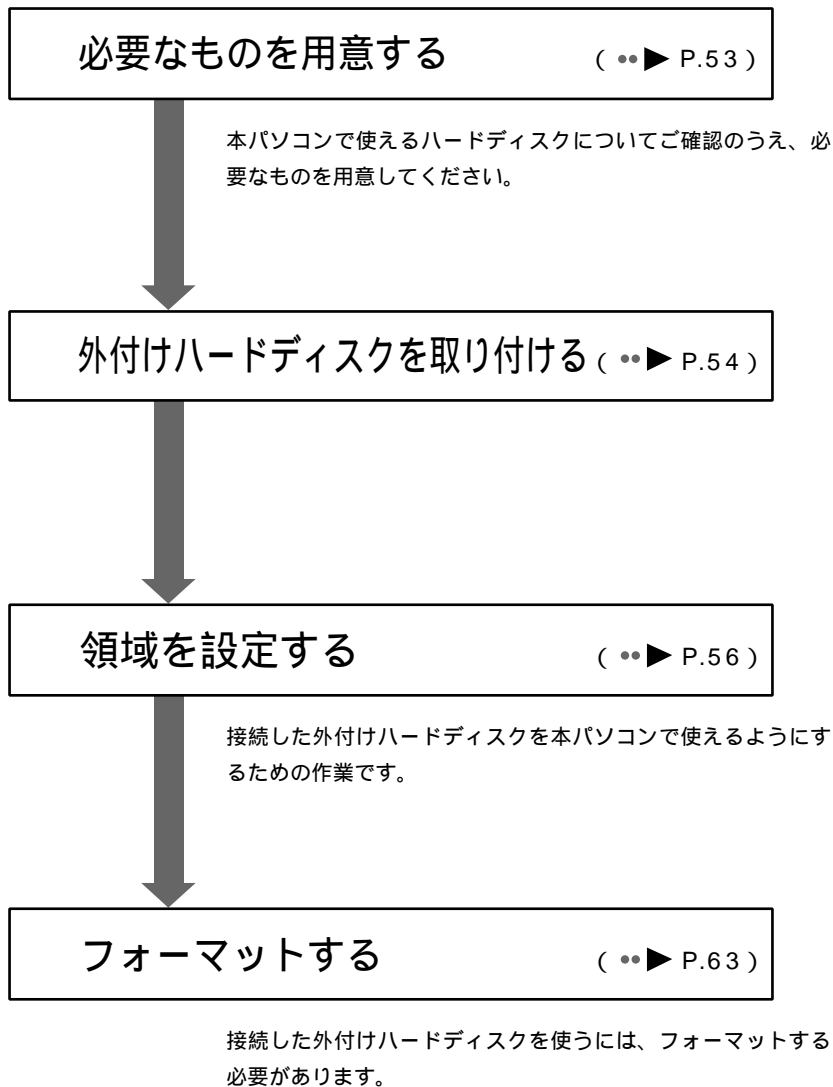
- 5** 「本体カバーを取り付ける」(●▶P.37) をご覧になり、本体カバーを取り付けます。
- 6** パソコン本体の電源を入れ、拡張カードのマニュアルをご覧になり、画面の指示に従ってドライバをインストールしてください。または、自動的にドライバがインストールされる場合もあります。
- 拡張カードにフロッピーディスクやCD-ROMが添付されている場合、パソコン本体の電源を入れると、「フロッピーディスクやCD-ROMをセットしてください」というメッセージが表示されることがあります。画面の指示に従ってフロッピーディスクまたはCD-ROMをセットし、ドライバをインストールしてください。

ハードディスクを増設する

本パソコンにはあらかじめ IDE 規格のハードディスクが 1 台内蔵されています。
さらに、SCSI カードを使って SCSI 規格の外付けハードディスクを増設できます。

ハードディスクを増設するまで

ハードディスクを増設するための作業の流れを説明します。



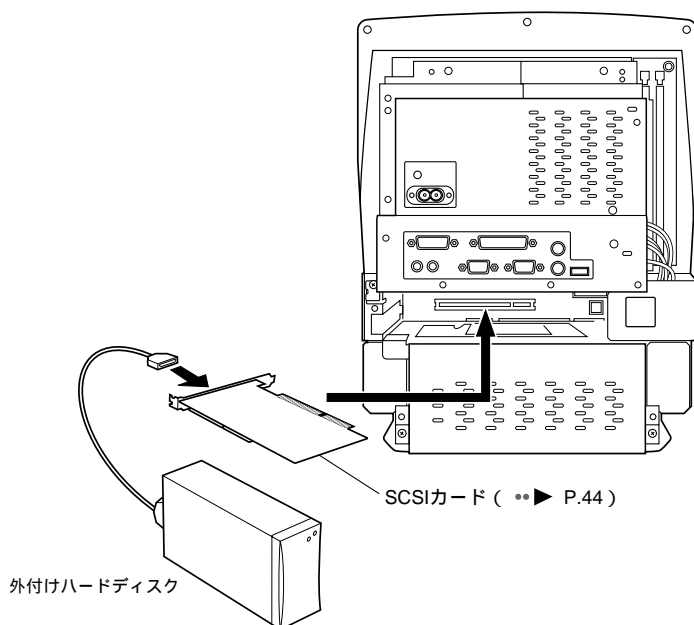
ハードディスクを取り付ける前に

ここでは、本パソコンに取り付けられるハードディスクにはどのようなものがあるか、ハードディスクを取り付けるのに必要なもの、必要な作業について説明します。

お使いになれるハードディスク

本パソコンでは、SCSI 規格の外付けハードディスクを増設できます。

SCSI 規格のハードディスクを使うには、SCSI カードという拡張カードが必要です。



用語 SCSI (スカジー)

機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI 規格の機器には、ハードディスクのほかに、スキャナや MO ドライブなどがあります。

用語 IDE (アイディーイー)

ハードディスクや CD-ROM ドライブなどの内蔵ドライブの規格のひとつです。マザーボード上にコネクタがあるため、拡張カードなどを使わずに、内蔵ドライブを接続できます。

本パソコンにあらかじめ内蔵されているハードディスクはこの規格です。

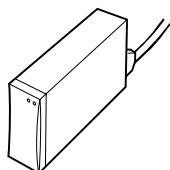
必要なものを用意する

外付けハードディスクを取り付けるときには、次のものがが必要です。

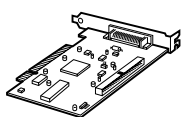
重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

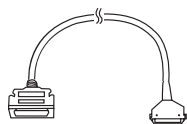
純正品以外の外付けハードディスク、SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗を取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。



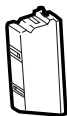
SCSI規格の外付けハードディスク
本パソコンにはSCSI規格の外付けハードディスクが取り付けられません。
内蔵ハードディスクはお使いになれません。



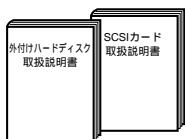
SCSIカード（●▶P.44）
SCSI規格の外付けハードディスクを取り付けるときに必要な拡張カードです。



SCSIケーブル
SCSIカードと外付けハードディスクをつなぐために必要なケーブルです。SCSI規格のコネクタには数種類あります。ご使用になるSCSIカードと外付けハードディスクに合ったものを、よくご確認のうえご購入ください。



終端抵抗（ターミネータ）
電気信号が、SCSIケーブルを正しく伝わるようにするためのものです。詳しくは下の「コラム」をご覧ください。
終端抵抗は、3つ以上取り付けたり有効にしたりしないでください。



外付けハードディスクとSCSIカードのマニュアル

コラム

終端抵抗（ターミネータ）

SCSI規格のオプション機器は数珠つなぎに接続できます。その際、両端となる機器にそれぞれ終端抵抗を取り付ける必要があります。

たとえば、SCSI規格の外付けハードディスクを1台増設した場合は、SCSIカードと外付けハードディスクが両端となります。

SCSIカードには、通常、終端抵抗が内蔵されていますので、終端抵抗を新たに取り付ける必要はありません。

外付けハードディスクには、別売りの終端抵抗を取り付けます。SCSI規格のコネクタは数種類あります。コネクタの形状をご確認のうえご購入ください。

続いて、外付けハードディスクを取り付けます。次ページの「外付けハードディスクを取り付ける」をご覧ください。

外付けハードディスクを取り付ける

警告



外付けハードディスクの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行なってください。

感電の原因となります。



取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。

万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

注意



- ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体が故障する原因になることがあります。

- 外付けハードディスクは、弊社純正品をお使いください。純正品以外の外付けハードディスクをお使いになると、故障の原因となることがあります。



外付けハードディスクの取り付けを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。

指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

重要

SCSIカードと外付けハードディスクは、Windows98のセットアップ終了後に取り付けてください。Windows98のセットアップ(**▶『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われずおそれがあります。

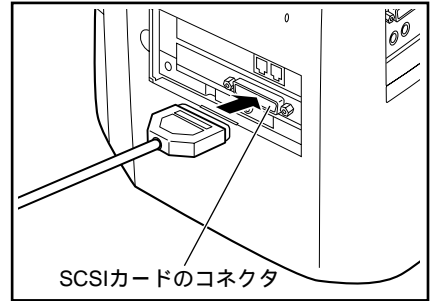
- 1 外付けハードディスクとSCSIカードのSCSI IDを設定します。
SCSI規格では複数の機器を接続できます。それらの機器を区別するために付ける番号が「SCSI ID」です。SCSI IDは0から7番までの番号があります。
SCSIカードのSCSI IDは7番に設定してください(通常、SCSIカードはあらかじめ7番に設定されています)。
外付けハードディスクのSCSI IDは、それ以外の番号(0~6番)を設定してください。
設定のしかたについては、SCSIカードと外付けハードディスクのマニュアルをご覧ください。
- 2 SCSIカードを取り付けます。
取り付けかたなどについて詳しくは、「拡張カードを増設する」(**▶P.43)をご覧ください。
- 3 パソコン本体側面からカバーを取り外します。

アドバイス

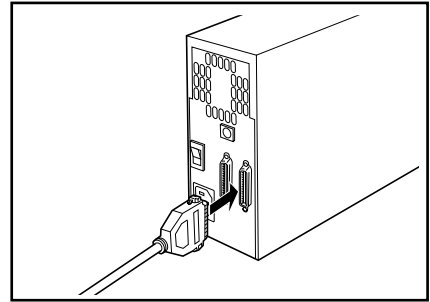
カバーは保管してください

取り外したカバーは捨てずに保管してください。

- 4** SCSIカードのコネクタにSCSIケーブルを接続します。
SCSIケーブルの片方のコネクタを、パソコン本体側面にあるSCSIカードのコネクタに接続します。



- 5** 外付けハードディスクのINコネクタに、SCSIケーブルのもう片方のコネクタを接続します。

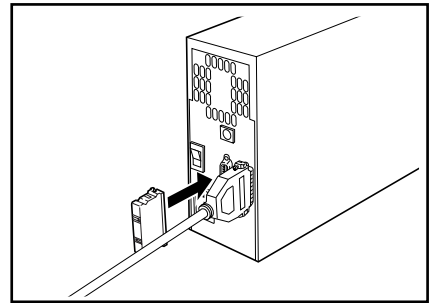


アドバイス

コネクタにIN/OUTの指定がないときは

外付けハードディスクによってはコネクタにIN/OUTの指定がないものもあります。そのときは、どちら側に接続してもかまいません。

- 6** 外付けハードディスクに終端抵抗を取り付けます。
外付けハードディスクのOUTコネクタに終端抵抗を取り付けます。



- 7** 外付けハードディスクに電源ケーブルを接続します。
外付けハードディスクに電源ケーブルが繋がっている場合もあります。詳しくは、外付けハードディスクのマニュアルをご覧ください。
- 8** 本パソコンと、接続されている機器、接続した外付けハードディスクの電源プラグをコンセントに差し込みます。

続いて、領域の設定を行います。次ページの「領域を設定する」をご覧ください。

領域を設定する

初めて外付けハードディスクを取り付けたときは、取り付けたあとにハードディスクの領域を設定します。領域の設定は、増設したハードディスクを使えるようにするための作業です。

また、この作業では、増設したハードディスクをいくつかの領域に分けることもできます。領域を分けると、それぞれの領域が1つ1つのドライブになります。たとえば、増設したハードディスクを2つの領域に分けると、2つのドライブができ、1台のハードディスクが2台のハードディスクであるかのように扱えます。

増設したハードディスクの領域を分けるか分けないかは、使いやすいほうを選んでください。

ここでは、外付けハードディスクを1台増設した場合の領域の設定のしかたを説明します。使っていたハードディスクの領域を設定し直す場合は、「アドバイス」(●▶P.61)をご覧ください。領域を削除してからこの作業を行ってください。

重要

ドライブ名が変更されます

外付けハードディスクを増設して本書の手順に従って領域の設定を行うと、Eドライブ以降(基本MS-DOS領域を作成する場合はDドライブ以降)のドライブ名が変更されます。CD-ROMドライブのドライブ名も変更されます。詳しくは、「コラム」(●▶P.62)をご覧ください。

お使いのソフトウェアによっては、ドライブ名の修正が必要になることがあります。詳しくは、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

保存されていたデータが失われます

ハードディスクの領域を設定し直すと、そのハードディスクに保存されていたデータは失われてしまいます。使っていたハードディスクの領域を設定し直すときは、フロッピーディスクや他のハードディスクなどにバックアップをとるなどしてから、領域を設定してください。

確認

常駐しているアプリケーションを終了してください

領域を設定する前に、常駐しているアプリケーション(「らんらんチャチャチャ」や「AUV」など、タスクバーにアイコン表示されているアプリケーション)やスクリーンセーバーを終了させてください。

- 1 外付けハードディスクと、パソコン本体の電源を入れます。
パソコン本体の電源を入れる前に、外付けハードディスクの電源を入れてください。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」にマウスポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックします。
- 3 C:¥WINDOWS> に続けて `fdisk` と入力して、`[Enter]` を押します。

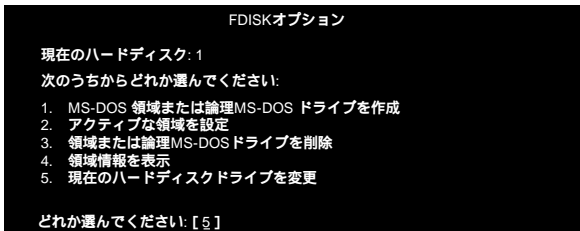
```
Microsoft(R)Windows 98
(C)Copyright Microsoft Corp 1981-1998.
C:¥WINDOWS>fdisk
```

4 **[Y]** を押して、**[Enter]** を押します。

512MB以上のディスクがあります。このバージョンのWindowsでは、大容量のディスクのサポートが強化され、ディスク領域を有効に使えるようになりました。2GB以上のドライブを1つのドライブとしてフォーマットできます。

重要：大容量ディスクのサポートを使用可能にして、このディスクに新しいドライブを作成した場合、ほかのオペレーティングシステムを使ってこの新しいドライブにアクセスすることはできません（Windows 95とWindows NTの特定のバージョン、以前のバージョンのWindowsとMS-DOSを含む）。また、FAT32ファイルシステム用に設計されていないディスクユーティリティは、正常に動作しません。このディスクでほかのオペレーティングシステムや以前のディスクユーティリティにアクセスする必要がある場合、大容量ドライブのサポートは使用しないでください。

大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N) ? [Y]

5 **[5]** を押して「5.現在のハードディスクドライブを変更」を選び、**[Enter]** を押します。**アドバイス**

「5.現在のハードディスクドライブを変更」が表示されていないときは

領域の設定を中断し、次のことを確認してください。領域の設定を中断するには、手順 16、18、19（**▶P.60）を行ったあと、「電源を切れる状態にする」をクリックし、「OK」をクリックします。

- 外付けハードディスクが正しく接続されているか
- 外付けハードディスクの電源が入っているか

確認したあと、再び手順 1（**▶P.56）から操作し直してください。

上記のことを確認しても「5.現在のハードディスクドライブを変更」が表示されないときは、増設した外付けハードディスクを Windows 98 が認識していない可能性があります。

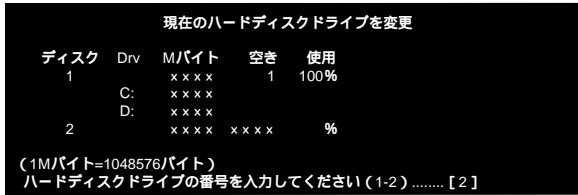
以下の手順に従って確認してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 (システム) をクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 3 「ディスクドライブ」の をクリックし、増設したハードディスクをクリックします。
「ディスクドライブ」内の「GENERIC IDE DISK TYPEXX」と「GENERIC XXX FLOPPY DISK」と表示されている以外のものが増設したハードディスクです。
- 4 「プロパティ」をクリックし、「設定」タブをクリックします。
- 5 「オプション」欄の「Int 13 ユニット」が になっていることを確認し、「OK」をクリックします。
 になっているときは、 をクリックして にし、「OK」をクリックしてください。
- 6 「OK」または「閉じる」をクリックします。
「システム設定の変更」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックして本パソコンを再起動してください。
- 7 再び手順 2（**▶P.56）から操作し直します。

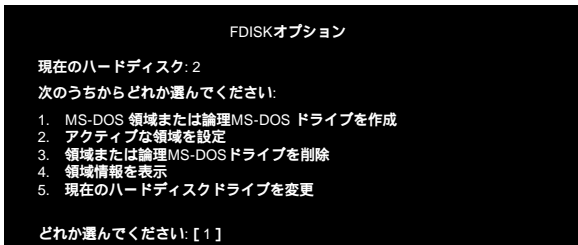
ドライブ名やハードディスクの番号は異なる場合があります

ハードディスクなどのオプション機器を増設する台数によって、以降の画面や、手順のドライブ名、ハードディスクの番号は異なる場合があります。

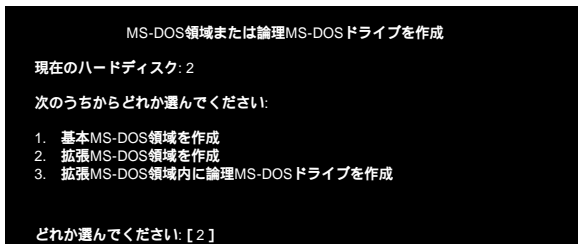
- 6 ②を押して増設したハードディスクを選び、**[Enter]**を押します。
 ディスク1は、ご購入時に本パソコンに内蔵されているハードディスクです。
 ディスク2が増設したハードディスクです。



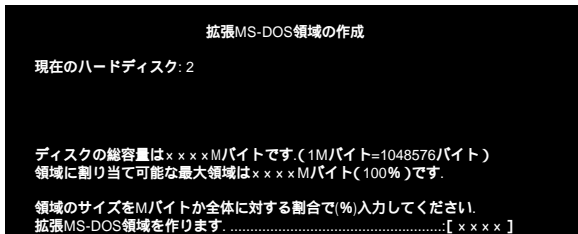
- 7 「現在のハードディスク」の数値が「2」になっていることを確認し、①を押して「1. MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成」を選び、**[Enter]**を押します。



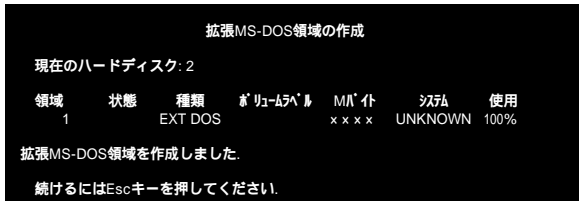
- 8 ②を押して「2. 拡張 MS-DOS 領域を作成」を選び、**[Enter]**を押します。



- 9 「ディスクの総容量は... 拡張 MS-DOS 領域を作ります。」というメッセージが表示されたら、そのまま**[Enter]**を押します。
 増設したハードディスクによっては、「領域に割り当て可能な最大領域」が「ディスクの総容量」より少なく表示される場合があります。



- 10 「拡張 MS-DOS 領域を作成しました .」というメッセージが表示されたら、**[Esc]**を押します。



- 11 ここからは、増設したハードディスクの領域を分けるか分けないかによって、進む手順が異なります。



領域を分けない場合

手順 12 へ進みます。

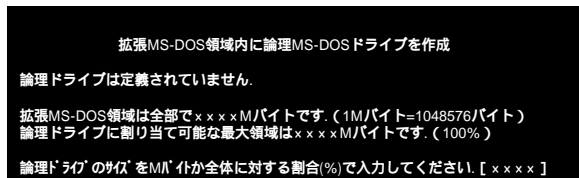


領域を分ける場合

手順 13 へ進みます。

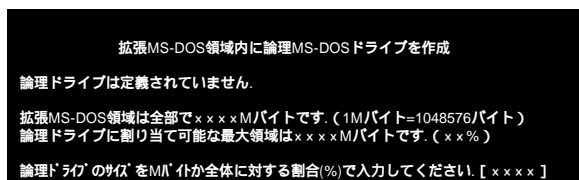
■ 領域を分けない場合 ■

- 12 そのまま **[Enter]** を押して、手順 15 へ進みます。



■ 領域を分ける場合 ■

- 13 1 つ目の領域に設定したい容量を数字キーで入力し、**[Enter]**を押します。



アドバイス

容量を入力するときに

単位は「MB」または「%」で入力してください。「MB」で指定する場合は「XXXX」と数字のみを入力します。「%」で指定する場合は、「XX%」と単位を付けて入力します。

画面に表示されている「割り当て可能な最大領域」の数値を目安に、それ以下の数値を入力してください。「MB」で指定した場合は、入力した値と画面に表示される値が若干異なることがあります。

- 14 「論理 MS-DOS ドライブを作成しました。ドライブ名は変更または追加されました。」というメッセージが表示されたら、2つ目の領域に設定したい容量を数字キーで入力し、**[Enter]**を押します。

この手順を繰り返すと、さらに領域を分けられます。

表示されている数値を確認し、そのまま **[Enter]** を押してもかまいません。表示されている数値が、分けた領域の容量となります。

```
拡張 MS-DOS 領域内に論理 MS-DOS ドライブを作成

Drv # リューバ #  MPA 外  システム  使用
E:                XXXX  UNKNOWN  XX%

拡張MS-DOS領域は全部で××××Mバイトです。(1Mバイト=1048576バイト)
論理ドライブに割り当て可能な最大領域は××××Mバイトです。(XX%)

論理ドライブのサイズをMPA外全体に対する割合(%)で入力してください。[××××]

論理 MS-DOS ドライブを作成しました。ドライブ名は変更または追加されました。
```

- 15 「拡張 MS-DOS 領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられています。」というメッセージが表示されたら、**[Esc]**を押します。

- 16 **[Esc]**を押します。

- 17 「変更を有効にするには、コンピュータを再起動してください。」というメッセージが表示されたら、**[Esc]**を押します。

```
変更を有効にするには、コンピュータを再起動してください。
変更または作成したドライブは、すべて再起動後にフォーマット
する必要があります。

再起動する前にWindowsを終了してください。
```

- 18 「C:¥WINDOWS>」と表示されたら、「MS-DOS プロンプト」ウィンドウ右上の **[X]** (閉じるボタン) をクリックします。

「MS-DOS プロンプト」ウィンドウを全画面表示しているときは、**exit** と入力し、**[Enter]** を押してください。

- 19 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。

- 20 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

続いて、増設した外付けハードディスクをフォーマットします。「フォーマットする」(●▶ P.63) をご覧ください。

アドバイス

領域を削除する

増設した外付けハードディスクの領域は分け直すことができます。

たとえば、本書の手順に従って増設したハードディスクの領域を分けずに使っていた場合に、領域の設定をし直すことで領域を分けることができます。ただし、領域の設定をし直すと、増設したハードディスクに保存されていたデータは消去されます。

- 1 「領域を設定する」の手順 1 ~ 6 (●▶ P.56) の作業を行います。
- 2 「現在のハードディスク」が「2」になっていることを確認し、**[3]**を押して「3.領域または論理MS-DOSドライブを削除」を選び、**[Enter]**を押します。
- 3 **[3]**を押して「3.拡張MS-DOS領域内の論理MS-DOSドライブを削除」を選び、**[Enter]**を押します。
- 4 「Drv」の下に表示されているドライブ名(アルファベット1文字)を入力し、**[Enter]**を押します。領域を削除する増設ハードディスクの領域が2つ以上に分かれている場合は、「Drv」の下にドライブ名(アルファベット)が複数表示されています。そのうちのどのドライブ名を入力してもかまいません。残りのドライブは、あとで選べます。
- 5 「ボリュームラベルを入力してください」というメッセージが表示されます。



画面上部の「ボリュームラベル」の下に何も表示されていない場合
そのまま**[Enter]**を押します。



画面上部の「ボリュームラベル」の下に文字や記号が表示されている場合
表示されている文字や記号を入力し、**[Enter]**を押します。

- 6 「よろしいですか(Y/N)」というメッセージが表示されたら、**[Y]**を押して、**[Enter]**を押します。「Drv」の下に表示されているドライブ名(アルファベット)の右横に「ドライブを削除しました..」というメッセージが表示されます。
- 7 ここでは、領域を削除する増設ハードディスクの領域が分かれているかいないかによって、行う手順が異なります。



領域が分かれていない場合

画面下に「拡張MS-DOS領域の論理ドライブはすべて削除されました..」というメッセージが表示されているのを確認し、**[Esc]**を押します。



領域が分かれている場合

手順4 ~ 6を繰り返して、ドライブを削除します。

「Drv」の下に表示されているすべてのドライブ名(アルファベット)の右横に「ドライブを削除しました..」というメッセージが表示され、画面下に「拡張MS-DOS領域の論理ドライブはすべて削除されました..」というメッセージが表示されたことを確認します。そのあと、**[Esc]**を押します。

- 8 「論理ドライブは定義されていません..」というメッセージが表示されたら、**[Esc]**を押します。
- 9 **[3]**を押して「3.領域または論理MS-DOSドライブを削除」を選び、**[Enter]**を押します。
- 10 **[2]**を押して「2.拡張MS-DOS領域を削除」を選び、**[Enter]**を押します。
- 11 **[Y]**を押して、**[Enter]**を押します。
- 12 「拡張MS-DOS領域を削除しました..」というメッセージが表示されたら、**[Esc]**を押します。

基本MS-DOS領域が作成されている増設ハードディスクの領域を削除するときは、このあと基本MS-DOS領域も削除してください。

続いて、領域を削除した増設ハードディスクの領域を設定し直します。「領域を設定する」の手順7 (●▶ P.58) から作業を行ってください。

ハードディスク増設時のドライブ名の割り当て

ハードディスクを増設して領域の設定を行うと、ハードディスクとCD-ROMドライブのドライブ名が変更されます。

本パソコンにハードディスクを1台増設した場合、ご購入時に本パソコンに内蔵されているハードディスク、増設したハードディスク、CD-ROMドライブには、以下の表のとりの順番でドライブ名が割り当てられます。

ドライブ名(ア)は増設ハードディスクの領域を分けなかった場合、ドライブ名(イ)は増設ハードディスクの領域を2つに分けた場合です。

割り当て順	ドライブ	ドライブ名 (ア)	ドライブ名 (イ)	備考 (FDISKとの対応)
1	「ご購入時に内蔵されているハードディスク」の1つ目の領域	C	C	ハードディスク1の基本MS-DOS領域
2	「ご購入時に内蔵されているハードディスク」の2つ目の領域	D	D	ハードディスク1の論理MS-DOSドライブ
3	「増設したハードディスク」の1つ目の領域	E	E	ハードディスク2の論理MS-DOSドライブ
4	「増設したハードディスク」の2つ目の領域	-	F	ハードディスク2の論理MS-DOSドライブ
5	CD-ROMドライブ	F	G	-

- 増設ハードディスクの領域を3つ以上に分けた場合は、割り当て順4番と5番の間に増設ハードディスクの3つ目以降の領域が割り当てられ、最後にCD-ROMドライブが割り当てられます。
- 増設ハードディスクに基本MS-DOS領域を作成した場合は、通常は割り当て順1番と2番の間に増設ハードディスクの1つ目の領域(ハードディスク2の基本MS-DOS領域)が入り、ドライブ名「D」が割り当てられます。

お使いのソフトウェアによっては、ドライブ名の修正が必要になることがあります。詳しくは、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

フォーマットする

新しく外付けハードディスクを取り付けたときには、領域の設定を行ったあとに、フォーマットする必要があります。フォーマットすると、増設したハードディスクにデータを読み書きできるようになります。

また、フォーマット済みのものを増設した場合も、領域を設定し直すとフォーマットが無効になります。あらためてフォーマットし直してください。

重要


フォーマットするとデータは失われます



ハードディスクのフォーマットを行うと、そのハードディスクの内容はすべて失われます。あらかじめ取り付けられていたハードディスクを誤ってフォーマットしないようにご注意ください。

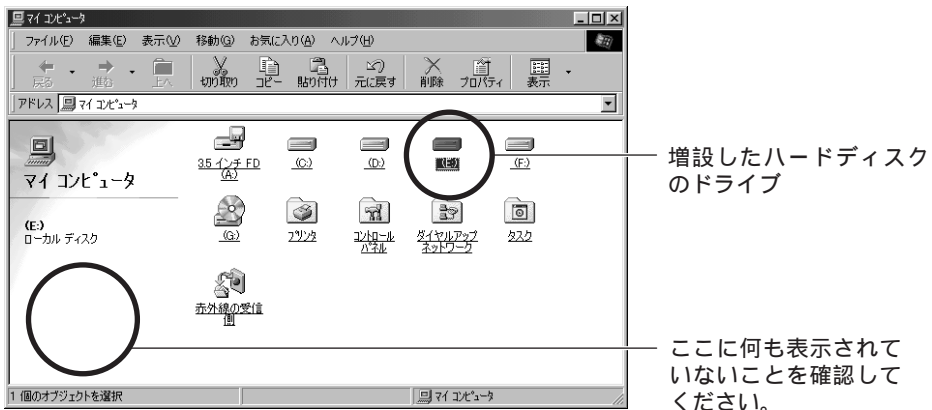
確認

常駐しているアプリケーションを終了してください

ハードディスクのフォーマットを行う前に、常駐しているアプリケーション（「ららんチャチャチャ」や「AUV」など、タスクバーにアイコン表示されているアプリケーション）やスクリーンセーバーを終了させてください。

1 デスクトップの （マイコンピュータ）をクリックします。

2 マウスで、増設したハードディスクのドライブにマウスポインタを合わせます。マウスポインタが  から  に変わり、選んだドライブのアイコンが反転表示されます。936Tをお使いの方は、増設したハードディスクのドライブの近くにペンを軽く押し付けて、そのままアイコンの上までドラッグすると、アイコンが反転表示されます。



増設したハードディスクのドライブ名は、領域の設定でハードディスクの領域をいくつに分けたかによって異なります。

上の画面は、ハードディスクを1台増設し、本書の手順に従って、増設したハードディスクの領域（拡張MS-DOS領域）を2つに分けた場合です。

重要

どのドライブが増設したハードディスクのものが調べてください

本書の手順に従って、増設したハードディスクの領域を設定すると、Eドライブ以降(基本MS-DOS領域を作成した場合はDドライブ以降)のドライブ名が変更される場合があります。増設したハードディスクがどのドライブに割り当てられているか、調べてください。

増設したハードディスクのドライブのアイコンを反転表示させたとき、「マイコンピュータ」ウィンドウの左端のローカルディスクの欄は何も表示されません。

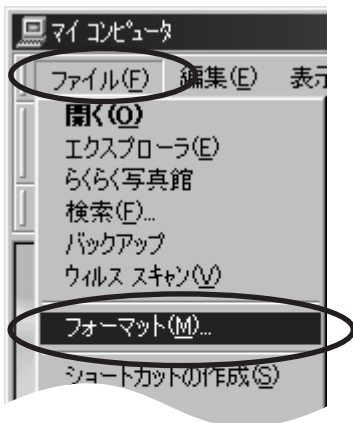
あらかじめ取り付けられていたハードディスクのドライブのアイコンを反転表示させると、ローカルディスクの欄に円グラフが表示されます。

アドバイス

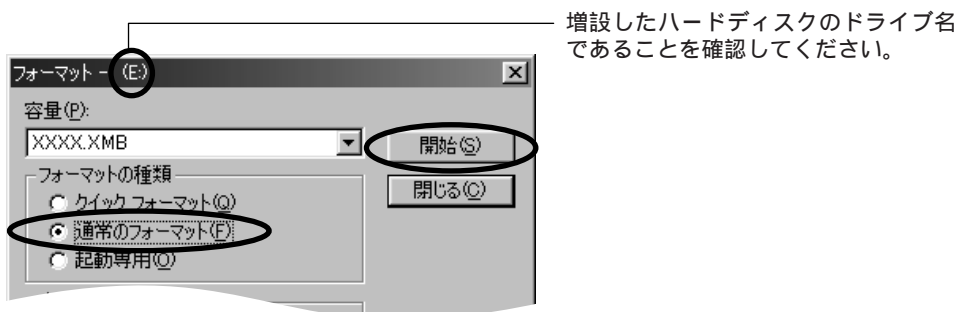
「アクセスできません。」と表示されたときは

増設したハードディスクのドライブのアイコンをクリックしてしまうと、「アクセスできません。」というメッセージが表示されます。メッセージが表示されたら「キャンセル」をクリックしてください。

- 3 「ファイル」メニューの「フォーマット」をクリックします。

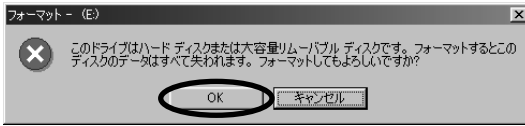


- 4 「フォーマットの種類」欄の「通常のフォーマット」をクリックし、「開始」をクリックします。



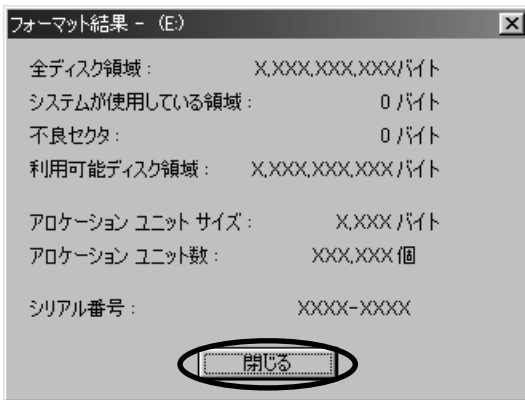
増設したハードディスクのドライブ名であることを確認してください。

5 「OK」をクリックします。

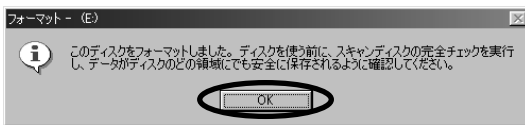


フォーマットが始まります。

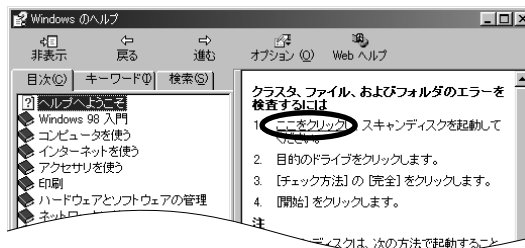
6 フォーマット結果を確認したあと、「閉じる」をクリックします。



7 「OK」をクリックします。



8 増設したハードディスクに、スキャンディスクを実行します。スキャンディスクは、ディスクの表面にエラーがないかを調べます。ヘルプ画面の「ここをクリック」をクリックしてください。



- 9 「エラーチェックをするドライブ」でチェックするドライブを選びます。



- 10 「チェック方法」で「完全」を選びます。

- 11 「開始」をクリックします。

アドバイス

エラーが検出されたときは

スキャンディスクの途中で、ハードディスクにエラーが検出された場合は、画面の指示に従ってエラーを修復してください。

- 12 スキャンディスクが終了したら、「結果レポート」ウィンドウの「閉じる」をクリックします。

- 13 「スキャンディスク」ウィンドウの「閉じる」をクリックします。

- 14 「Windows のヘルプ」ウィンドウの右上の **X** (閉じるボタン) をクリックします。

- 15 「フォーマット」ウィンドウの「閉じる」をクリックします。

アドバイス

領域を 2 つ以上に分けたときは

手順 2 ~ 15 (●▶ P.63) を繰り返し、増設したハードディスクのすべての領域をフォーマットしてください。

- 16 「マイコンピュータ」ウィンドウの右上の **X** (閉じるボタン) をクリックします。

7

その他のオプション機器を使う

2

オプション機器を使うには(その他のオプション機器を使う)

MO(光磁気ディスク)ドライブを使う

MO(エムオー)ドライブとは、レーザーと磁気でMO(光磁気ディスク)にデータを書き込み、レーザーで読み出しを行う記憶装置です。MOは、フロッピーディスクと比べて、大量のデータを保存できます。

必要なものを用意する

MOドライブを使うには、次のものがが必要です。

MOドライブ(SCSI規格)

MOドライブには、パソコン本体に内蔵のものと、外付けのがあります。本パソコンでは外付けのMOドライブがお使いになれます。

SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗(ターミネータ)

SCSI規格のMOドライブを使うために必要なものです。

終端抵抗(ターミネータ)は、内蔵されている場合もあります。

SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗(ターミネータ)について詳しくは、「ハードディスクを増設する」の「必要なものを用意する」(●▶P.53)をご覧ください。

MO

128MB、230MB、540MB、640MBの容量のものが市販されています。お使いになる前にフォーマットする必要があります。

お使いになるMOドライブによって、対応している容量が異なります。お使いになるMOドライブが対応している容量のMOをご購入ください。

用語 SCSI(スカジー)

機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI規格の機器には、MOドライブのほかに、スキャナやハードディスクなどがあります。

MOドライブを使うには

SCSI規格の外付けのMOドライブを使うには、SCSIカードという拡張カードをパソコン本体内部に取り付けます。取り付けかたについては「拡張カードを取り付ける」(●▶P.47)をご覧ください。

SCSIカードを取り付けたあと、SCSIケーブルでSCSIカードとMOドライブをつなぎます。外付けのMOドライブには、終端抵抗(ターミネータ)という器具を取り付けます。接続方法などについては、「ハードディスクを増設する」(●▶P.51)を参考にしてください。また、MOドライブのマニュアルもあわせてご覧ください。

スキャナを使う

スキャナは、イラストや写真などを画像データとして取り込むための装置です。

必要なものを用意する

スキャナを使うには、次のものがが必要です。

スキャナ

スキャナは、コピー機のような形のフラットベッド型が一般的ですが、ほかにハンディスキャナや、フィルムから直接写真を取り込めるフィルムスキャナなどもあります。

パソコン本体背面の平行コネクタ（●▶P.5）に接続するものや、SCSIカードという拡張カードを使うもの（SCSI規格）などがあります。

スキャナにはTWAINという規格があり、フォトタッチソフトのほとんどがこの規格に対応しています。TWAIN対応のスキャナをお使いになることをお勧めします。

アドバイス

SCSI規格のスキャナをお使いになるときは

スキャナの他に、SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗（ターミネータ）が必要になります。SCSI規格のコネクタは数種類あります。対応するケーブルと終端抵抗も異なりますので、よくご確認ください。SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗（ターミネータ）について詳しくは、「ハードディスクを増設する」の「必要なものを用意する」（●▶P.53）をご覧ください。

用語 TWAIN（トゥウェイン）

画像データをコンピュータに取り込むための統一規格です。

フォトタッチソフト（画像を加工するソフトウェア）

取り込んだ画像の色を調整したり、画像を合成したり、自分の好きなファイル形式に変換したりするためのソフトウェアです。

本パソコンには、「らくらく写真館」というフォトタッチソフトが添付されています。

また、スキャナに添付されているフォトタッチソフトもあります。さらに多くの機能を使いたいときには市販のソフトウェアをご購入ください。

スキャナを使うには

ご購入されたスキャナによって、接続方法が異なります。詳しくは、スキャナのマニュアルをご覧ください。

■ パソコン本体背面の平行コネクタに接続するもの ■

ケーブルで、スキャナとパソコン本体（平行コネクタ●▶P.5）をつなぎます。本パソコンでは、コネクタをネジで固定する形のケーブルをお使いください。

接続したあと、スキャナのドライバをインストールします。

■ SCSIカードに接続するもの ■

SCSIカードという拡張カードをパソコン本体内部に取り付けます。取り付けかたについては「拡張カードを取り付ける」（●▶P.47）をご覧ください。

SCSIカードを取り付けたあとに、SCSIケーブルでSCSIカードとスキャナをつなぎます。スキャナには、終端抵抗（ターミネータ）という器具を取り付けます。また、終端抵抗が内蔵されているスキャナもあり、ディップスイッチなどで設定する必要があるものもあります。

接続したあと、スキャナのドライバをインストールします。

ターミナルアダプタを接続する

本パソコンには、ターミナルアダプタ(TA:ティーイー)を接続できます。

ターミナルアダプタは、ISDN回線に接続するために必要な機器です。

ISDN回線に接続する方法について詳しくは、ターミナルアダプタのマニュアルをご覧ください。NTTにお問い合わせください。

必要なものを用意する

ターミナルアダプタを使うには、次のものがが必要です。

ターミナルアダプタ

ISDN回線に接続するために必要な機器です。パソコン本体背面のシリアルコネクタ(●▶P.5)に接続するものや、USBコネクタ(●▶P.2、5)に接続するものなどがあります。

専用ケーブル

ターミナルアダプタと本パソコンをつなぐケーブルです。通常、ターミナルアダプタに添付されています。添付されていない場合は、お使いになるターミナルアダプタに合ったケーブルをご購入ください。

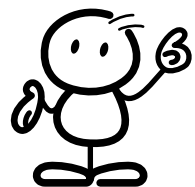
ターミナルアダプタを接続するには

ご購入されたターミナルアダプタによって、接続方法が異なります。

パソコン本体背面のシリアルコネクタ(●▶P.5)に接続するものは、専用のケーブルでターミナルアダプタとパソコン本体をつなぎます。

USBコネクタに接続するものは、次ページの「USB機器を接続する」をご覧ください。

ターミナルアダプタをISDN回線に接続するには、DSU(ディーエスユー)という機器が別に必要な場合もあります。また、パソコンでFAXを送受信するには、パソコン本体のモデムとターミナルアダプタをモジュラーケーブルでつなぐ必要があります。詳しくは、ターミナルアダプタのマニュアルをご覧ください。NTTにお問い合わせください。



USB 機器を接続する

本パソコンには、USB 機器を接続できます。

必要なものを用意する

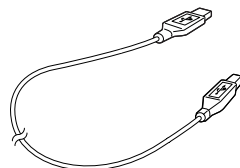
USB 機器を使うには、次のものがが必要です。

USB 機器

マウス、キーボード、プリンタ、ターミナルアダプタ、スピーカーなどがあります。お使いになる目的に応じてご用意ください。

USB ケーブル

USB機器と本パソコンをつなぐケーブルです。USB機器に添付されている場合もあります。




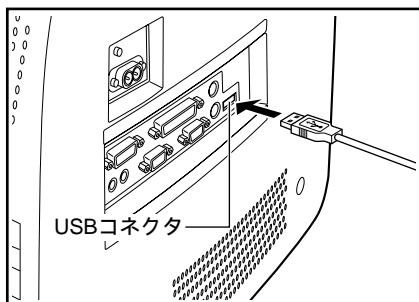
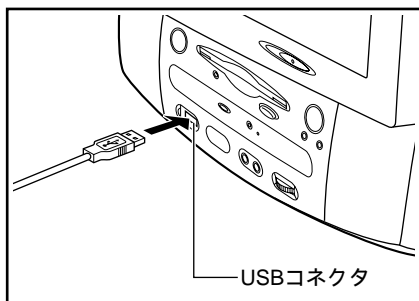
USB 機器のドライバ

通常はUSB機器に添付されています。

USB 機器を使うには

取り付けかたは、次のとおりです。

- 1 パソコン本体前面または背面の USB コネクタに、USB 機器のケーブルを接続します。コネクタの  マークを上にして接続してください。本体前面に接続するときは、カバーを左にスライドさせてから接続してください。お使いにならないときは、カバーを閉じておいてください。



- 2 ドライバをインストールします。ドライバをインストールしなくても、接続するだけで使える USB 機器もあります。詳しくは、USB 機器のマニュアルをご覧ください。

3

BIOS セットアップ

BIOSセットアップの始めかたや終わりかた、設定をご購入時の状態に戻す方法などについて説明しています。

BIOSセットアップは、本パソコンのハードウェアとしての状態を設定するためのソフトウェアです。

日常にお使いになる範囲では、BIOSセットアップを操作する必要はありません。また、正しく設定しないと本パソコンが正常に動作しなくなることもあります。

設定が必要な場合のみ、お読みください。

また、BIOSセットアップの画面、項目名、仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

- 1 . BIOS セットアップとは 72
- 2 . BIOS セットアップの操作のしかた 73
- 3 . ご購入時の設定に戻す 78
- 4 . BIOS セットアップメニューの詳細 80
- 5 . BIOS が表示するメッセージ一覧 97

1

BIOS セットアップとは

BIOS（バイオス）セットアップはメモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェアの環境を設定するためのソフトウェアです。

本パソコンでは、あらかじめ最適な状態に設定されています。電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するメッセージが表示されたときなどに設定を行ってください。

通常、本パソコンをお使いになる範囲では、BIOS セットアップを操作する必要はありません。

誤ってBIOSセットアップを始めてしまった場合は、「BIOS セットアップを終了する」(**▶P.76)をご覧ください。BIOS セットアップを終了してください。

アドバイス

バッテリーの交換について

BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM（シーモス ラム）と呼ばれるメモリに記録されます。この CMOS RAM は、記録した内容をバッテリーによって保存しています。BIOS セットアップを正しく行っても、電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するメッセージが表示される場合は、この CMOS RAM に設定内容が保存されていないおそれがあります。バッテリーが消耗していることが考えられますので、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

パーソナルエコーセンターのご利用については、「パソコン FM シリーズ サポート&サービス 富士通サポート ご案内」をご覧ください。

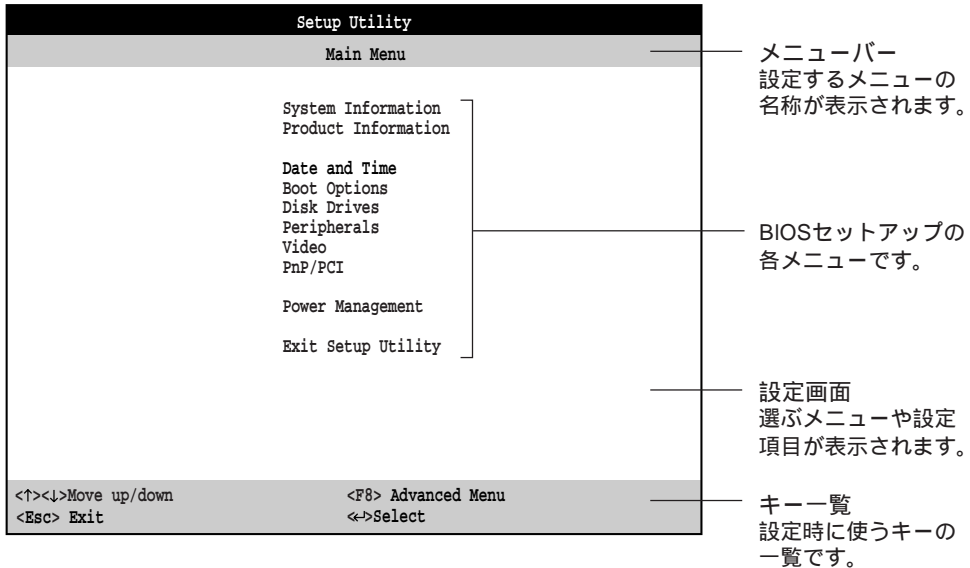
2

BIOS セットアップの操作のしかた

ここでは、BIOS セットアップの始めかた、終わりかた、設定の変更のしかたについて説明します。

BIOS セットアップを起動する

- 1 それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。
必要に応じてデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
- 3 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 4 画面左下に「Enter Setup, Press F2 key」と表示されている間に、**[F2]**を押します。
BIOS セットアップの Main Menu 画面が表示されます。



アドバイス

BIOS セットアップを始められなかったら

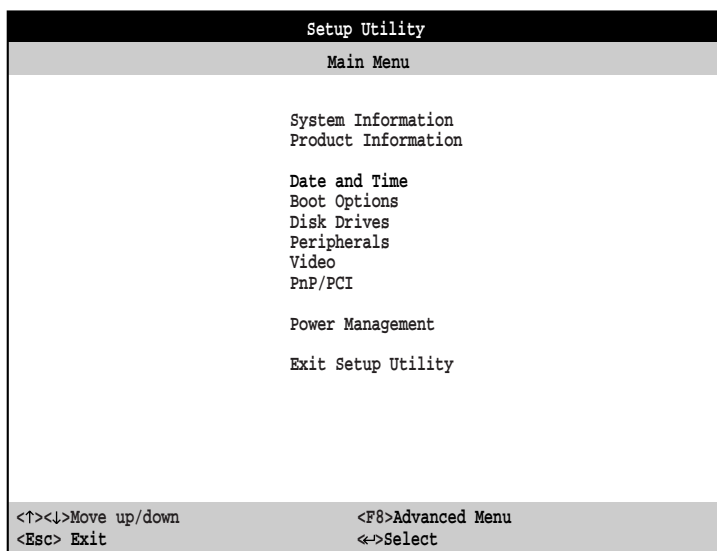
Windows98 が起動してしまうと、BIOS セットアップを始められません。

Windows98 が起動してしまったときは、Windows98 が完全に起動するのを待ってから、再度手順 2 ~ 4 の操作を行ってください。

3

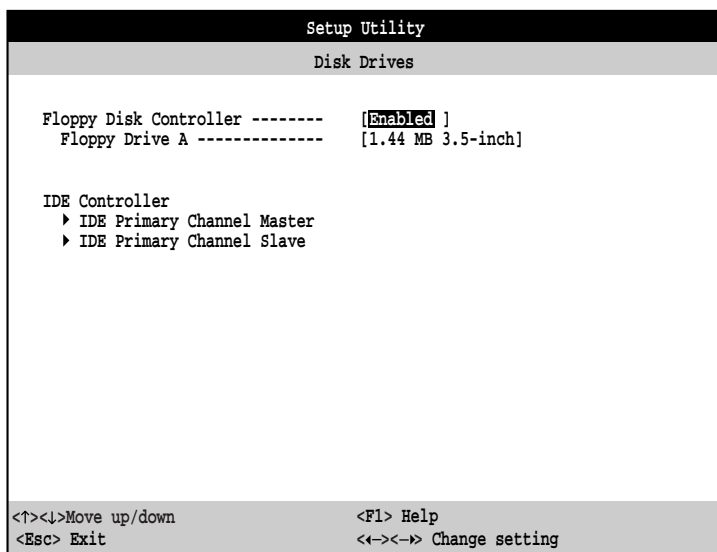
設定を変更する

- 1 を押して、設定を変更したいメニューにカーソルを合わせます。



- 2 設定を変更したいメニューが黄色で表示されていることを確認し、**[Enter]**を押します。
Advanced Menu (**▶P.80) を表示するときは、**[F8]**を押してから **[Enter]**を押します。

- 3 を押して、設定を変更したい項目にカーソルを合わせます。
▶ の付いている項目はサブメニューがあることを表します。
▶ の付いている項目にカーソルを合わせて **[Enter]**を押すと、サブメニューが表示されます。



(画面は一例です)

4 を押して、設定を変更します。

さらに他のメニューの設定を変更したいときは、**[Esc]** を押して Main Menu 画面に戻り、手順 1 から繰り返します。

サブメニューを表示していた場合は、**[Esc]** を押すと 1 つ前の画面に戻ります。

アドバイス

数値を入力する項目もあります

項目の中には、数値を入力するものもあります。詳しくは「BIOS セットアップメニューの詳細」(●▶ P.80) をご覧ください。

BIOS セットアップを終了するときは、次ページの「BIOS セットアップを終了する」をご覧ください。

設定時に使う各キーの役割

- **[Esc]** : 前画面に戻ります。各メニューが表示されているときは、Main Menu 画面に戻ります。サブメニューやヘルプが表示されているときは、各メニューに戻ります。
Main Menu 画面が表示されているときは、BIOS セットアップを終了するメッセージが表示されます。
- **[Enter]** : ▶ が付いている項目のサブメニューを表示します。または、設定を選択します。
- : 設定するメニューや項目にカーソルを移動します。
- : 設定を変更します。
- **[F1]** : カーソルを合わせている項目のヘルプを表示します。ヘルプを閉じるには **[Esc]** を押します。
なお、ヘルプが表示されない項目もあります。
- **[F8]** : Main Menu 画面で押すと、Advanced Menu (詳細設定項目 ●▶ P.80) が表示されます。
Advanced Menu の表示を消すには、Main Menu 画面で再び **[F8]** を押します。

変更内容を取り消す

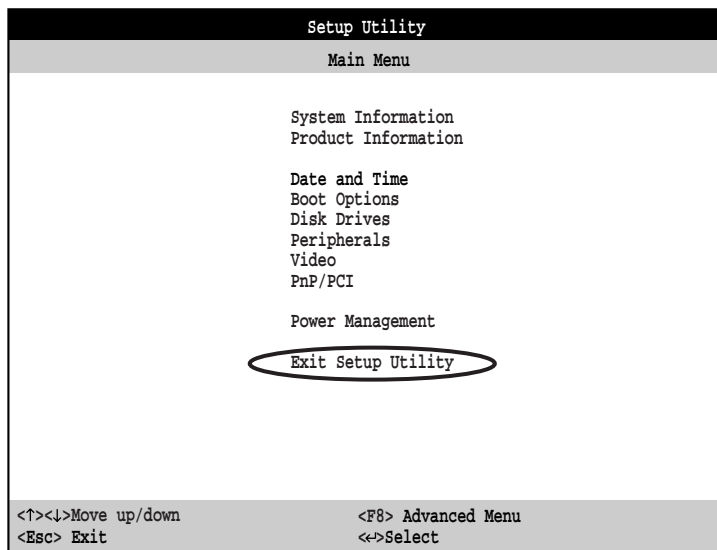
前回保存したときの設定に戻すことができます。ただし、変更した設定をいったん保存した場合は、保存した設定に戻ります。

- 1 Main Menu 画面から Exit Setup Utility を選び、**[Enter]** を押します。
- 2 「Abort Settings Change」を選び、**[Enter]** を押します。
「Do you want to load previous settings?」というメッセージが表示されます。
- 3 「Yes」を選び、**[Enter]** を押します。
設定が前回保存したときの値に戻ります。

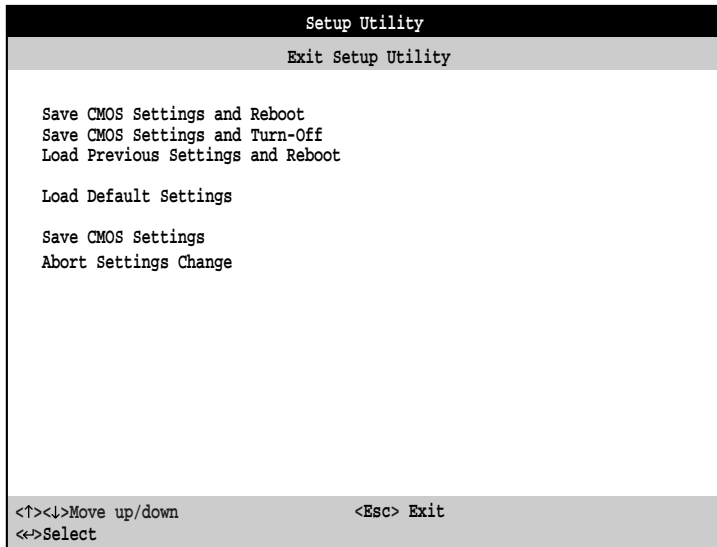
保存した設定をご購入時の状態に戻すには、「ご購入時の設定に戻す」(●▶ P.78) をご覧ください。

BIOS セットアップを終了する

- 1 各メニューの設定を終了し、**[Esc]**を押して Main Menu 画面を表示します。
- 2 **[F8]**を押して、Exit Setup Utility にカーソルを合わせます。



- 3 **[Enter]**を押します。



4



設定を保存して BIOS セットアップを終了し、Windows98 を起動する場合

を押して、「Save CMOS Settings and Reboot」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。次のメッセージが表示されます。

Do you want to save CMOS settings and Reboot?	
[Yes]	[No]



設定を保存して BIOS セットアップを終了し、本パソコンの電源を切る場合

を押して、「Save CMOS Settings and Turn-Off」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。次のメッセージが表示されます。

Do you want to save CMOS settings and Turn-Off?	
[Yes]	[No]



設定を保存しないで BIOS セットアップを終了し、Windows98 を起動する場合

を押して、「Load Previous Settings and Reboot」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。次のメッセージが表示されます。

Do you want to load previous settings and Reboot?	
[Yes]	[No]

5

を押して、「Yes」にカーソルを合わせ (白字で表示されている状態) **[Enter]** を押します。

BIOS セットアップが終了します。

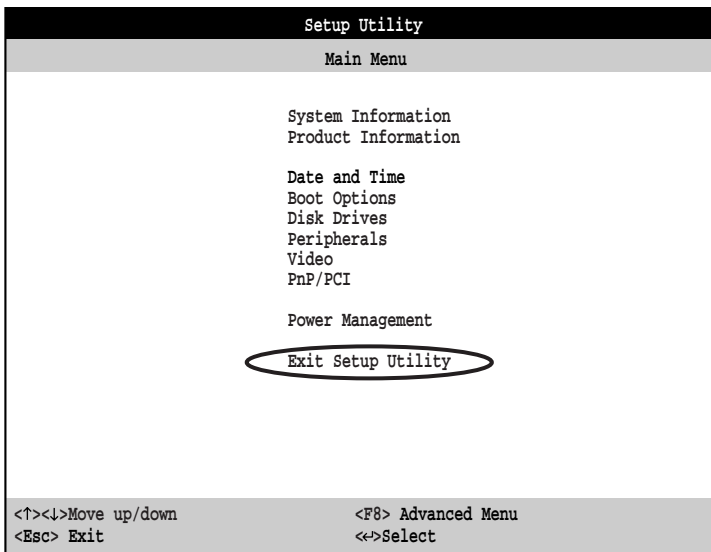
Exit Setup Utility メニューについて詳しくは、「Exit Setup Utility」 (**▶ P.95) をご覧ください。

3

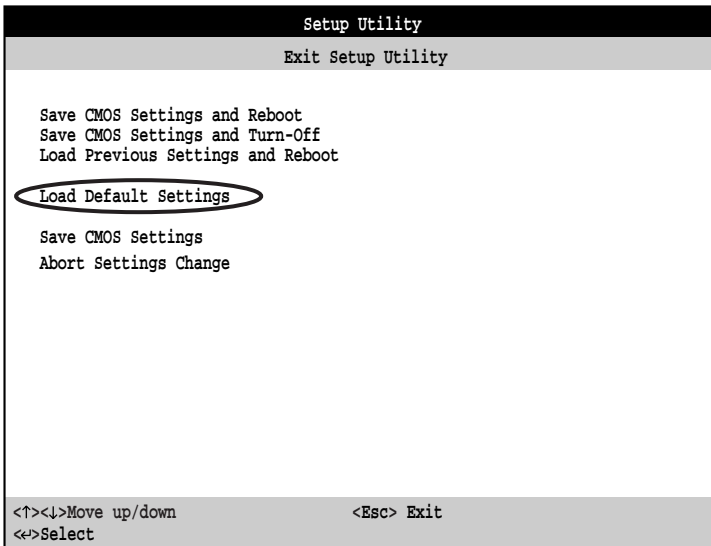
ご購入時の設定に戻す

BIOS セットアップの設定をご購入時の状態に戻す方法は次のとおりです。

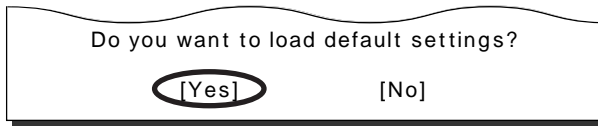
- 1 Main Menu画面が表示されていないときは、**[Esc]**を押してMain Menu画面を表示します。BIOSセットアップを起動していない場合は、「BIOSセットアップを起動する」(**▶P.73) をご覧になり、BIOSセットアップを起動してください。
- 2 **[F8]**を押して、Exit Setup Utility にカーソルを合わせ、**[Enter]**を押します。



- 3 **[F9]**を押して「Load Default Settings」にカーソルを合わせ、**[Enter]**を押します。

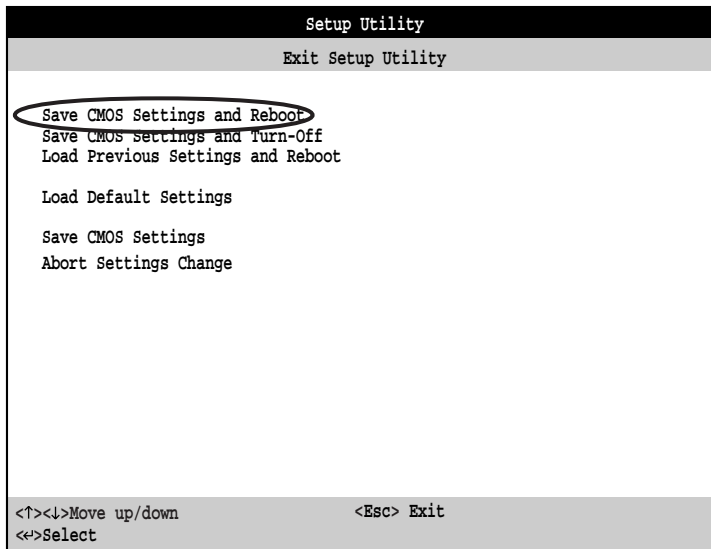


- 4 を押して「Yes」にカーソルを合わせ (白字で表示されている状態)、**[Enter]** を押し
ます。



設定がご購入時の状態に戻ります。

- 5 を押して「Save CMOS Settings and Reboot」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を
押します。



- 6 を押して「Yes」にカーソルを合わせ (白字で表示されている状態)、**[Enter]** を押し
ます。



BIOS セットアップが終了し、Windows98 が起動します。

4

BIOS セットアップメニューの詳細

ここでは、BIOS セットアップの各メニューの詳細を説明します。
各メニューの表示のしかた、設定の変更のしかたについて詳しくは、「BIOSセットアップの操作のしかた」(●▶P.73) をご覧ください。

Setup Utility	
Main Menu	
System Information	●▶ P.81
Product Information	●▶ P.82
Date and Time	●▶ P.83
Boot Options	●▶ P.84
Disk Drives	●▶ P.86
Peripherals	●▶ P.88
Video	●▶ P.91
PnP/PCI	●▶ P.92
Power Management	●▶ P.93
Exit Setup Utility	●▶ P.95

<↑><↓>Move up/down <F8>Advanced Menu
<Esc> Exit <←>Select

アドバイス

Advanced Menu について

本章の各メニューの詳細の中で、[] のついている項目はAdvanced Menuです。通常は表示されません。Advanced Menuを表示するには、Main Menu画面で[F8]を押してから、各メニューを表示してください。実際の画面は、[] つきで表示されていません。

通常はAdvanced Menuの設定を変更する必要はありません。

System Information

本パソコンのハードウェア構成を表示します。設定は変更できません。

Setup Utility	
System Information	
Processor -----	Intel(R) Celeron(TM) Processor
Processor Speed -----	366 MHz
L1 Cache Size -----	32 KB
L2 Cache Size -----	128 KB
Floppy Drive A -----	1.44MB 3.5-inch
IDE Primary Channel Master ----	Hard Disk, 4125MB
IDE Primary Channel Slave ----	CD-ROM
Total Memory -----	64MB
DIMM 1 -----	SDRAM, 64MB
DIMM 2 -----	None

<Esc> Back to Main Menu

アドバイス

表示される値は異なる場合があります

お使いの機種、または取り付けられているオプション機器によって、表示される数値や設定は異なります。

設定項目の詳細

Processor

本パソコンに取り付けられているCPUのタイプを表示します。

Processor Speed

本パソコンに取り付けられているCPUの動作周波数を表示します。

L1 Cache Size

1次キャッシュメモリの容量を表示します。

L2 Cache Size

2次キャッシュメモリの容量を表示します。

Floppy Drive A

取り付けられているフロッピーディスクドライブのタイプを表示します。

本パソコンではあらかじめフロッピーディスクドライブが1台取り付けられていますので、そのフロッピーディスクのタイプが表示されます。

IDE Primary Channel Master

本パソコンにあらかじめ内蔵されているハードディスクの容量が表示されます。

IDE Primary Channel Slave

本パソコンにあらかじめ内蔵されているCD-ROMが設定されています。

Total Memory

本パソコンの全メモリ容量を表示します。

DIMM 1

本パソコンにあらかじめ取り付けられているメモリのタイプと容量を表示します。

DIMM2

メモリスロット2にメモリを増設した場合に、メモリのタイプと容量を表示します。

Product Information

BIOS やマザーボードに関する情報を表示します。設定は変更できません。

Setup Utility	
Product Information	
System BIOS Vendor -----	ACER
System BIOS Version -----	V3.2
System BIOS ID -----	R01-xxFx EN
Product Name -----	FMVP936Tx/936Xx,FMV2CX81xx
System S/N -----	N/A
Mother Board ID -----	V65FLT
Mother Board S/N -----	N/A

<Esc> Back to Main Menu

設定項目の詳細

System BIOS Vendor

本パソコンのBIOSのメーカーが表示されます。

System BIOS Version

本パソコンのBIOSのバージョンが表示されます。

System BIOS ID

本パソコンのBIOSのIDが表示されます。

Product Name

本BIOSがサポートしている機種名が表示されます。

System S/N

本パソコンではN/Aと表示されます。

Mother Board ID

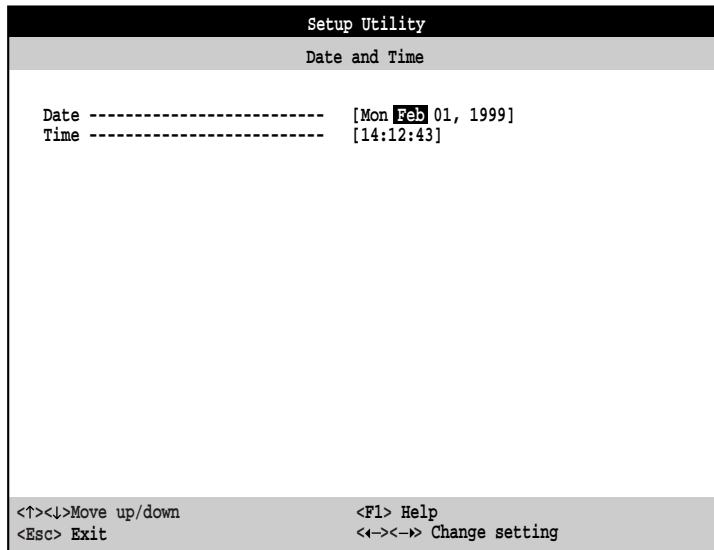
本パソコンではV65FLTと表示されます。

Mother Board S/N

本パソコンではN/Aと表示されます。

Date and Time

日時の設定を行います。



設定項目の詳細

Date

月 / 日 / 年を設定します。年は西暦で2桁ずつ入力します。
曜日は設定できません。

Time

時:分:秒を設定します。時間は24時間形式で入力します。

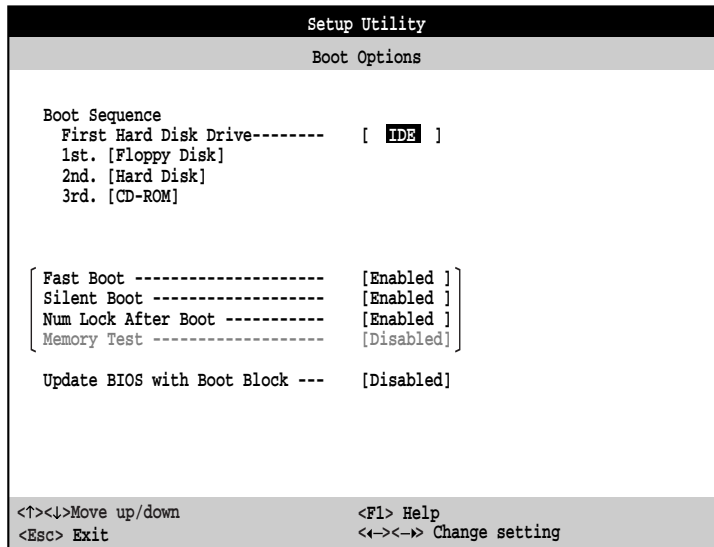
アドバイス

日時の設定は一度だけ

Date と Time は一度合わせれば、電源を入れるたびに設定する必要はありません。

Boot Options

本パソコンの起動に関する項目を設定します。



上記の画面内で [] のついている項目は、通常は表示されません。Main Menu 画面 (●▶P.80) で **[F8]** を押してからメニューを表示してください。

設定項目の詳細

Boot Sequence (初期値 : 1st. Floppy Disk、2nd. Hard Disk、3rd. CD-ROM)
OS を読み込むドライブの順番を設定します。1st. に設定されているドライブで OS が見つからない場合は、2nd. に設定されているドライブから、2nd. に設定されているドライブで OS が見つからない場合は 3rd. に設定されているドライブから読み込みます。

で優先順位を変更できます。通常は初期値のままお使いください。

First Hard Disk Drive (初期値 : IDE)

最初に OS を読み込むハードディスクを設定します。

- IDE
本パソコンにあらかじめ内蔵されている IDE 規格のハードディスクから読み込みます。
- SCSI
本パソコンに接続した SCSI 規格のハードディスクから読み込みます。

[Fast Boot] (初期値 : Enabled)

電源を入れてから、または再起動してから OS を読み込むまでの時間を設定します。通常は Enabled のままお使いください。

- Enabled
OS を読み込むまでの時間を短くします。
ただし、BIOS セットアップを終了したあとの最初の起動時には、Fast Boot は行われません。
- Disabled
OS を読み込むまでの時間を短くしません。
- Auto
Windows98 などの ACPI 対応の OS が、OS を読み込むまでの時間を制御します。

〔 Silent Boot 〕 (初期値 : Enabled)

本パソコンの起動および再起動時の、「FUJITSU」のロゴ表示について設定します。通常は Enabled のままでお使いください。

- Enabled
本パソコンの起動および再起動時に「FUJITSU」のロゴを画面に表示します。
- Disabled
「FUJITSU」のロゴを画面に表示せずに、起動時のテストの結果を表示します。

〔 Num Lock After Boot 〕 (初期値 : Enabled)

本パソコンの起動および再起動時の、キーボードのテンキーの状態を設定します。キーボードを NumLock 状態にするとテンキーから数値入力ができます。また、NumLock 状態にしないとテンキー表面の下の方に書かれた機能が使えます。

- Enabled
NumLock 状態にします。
- Disabled
NumLock 状態にしません。

〔 Memory Test 〕 (初期値 : Disabled)

本パソコンの起動および再起動時の、メモリのテストについて設定します。この項目は、Fast Boot を Disabled に設定すると、設定を変更できます。

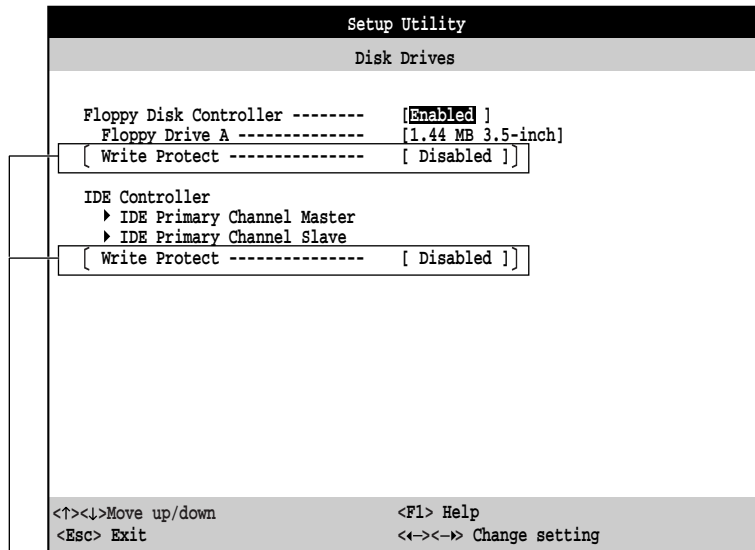
- Enabled
メモリのテストを行います。
- Disabled
メモリのテストを行いません。

Update BIOS with Boot Block (初期値 : Disabled)

この機能は、将来の BIOS 機能拡張のために用意されています。この設定は変更しないでください。設定を変更すると、本パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

Disk Drives

フロッピーディスク、ハードディスクなどの設定を行います。



Windows98では設定が無効となります。

重要

Windows98では設定が無効になる項目があります

Disk Drives メニューの設定項目のうち、上の画面で示している項目を設定しても、Windows98では設定が無効となります。

上記の画面内で [] のついている項目は、通常は表示されません。Main Menu 画面 (●▶P.80) で [F8] を押してからメニューを表示してください。

設定項目の詳細

Floppy Disk Controller (初期値 : Enabled)

本パソコンにあらかじめ取り付けられているフロッピーディスクドライブが、正常に動作するように設定されています。この設定は変更しないでください。設定を変更すると、本パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

Floppy Drive A (初期値 : 1.44MB 3.5-inch)

本パソコンにあらかじめ取り付けられているフロッピーディスクドライブは、「1.44MB 3.5-inch」でのみ動作します。この設定は変更しないでください。設定を変更すると、フロッピーディスクの読み出し、書き込みができなくなります。

[Write Protect] (初期値 : Disabled)

フロッピーディスクへの書き込みの禁止について設定します。この設定は変更しないでください。設定を変更すると、本パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

IDE Controller

IDE Primary Channel Master/IDE Primary Channel Slave

本パソコンにあらかじめ取り付けられているハードディスクやCD-ROMが、正常に動作するように設定されています。この設定は変更しないでください。設定を変更すると、本パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

IDE Primary Channel Master、またはIDE Primary Channel Slaveにカーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、サブメニューが表示されます。

```

Setup Utility
-----
IDE Primary Channel Master

Type ----- [Auto]
Cylinder ----- [  ]
Head ----- [  ]
Sector ----- [  ]
Size ----- [  ] MB

[ Hard Disk Block Mode ----- [ Auto ]
  Advanced PIO Mode ----- [ Auto ]
  Hard Disk Size > 504MB ----- [ Auto ]
  Hard Disk 32 Bit Access ----- [Enabled] ]

<↑><↓> Move up/down      <F1> Help
<Esc> Exit                  <←><→> Change setting
  
```

```

Setup Utility
-----
IDE Primary Channel Slave

Type ----- [Auto]
Cylinder ----- [  ]
Head ----- [  ]
Sector ----- [  ]
Size ----- [  ] MB

[ Hard Disk Block Mode ----- [ Auto ]
  Advanced PIO Mode ----- [ Auto ]
  Hard Disk Size > 504MB ----- [ Auto ]
  Hard Disk 32 Bit Access ----- [Enabled] ]

<↑><↓> Move up/down      <F1> Help
<Esc> Exit                  <←><→> Change setting
  
```

上記の画面内で [] のついている項目は、通常は表示されません。Main Menu画面 (●▶P.80) で **[F8]** を押してからメニューを表示してください。

[Write Protect] (初期値 : Disabled)

ハードディスクへの書き込みの禁止について設定します。この設定は変更しないでください。設定を変更すると、本パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

Serial Port 2 (初期値 : Enabled)

本体前面の赤外線通信ポート (IrDA) およびタッチパネルについて設定します。

- Enabled
赤外線通信ポートおよびタッチパネルを使えるようにします。
- Disabled
赤外線通信ポートおよびタッチパネルを使えないようにします。

Base Address (初期値 : 3E8h)

赤外線通信ポートおよびタッチパネルのアドレス番号を設定します。

- 3F8h / 3E8h / 2F8h / 2E8h
アドレス番号をそれぞれの番号に設定します。

IRQ (初期値 : 10)

赤外線通信ポートおよびタッチパネルの IRQ (割り込み要求) を設定します。

- 3/10
赤外線通信ポートおよびタッチパネルの IRQ を 3 または 10 に設定します。

重要

2F8h と IRQ3 は設定しないでください

本パソコンでは 2F8h のアドレス番号および IRQ3 の割り込み要求を FAX / ボイスモデムカードが使っています。

Operation Mode (初期値 936X : IrDA/936T : Normal)

Serial Port 2 に接続する周辺装置の種類を設定します。

Parallel Port (初期値 : Enabled)

本体背面の平行ポート (平行コネクタ) について設定します。

- Enabled
平行ポートを使えるようにします。
- Disabled
平行ポートを使えないようにします。

Base Address (初期値 : 378h)

平行ポートのアドレス番号を設定します。

- 378h/278h/3BCh
アドレス番号をそれぞれの番号に設定します。

アドバイス

3BCh に設定したときは

Operation Mode を EPP モードに設定して使うことはできません。

IRQ (初期値 : 7)

平行ポートの IRQ (割り込み要求) を設定します。

- 7/5
平行ポートの IRQ を 7 または 5 に設定します。

Operation Mode (初期値 : Bi-directional)

パラレルポートに接続する周辺装置の種類を設定します。

- Standard
出力専用モードを使う周辺装置を接続するときに選びます。
- Bi-directional
双方向モードを使う周辺装置を接続するときに選びます。
- EPP
EPP 規格の周辺装置を接続するときに選びます。
- ECP
ECP 規格の周辺装置を接続するときに選びます。

ECP DMA Channel (初期値 : -)

Operation Modeで、ECPを選んだときのみ設定できます。ECP規格の機器を接続するときに、どのDMAチャンネルを使うかを設定します。

- -
DMAチャンネルをしません。
- 1/3
DMAチャンネル1または3を使います。

{ PS/2 Mouse Controller } (初期値 : Enabled)

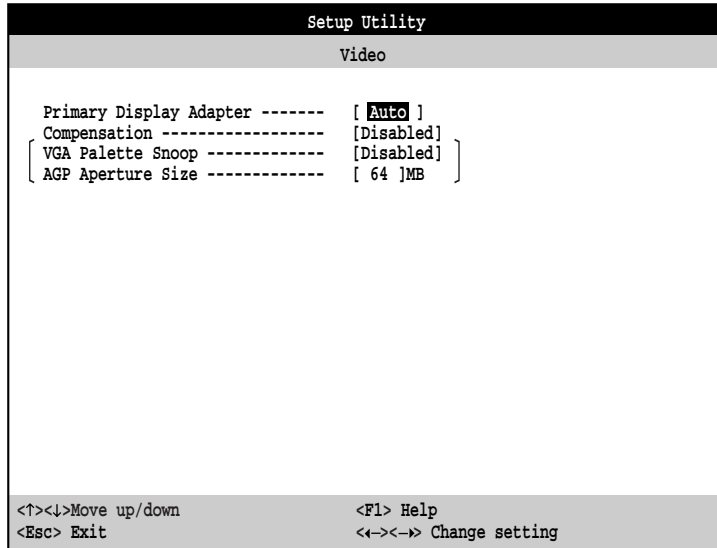
本パソコンのマウスコネクタに接続したマウスを使えるように設定します。この設定は変更しないでください。

- Enabled
マウスを使えるようにします。
- Disabled
マウスを使えないようにします。

{ USB Legacy Mode } (初期値 : Disabled)

この設定は変更しないでください。

本パソコンの画面表示に関する設定を行います。



上記の画面内で [] のついている項目は、通常は表示されません。Main Menu 画面 (**▶P.80) で **[F8]** を押してからメニューを表示してください。

設定項目の詳細

Primary Display Adapter (初期値 : Auto)

通常は Auto のままお使いください。

Compensation (初期値 : Disabled)

本パソコンの液晶ディスプレイで、ご購入時の状態よりも解像度を小さく設定した場合の画面補正について設定します。

- Enabled
補正を行って、画面全体で表示します。
- Disabled
補正を行わずに、画面の中央に表示します。

[VGA Palette Snoop] (初期値 : Disabled)

通常は Disabled のままお使いください。

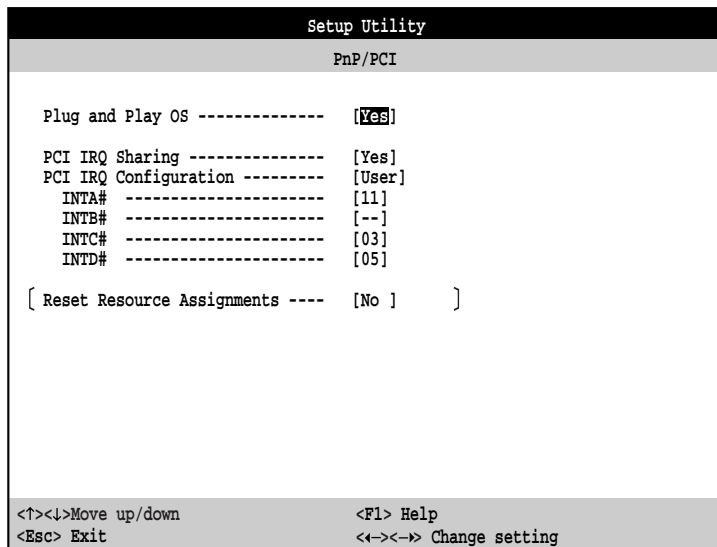
[AGP Aperture Size] (初期値 : 64)

マザーボード上のVGAコントローラが画像表示に使う、本パソコンのAGPメモリの上限を設定します。

- 64/128/256
マザーボード上のVGAコントローラが画像表示に使う、本パソコンのAGPメモリの上限をそれぞれの値に設定します。

PnP/PCI

プラグアンドプレイや PCI デバイスに関する設定を行います。



上記の画面内で [] のついている項目は、通常は表示されません。Main Menu 画面 (●▶P.80) で **[F8]** を押してからメニューを表示してください。

設定項目の詳細

Plug and Play OS (初期値 : Yes)

Windows98 など、プラグアンドプレイに対応した OS を使うかを設定します。この設定は変更しないでください。設定を変更すると、本パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

PCI IRQ Sharing (初期値 : Yes)

複数の PCI 拡張カードでの IRQ (割り込み要求) の共有について設定します。この設定は変更しないでください。設定を変更すると、本パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

PCI IRQ Configuration (初期値 : User)

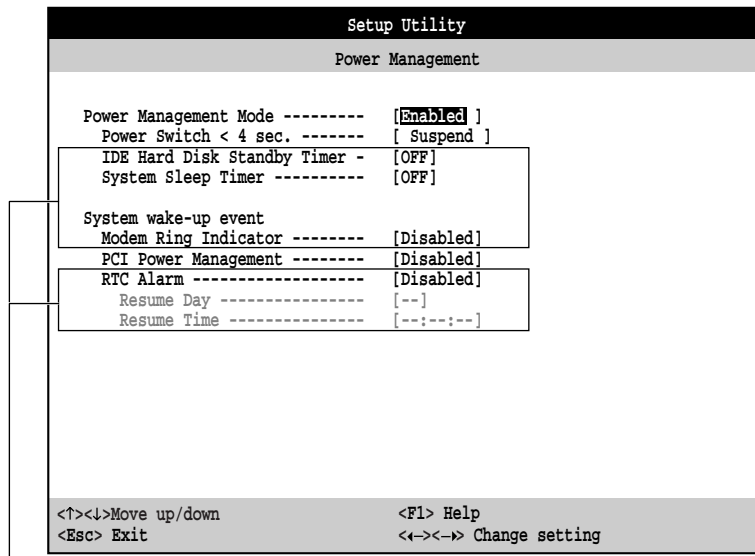
本パソコンに取り付けられている PCI 拡張カード、または PCI デバイスが使う IRQ (割り込み要求) を設定します。この設定は変更しないでください。設定を変更すると、本パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

[Reset Resource Assignments] (初期値 : No)

この設定は変更しないでください。設定を変更すると、本パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

Power Management

本パソコンの省電力に関する設定を行います。



Windows98では設定が無効となります。

重要

Windows 98 では設定が無効になる項目があります

Power Managementメニューの設定項目のうち、上の画面で示している項目を設定しても、Windows98では設定が無効となります。

設定項目の詳細

Power Management Mode (初期値: Enabled)

本パソコンは、省電力モードを備えています。省電力モードは、本パソコンの電源を入れた状態で一定時間使わなかった場合に、消費する電力を減らして待機する機能です。

- Enabled
省電力モードに移行するようにします。
- Disabled
省電力モードに移行ないようにします。省電力モードに関する設定項目は、灰色の文字で表示され、設定できなくなります。また、Power Switch<4 sec. が自動的に Power Off になります。

アドバイス

Power Management Mode を Disabled に設定すると

Disabled に設定すると、Windows98 終了時の自動電源オフはできなくなります。

本パソコンの電源を切るときは、「電源を切る」(●▶▶ P.9) をご覧になり、手順4までを行います。そのあと、画面に「コンピュータの電源を切る準備ができました」と表示されたら電源スイッチを押してください。本パソコンの電源が切れます。そのあとに、本パソコンに接続されている機器の電源も切ってください。

省電力モードにしないでください

- 次の場合は、Power Management Mode を Disabled に設定するか、もしくは Power Management Mode を Enabled のまま System Sleep Timer を OFF のままでお使いください。
 - 省電力対応以外のディスプレイを使うとき
- 省電力モードが設定されていると、モデムやLANなどを使う通信環境によっては、通信できなくなる場合があります。その場合は、Power Management Mode を Disabled に設定してください。

Power Switch<4 sec. (初期値 : Suspend)

電源スイッチを押した場合に、スタンバイ (**▶P.11) に移行するか、電源が切れるようにするかを設定します。

- Suspend
電源スイッチを押すとスタンバイになります。スタンバイの状態でも電源スイッチを4秒以上押し続けると、電源が切れます。詳しくは、「電源スイッチについて」(**▶P.11) をご覧ください。
- Power Off
電源スイッチを押すと電源が切れます。

IDE Hard Disk Standby Timer (初期値 : OFF)

内蔵ハードディスクを、スタンバイ(一部の回路を停止させた状態)に移行させるまでの時間を設定します。ハードディスクにアクセスすると、スタンバイから通常の状態に数秒で戻ります。

- 1 ~ 60
1分から60分の間で規定の時間を設定します。その時間ハードディスクへのアクセスがないと、ハードディスクがスタンバイになります。
- OFF
スタンバイになりません。

System Sleep Timer (初期値 : OFF)

システム全体をスタンバイに移行させるまでの時間を設定します。キーボードの任意のキーを押すか、マウスを動かすと、スタンバイから通常の状態に数秒で戻ります。

- 2 ~ 120
2分から120分の間で規定の時間を設定します。その時間パソコンを使わなかった場合に、スタンバイになります。
- OFF
スタンバイになりません。

System wake-up event

電話がかかってきたり、モデムカードから復帰信号が送られたりしたときに、本パソコンをスタンバイから復帰させるように設定します。

Modem Ring Indicator (初期値 : Disabled)

本パソコンのモデムカードと電話回線を接続している状態で、電話がかかってきたときに本パソコンをスタンバイから復帰させるように設定します。

- Enabled
スタンバイから復帰させます。
- Disabled
スタンバイから復帰しません。

PCI Power Management (初期値 : Disabled)

モデムカードから復帰信号が送られてきたときに、本パソコンをスタンバイから復帰させるように設定します。

- Enabled
スタンバイから復帰させます。
- Disabled
スタンバイから復帰しません。

RTC Alarm (初期値 : Disabled)

あらかじめ設定した時間に、本パソコンをスタンバイから復帰させたり、または自動的に電源を入れたりするように設定します。

- Time
スタンバイから復帰させる、または電源を入れる時刻を設定します。
- Date/Time
スタンバイから復帰させる、または電源を入れる日と時刻を設定します。
- Disabled
スタンバイから復帰しません。または電源を入れません。

Resume Day (初期値 : --)

スタンバイから復帰する、または電源を入れる日を設定します。

Resume Day は 1 度設定すると、解除するまでその設定が有効になります。

Resume Time (初期値 : --:--:--)

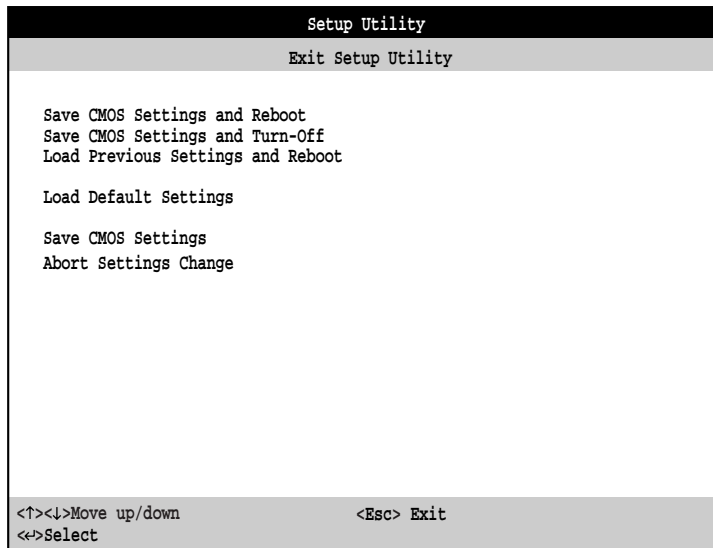
スタンバイから復帰する、または電源を入れる時刻を設定します。

「時:分:秒」の順に設定します。

Resume Time は 1 度設定すると、解除するまでその設定が有効になります。

Exit Setup Utility

BIOS セットアップを終了します。また、設定をご購入時の状態 (初期値) に戻すこともできます。BIOS セットアップの終了のしかたについては、「BIOS セットアップを終了する」(●▶P.76) を、設定をご購入時の状態に戻す方法については、「ご購入時の設定に戻す」(●▶P.78) をご覧ください。



設定項目の詳細

Save CMOS Settings and Reboot

変更した設定を保存して、BIOS セットアップを終了します。

この項目にカーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、「Do you want to save CMOS settings and Reboot?」というメッセージが表示されます。

「Yes」を選び、**[Enter]** を押します。変更した設定が保存され、Windows98 が起動します。

Save CMOS Settings and Turn-Off

変更した設定を保存して、BIOS セットアップを終了し、本パソコンの電源を切ります。

この項目にカーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、「Do you want to save CMOS settings and Turn-Off?」というメッセージが表示されます。

「Yes」を選び、**[Enter]** を押します。変更した設定が保存され、本パソコンの電源が切れます。

Load Previous Settings and Reboot

変更した設定を保存しないで、BIOS セットアップを終了します。

この項目にカーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、「Do you want to load previous settings and Reboot?」というメッセージが表示されます。

「Yes」を選び、**[Enter]** を押します。設定が前回保存した値に戻り、Windows98 が起動します。

Load Default Settings

BIOS セットアップの設定をご購入時の状態(初期値)に戻します。BIOS セットアップは終了しません。

この項目にカーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、「Do you want to load default settings?」というメッセージが表示されます。

「Yes」を選び、**[Enter]** を押します。設定をご購入時の状態(初期値)に戻ります。

Save CMOS Settings

変更した設定を保存します。BIOS セットアップは終了しません。

この項目にカーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、「Do you want to save CMOS settings?」というメッセージが表示されます。

「Yes」を選び、**[Enter]** を押します。変更した設定が保存されます。

Abort Settings Change

変更した設定を保存しないで元に戻します。BIOS セットアップは終了しません。

この項目にカーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、「Do you want to load previous settings?」というメッセージが表示されます。

「Yes」を選び、**[Enter]** を押します。設定が前回保存した値に戻ります。

上記のどの項目も、「No」を選ぶと、Exit Setup Utility メニューの画面に戻ります。

BIOS が表示するメッセージ一覧

ここでは、本パソコンが表示するメッセージ(BIOSメッセージ)について説明しています。必要に応じてお読みください。

メッセージが表示されたときは

「メッセージ一覧」をご覧になり、次のいずれかの方法でエラーを解消してください。

- BIOS セットアップの設定を変更する
指示に従ってBIOSセットアップを起動して、設定をご購入時の状態(初期値)に戻してください。詳しくは、「ご購入時の設定に戻す」(●▶P.78) をご覧ください。
- オプション機器の取り付けを確認する
オプション機器の拡張カードやメモリなどを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているかを確認してください。また、IRQ (割り込み要求)(●▶P.104) が正しく設定されているかも確認してください。このとき、オプション機器のマニュアルもあわせてご覧ください。

上記の方法で対処してもメッセージが表示される場合、または次の「メッセージ一覧」に当てはまるメッセージがない場合は、本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。

メッセージ一覧

1. CMOS Battery Bad
バッテリーの交換が必要です。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
2. CMOS Checksum Error
[F2]を押して、BIOSセットアップを起動し、「ご購入時の設定に戻す」(●▶P.78) の操作を行ってください。
3. CPU Clock Mismatch
[F2]を押して、BIOSセットアップを起動し、「ご購入時の設定に戻す」(●▶P.78) の操作を行ってください。
4. Diskette Drive Controller Error or Not Installed
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
5. Diskette Drive A Error
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
6. Equipment Configuration Error
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
7. IDE Drive Controller Error
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
8. IDE Drive 0 ErrorまたはIDE Drive 1 Error
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。

9. Invalid system disk Replace the disk, and then press any key
フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出して、**[Enter]**を押してください。
10. Keyboard Error or No Keyboard Connected
本パソコンの電源を切り、キーボードが正しく接続されているかを確認してください。
11. Keyboard Interface Error
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
12. Memory Error at:MMMM:SSSS:OOOO (W:XXXX,R:YYYY) where:M:MB,S:
Segment, O:Offset,X/Y:write/read pattern
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
13. Non-System disk or disk error Replace and press any key when ready
フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出して、**[Enter]**を押してください。
14. Onboard Serial Port [1/2] Conflict (s)
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
15. Onboard Parallel Port Conflict (s)
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
16. Onboard Pointing Device IRQ Conflict (s)
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
17. Pointing Device Error
本パソコンの電源を切り、マウスが正しく接続されているかを確認してください。
18. Pointing Device Interface Error
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
19. Press F2 key to enter SETUP or F1 key to Continue....
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
20. Real Time Clock Error
[F2]を押して、BIOSセットアップを起動し、「ご購入時の設定に戻す」(**▶P.78)の操作を行ってください。
それでもメッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。



仕様一覧

本パソコンの仕様について説明しています。

- 1. 仕様一覧 100
- 2. コネクタのピン配列と信号名 107

1

仕様一覧

パソコン本体

製品名称	FMV-DESKPOWER Pliché model 936X	FMV-DESKPOWER Pliché model 936T	
CPU	Celeron™ プロセッサ - 366 MHz		
キャッシュメモリ	L1 32KB + L2 128KB		
BIOS ROM	256KB (フラッシュROM)		
システム RAM	標準 64MB (SDRAM) パリティなし 最大 128MB		
フロッピーディスク	3.5 インチ × 1 (3 モード対応)		
ハードディスク	6.4GB (C ドライブ 2.5GB、D ドライブ 3.9GB)		
CD-ROM	最大 24 倍速		
グラフィック	ATI 社製 3D RAGE™ LT PRO (SGRAM : 2MB)		
ディスプレイ	13.3 インチ TFT	12.1 インチ TFT	
オーディオ機能	Crystal 社製 CS4614 + CS4297 (AC97)		
I/F	ディスプレイ	VGA/SVGA D-SUB 15pin	
	キーボード	OADG キーボード Mini-DIN 6pin	
	マウス	PS/2 タイプ Mini-DIN 6pin	
	ペン入力	_____	シリアル接続 × 1 (赤外線通信ポートと切替で使用)
	シリアルポート	非同期 RS-232C × 1 D-SUB 9pin	
	パラレルポート	セントロニクス準拠 D-SUB 25pin	
	USB	USB コネクタ 4pin × 2 (前面 × 1、背面 × 1)	
	サウンド	マイク入力 (コンデンサマイク用) × 1、LINE 入力 × 1、ヘッドホン端子 × 1、 LINE 出力 × 1、MIDI/JOYSTICK 端子 × 1	
	FAX/ボイス モデム	モジュージャック × 2 (LINE × 1、PHONE × 1) DATA 56Kbps (受信) 33.6Kbps (送信) / FAX 14.4Kbps	
	拡張スロット数	PCI × 2 (ハーフ、うち 1 つに FAX/ボイスモデムカードを標準搭載)	
赤外線通信ポート	IrDA1.0 準拠 (最大 115Kbps)		
電源 / 周波数	AC100V 50/60Hz		
消費電力	最大 100W		
重量	約 9Kg		
外形寸法	324mm × 211mm × 378mm (W × D × H)	316mm × 214mm × 360mm (W × D × H)	
使用環境	温度 10 ~ 35 湿度 20 ~ 80% (RH)		
省エネ法に基づく エネルギー消費効率	約 25W		
対応 OS	Windows98		

176.41mm まで使用可能

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

液晶ディスプレイ

製品名称	FMV-DESKPOWER Pliché model 936X	FMV-DESKPOWER Pliché model 936T
表示方式	TFT	TFT
サイズ	13.3 インチ	12.1 インチ
最大解像度	1024 × 768 ドット	800 × 600 ドット
最大発色数	26 万色	26 万色

FAX/ ボイスモデムカード

品名	FAX/ ボイスモデムカード -56000 (全二重)	
型名	FMV-FX53Z5	
通信方式	2 線式 全二重 (FAX モードでは 2 線式 半二重)	
通信規格	K56flex™.ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21/Bell212A,103 (データモード) ITU-T V.17/V.29/V.27ter (FAX モード)	
通信速度	データモード	56000,54667,54000,53333,52000,50667,50000,49333,48000,46667,46000,45333,44000,42667,42000,41333,40000,38667,38000,37333,36000,34667,34000,33333,32000,30667,29333,28000 33600,31200,28800,26400,24000,21600,19200,16800,14400,12000,9600,7200,4800,2400,1200,300bps FAX モード 14400,12000,9600,7200,4800,2400,300bps は、受信側のみ
同期方式	調歩同期	
データ転送 プロトコル	MNP class 4/5 ITU-T V.42/V.42bis	
FAXインターフェース	TIA/EIA578 (class1)	
バスインタフェース	PCI	
音声蓄積機能	ADPCM	
寸法	長さ 165 mm × 幅 120 mm × 高さ 22 mm	
使用環境条件	温度 : 10 ~ 35 (結露がないこと) 湿度 : 20% ~ 80%	
直流抵抗値	254	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動速度検出 ・ 発信音、呼び出し音、話し中音、無音、ダイヤル音、音声などの回線接続の進行状況を示す応答音の検出 	

スピーカー

方式	密閉型ボックススピーカー
スピーカーユニット	口径 : 70 × 40 (mm) インピーダンス : 8
定格 (最大) 入力	1W
音圧レベル	78dB/W (m)
再生周波数	170Hz ~ 20kHz

サウンド機能

チップセット	Crystal 社製 CS4614 + CS4297 (AC97)
録音再生機能	サンプリング周波数 5kHz ~ 48kHz 16bit Stereo 最大 96 個同時再生可能 同時録音再生動作可能
MIDI 機能	Wavetable Synthesizer (最大 64 音) GM 音源
その他	サウンドアクセラレーション機能
ゲームポート	MPU-401 互換 MIDI I/F Game Port I/F
リソース	PCI オーディオ アクセラレータ IRQ : 1 つ使用 仮想 MPU-401 I/O ポートアドレス : 0300-0301h ~ 03FE-03FFh ジョイスティック I/O ポートアドレス : 0200-0207h , 0208-020Fh

タッチパネル (936T のみ)

方式	アナログ抵抗膜方式タッチパネル (シリアル接続)
IRQ	3,<10>
I/O ポートアドレス	2E8-2EEh,2F8-2FFh,<3E8-3EFh>
ペンと画面の位置精度	± 2mm (垂直・水平とも)

本パソコンのご購入時の IRQ、I/O ポートアドレスの設定は、上表の < > で囲まれた値になっています。

表示できる解像度と発色数

用語 解像度

縦横にどれだけの点 (ドット) を表示できるかを示すものです。解像度が高い (数字が大き) と、より鮮明な表現が可能になり、画面を広く使えるようになりますが、表示される文字などが小さくなります。

液晶ディスプレイ

本パソコンの液晶ディスプレイで設定できる解像度と発色数は、次のとおりです。

下の表に書かれている以外の解像度ではお使いにならないください。

解像度	最大発色数	設定可能な発色数	936X	936T
640 × 480 ドット	26 万色	256 色		
		HighColor (16 ビット)		
		TrueColor (32 ビット)		
800 × 600 ドット	26 万色	256 色		
		HighColor (16 ビット)		
		TrueColor (32 ビット)		
1024 × 768 ドット	26 万色	256 色		×
		HighColor (16 ビット)		×

- は表示可能、×は表示不可、 はご購入時の設定です。
- HighColor (16 ビット) は 6 万 5 千色、TrueColor (32 ビット) は 26 万色です。
- 936X は 1024 × 768 ドット、936T は 800 × 600 ドット表示を基準としているため、それよりも小さい解像度に設定した場合には、表示領域は画面中央に小さくなります。

CRT ディスプレイ

別売りのCRT ディスプレイで設定できる解像度と発色数は、次のとおりです。

CRTディスプレイの種類によっては、解像度や発色数に制限のあるものがあります。詳しくは、CRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。

下の表に書かれている以外の解像度ではお使いにならないでください。


解像度	最大発色数	設定可能な発色数
640 × 480 ドット	1677 万色	256 色、HighColor (16 ビット)、TrueColor (32 ビット)
800 × 600 ドット	1677 万色	256 色、HighColor (16 ビット)、TrueColor (32 ビット)
1024 × 768 ドット	6 万 5 千色	256 色、HighColor (16 ビット)
1280 × 1024 ドット	256 色	256 色

・ HighColor (16 ビット) は 6 万 5 千色、TrueColor (32 ビット) は 1677 万色です。

アドバイス

CRT ディスプレイをお使いになるときは

以下の手順に従って設定してください。

- 1 本パソコンの電源を切り、パソコン本体背面のディスプレイコネクタ(●▶P.5)にCRTディスプレイを接続します。
 - 2 CRTディスプレイと、本パソコンの電源を入れます。
本パソコンの液晶ディスプレイとCRTディスプレイに画面が表示されます。
 - 3 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
 - 4  (画面) をクリックします。
 - 5 「設定」タブをクリックし、「詳細」をクリックします。
 - 6 「画面」タブをクリックします。
 - 7 ディスプレイ表示をCRTディスプレイに切り替えます。
「LCD パネル」の をクリックして にし、「OK」をクリックします。
 - 8 「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されたら、「OK」をクリックします。
 - 9 CRTディスプレイにメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。
「はい」をクリックしないで 15 秒過ぎると、設定が元に戻ります。
- 初めてCRTディスプレイをお使いになる場合は、以下の手順に従って本パソコンを再起動してください。
2 回目以降は不要です。
- 10 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
 - 11 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
お使いになるCRTディスプレイによっては、再起動後、本パソコンの液晶ディスプレイとCRTディスプレイに再び画面が表示されます。その場合は、手順 5 ~ 9 まで操作し直してください。
- 本パソコンでは、CRTディスプレイと液晶ディスプレイの同時表示は保証していません。
● CRTディスプレイの画面の設定を変更する場合は、ディスプレイ表示をCRTディスプレイに切り替えた後に行ってください。
● お使いのCRTディスプレイによっては、モニタの設定(●▶P.113)が必要な場合があります。
● お使いのCRTディスプレイの解像度、発色数の設定によっては、ディスプレイの調整が必要な場合があります。

IRQ (割り込み要求) 一覧

ご購入時の本パソコンの IRQ (割り込み要求) は、次のように設定されています。

IRQ (割り込み要求)	使っているハードウェア
00	システムタイマ
01	キーボード
02	割り込みコントローラ
03	内蔵 FAX / ボイスモデム (COM2)
04	通信ポート (COM1)
05	サウンド / USB
06	フロッピーディスクドライブ
07	プリンタポート (LPT1)
08	リアルタイムクロック
09	空き
10	ビルトイン赤外線ポートまたはタッチパネル
11	空きまたは Card Bus コントローラ (PC カードスロット増設時)
12	マウス
13	数値データプロセッサ
14	ハードディスク
15	空き


アドバイス

IRQ の値は変更されることがあります

ここに記載している IRQ の値は、ご購入時のものです。オプション機器を取り付けると、値が変更されることがあります。

現在の IRQ を確認するには

オプション機器を取り付けると、IRQ の値が変更されることがあります。現在の IRQ の値は、以下の手順で確認できます。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (システム) をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 4 「コンピュータ」が反転表示されていることを確認し、「プロパティ」をクリックします。
- 5 「リソースの表示」タブで、「割り込み要求 (IRQ)」をクリックします。

IRQ の値の一覧が表示されます。

コラム

IRQ (割り込み要求:Interrupt Request) とは

周辺装置が要求する処理はすべて CPU が行いますが、CPU はどの装置からいつ「こういう処理を行ってほしい」という要求が来るかを予想できません。CPU が常にすべての装置を監視していると、処理を行っている時間よりも、監視している時間のほうが長くなってしまい、非効率的です。そこで、各周辺装置のほうで、CPU に実行してほしいことが発生したときに、IRQ の番号を使って現在 CPU が行っている処理に「割り込み」、「自分のほうを優先してほしい」と要求します。

CPU は、どの装置から要求が来たのかを IRQ から判断して、処理を行います。それが終われば、CPU はふたたび元の処理に戻ります。

IRQ を解放する

オプション機器をお使いになる場合には、オプション機器を取り付ける前に以下の設定が必要になる場合があります。

取り付けるオプション機器が必要とする IRQ が本パソコンですでに使われているときは、そのままではそのオプション機器を使えません。オプション機器を取り付ける前に、オプション機器が必要とする IRQ を本パソコンで空ける必要があります。この作業を「IRQ の解放」といいます。

本パソコンの IRQ の使用状況について詳しくは、「IRQ (割り込み要求) 一覧」(●▶ P.104) をご覧ください。

ここでは、シリアルポートまたはパラレルポートの IRQ を解放する手順を例に、IRQ を解放する方法を説明します。

重要

IRQ を解放したデバイスは使えません

IRQ を解放すると、それまでその IRQ を使用していたデバイスは、使えなくなりますのでご注意ください。再びお使いになるときは、IRQ を再設定してください。

IRQ は不用意に解放しないでください

IRQ を不用意に解放すると、本パソコンが正常に動作しなくなることがあります。「IRQ (割り込み要求) 一覧」(●▶ P.104) でよくご確認のうえ、IRQ を解放してください。


アドバイス

PCI 拡張カードの IRQ を解放するには

お客様が取り付けした PCI 拡張カードが使っている IRQ を解放したいときは、PCI 拡張カードを取り外してください。そのあと、本パソコンの電源を入れると、IRQ が自動的に解放されます。

用語 デバイス

パソコン本体内部の装置 (メモリ、拡張カードなど) や、パソコンに接続する機器 (マウス、キーボードなど) のことをデバイスと呼びます。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (システム) をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
本パソコンのハードウェアの一覧が表示されます。
- 4 解放したい IRQ を使っているデバイスをクリックして選びます。
IRQ4 を解放するには「ポート (COM/LPT)」内の「通信ポート (COM1)」を選びます。
IRQ7 を解放するには「ポート (COM/LPT)」内の「プリンタポート (LPT1)」を選びます。

アドバイス

IRQ を解放すると

それまでその IRQ を割り当てられていたデバイスは使えなくなります。

IRQ4 を解放すると、パソコン本体背面のシリアルコネクタ (COM1) (●▶ P.5) が使えなくなります。

IRQ7 を解放すると、パラレルコネクタ (●▶ P.5) が使えなくなります。

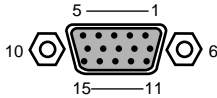
これらのコネクタにオプション機器を接続している場合は、そのオプション機器も使えなくなります。

- 5 「プロパティ」をクリックします。
- 6 「デバイスの使用」欄の「このハードウェアプロファイルで使用不可にする」のをクリックしてにし、「OK」をクリックします。
「デバイスマネージャ」タブに戻ります。
IRQを解放したデバイスに×印が付きます。
- 7 「閉じる」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが閉じます。
デバイスによっては、「閉じる」をクリックしたあとに、再起動するメッセージが表示されるものがあります。この場合は「はい」をクリックし、本パソコンを再起動してください。再起動したら、操作は終了です。
- 8 「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。
- 9 「再起動する」をクリックして、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

2

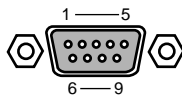
コネクタのピン配列と信号名

ディスプレイコネクタ



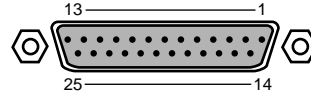
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	-	未接続
5~8	GND	-	グラウンド
9	+5V	-	電源
10	GND	-	グラウンド
11	NC	-	未接続
12	SDA	入出力	データ
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	データクロック

シリアルコネクタ



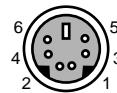
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	-	グラウンド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

パラレルコネクタ



ピンNo.	信号名	方向	内容
1	STROBE	出力	ストローブ
2	DATA0	入出力	データ0
3	DATA1	入出力	データ1
4	DATA2	入出力	データ2
5	DATA3	入出力	データ3
6	DATA4	入出力	データ4
7	DATA5	入出力	データ5
8	DATA6	入出力	データ6
9	DATA7	入出力	データ7
10	ACK	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	AUTOFD	出力	自動送り
15	ERROR	入力	エラー
16	INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	セレクト
18~25	GND	-	グラウンド

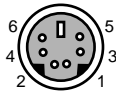
マウスコネクタ



ピンNo.	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	-	未接続
3	GND	-	グラウンド
4	VCC	-	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	-	未接続

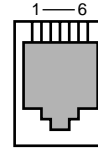
仕様一覧(コネクタのピン配列と信号名)

キーボードコネクタ



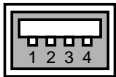
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	-	未接続
3	GND	-	グラウンド
4	VCC	-	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	-	未接続

PHONE 端子 (モデム)



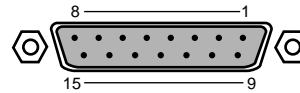
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	NC	-	未接続
2	-	-	LINE端子の5ピンと接続
3	TEL	入出力	電話機に接続
4	TEL	入出力	電話機に接続
5	-	-	LINE端子の2ピンと接続
6	NC	-	未接続

USB コネクタ



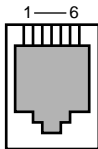
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	VCC	-	ケーブル・電源
2	- DATA	入出力	- データ信号
3	+ DATA	入出力	+ データ信号
4	GND	-	ケーブル・グラウンド

MIDI/JOYSTICK 端子



ピンNo.	信号名	方向	内容
1	+ 5V	-	電源
2	JOYF0	入力	ジョイスティックAボタン1
3	JRC0	入力	ジョイスティックA X座標
4	GND	-	グラウンド
5	GND	-	グラウンド
6	JRC1	入力	ジョイスティックA Y座標
7	JOYF1	入力	ジョイスティックAボタン2
8	+ 5V	-	電源
9	+ 5V	-	電源
10	JOYF2	入力	ジョイスティックBボタン1
11	JRC2	入力	ジョイスティックB X座標
12	MIDIOUT	出力	MIDI出力
13	JRC3	入力	ジョイスティックB Y座標
14	JOYF3	入力	ジョイスティックBボタン2
15	MIDIIN	入力	MIDI入力

LINE 端子 (モデム)



ピンNo.	信号名	方向	内容
1	NC	-	未接続
2	-	-	PHONE端子の5ピンと接続
3	LINE	入出力	公衆回線に接続
4	LINE	入出力	公衆回線に接続
5	-	-	PHONE端子の2ピンと接続
6	NC	-	未接続



付録

その他の注意事項などについて説明しています。

1. ディスプレイドライバ/サウンドドライバのインストール 110
2. コアの取り付け 120
3. 936T についての注意事項 121
4. その他の注意事項 125

1

ディスプレイドライバ/サウンドドライバのインストール

パソコンの調子が悪いとき、その原因がドライバにある場合があります。ゲームなどをインストールして、パソコンに合わないドライバに更新されてしまうと、パソコンは正しく動作しません。パソコンの状態に合わせて、ドライバを再インストールしてください。

画面が正しく表示されない場合はディスプレイドライバをインストールします。

音が正しく出ない場合はサウンドドライバをインストールします。

インストールのときに気を付けること

正常にインストールを行うために、注意していただくことがいくつかあります。

■ アクティブデスクトップの解除 ■

アクティブデスクトップに設定されたままインストールを行うと、正常にインストールを終了できない場合があります。インストールの前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除します。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを外します。

Windows98 の標準画面に切り替わります。

アドバイス

アクティブデスクトップを解除する別の方法

デスクトップの何も無いところで、マウスの右ボタンを1回押し、「アクティブデスクトップ」にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックしても、アクティブデスクトップを解除できます。

インストール終了後、改めてアクティブデスクトップに設定してください。

■ アプリケーションやウィンドウの終了 ■

開いているウィンドウや、起動しているアプリケーションをすべて終了させてください。「AUV」や「VirusScan」など、タスクバーに常駐するタイプのアプリケーションも終了させてください。

また、操作中、何度もパソコンが再起動されるので、「らんらんチャチャチャ」や「AUV」などスタートアップに登録されているアプリケーションは、そのつど終了させる必要があります。

■ 936T をお使いの方は ■

正常にインストールを行うために、マウスで操作してください。ペンは、インストール終了後にお使いください。

■ 「バージョンの競合」ウィンドウが表示された場合 ■

インストール中、「バージョンの競合」ウィンドウが表示されることがあります。

手順内で指示のない場合は、表示されたメッセージの内容をよくお読みになり、必ず Ⓢ 「アプリケーション CD」に入っているファイルがインストールされるように、「はい」または「いいえ」を選んでください。



ディスプレイドライバをインストールする場合

次ページの「ディスプレイドライバをインストールする」をご覧ください。










サウンドドライバをインストールする場合

「サウンドドライバをインストールする」(**▶ P.115)をご覧ください。

ディスプレイドライバをインストールする


インストールを始める前に、必ず前ページの「インストールのときに気を付けること」をご覧ください。
ディスプレイドライバのインストールは⑧「アプリケーション CD」から行います。

- 1 それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 3  (アプリケーションの追加と削除) をクリックします。
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4 一覧の中の「ATI ディスプレイドライバ」をクリックします。
- 5 「追加と削除」をクリックします。
「ATI アンインストール」ウィンドウが表示されます。
- 6 「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 7 ⑧「アプリケーション CD」を CD-ROM ドライブにセットします。
- 8 「コントロールパネル」ウィンドウの  (画面) をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 9 「設定」タブをクリックし、「詳細」をクリックします。
- 10 「アダプタ」タブをクリックし、「変更」をクリックします。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 11 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というメッセージが表示されます。
- 12 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」の  をクリックし、 にします。
- 13 「次へ」をクリックします。
「モデル」の一覧が表示されます。
- 14 「ディスク使用」をクリックします。
「ディスクからインストール」ウィンドウが表示されます。
- 15 「配布ファイルのコピー元」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
`e:¥ati¥driver`
- e には、お客様がお使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。
「デバイスの選択」ウィンドウの一覧が表示されます。
- 16 「モデル」一覧の「RAGE LT PRO AGP 2X (Japanese) 」をクリックします。
- 17 「OK」をクリックします。
「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。 : RAGE LT PRO AGP 2X (Japanese) 」というメッセージが表示されます。

- 18 「次へ」をクリックします。
ファイルのコピーが始まります。
「バージョンの競合」ウィンドウが表示された場合は、「いいえ」をクリックしてください。
- 19 「RAGE LT PRO AGP 2X (Japanese)ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」というメッセージが表示されたことを確認し、「完了」をクリックします。
「RAGE LT PRO AGP 2X (Japanese)のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
「再起動しますか?」というメッセージが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。
- 20  「アプリケーション CD」を CD-ROM ドライブから取り出します。
- 21 「閉じる」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 22 「閉じる」をクリックします。
「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。
- 23 「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 24 「コントロールパネル」ウィンドウの右上の  (閉じるボタン) をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが閉じます。
- 25 「ATI デスクトップのヘルプ」ウィンドウの右上の  (閉じるボタン) をクリックします。
次回からこのウィンドウを表示させないようにするためには、「次回にWindowsを起動したときにこの画面を表示する」の をクリックし、 にしてからウィンドウを閉じてください。

続いて、モニタの設定を行います。

モニタを設定する

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (画面) をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「設定」タブをクリックし、「詳細」をクリックします。
- 4 「モニタ」タブをクリックし、「変更」をクリックします。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 5 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というメッセージが表示されます。
- 6 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」の をクリックして にし、「次へ」をクリックします。
「ハードウェアの製造元とモデルを選択してください。」というメッセージが表示されます。
- 7 「すべてのハードウェアを表示」の をクリックして にします。
- 8 「製造元」に「標準モニタの種類」を、「モデル」に 936X をお使いの方は「Super VGA 1024 x 768」、936T をお使いの方は「Super VGA 800 x 600」を選び、「次へ」をクリックします。
CRTディスプレイをお使いの場合は、CRTディスプレイのマニュアルをご覧になり設定してください。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というメッセージが表示されます。
- 9 「次へ」をクリックします。
ディスプレイのドライバがインストールされます。
- 10 「完了」をクリックします。

アドバイス

CRTディスプレイをお使いの場合は

「アダプタ」タブで、「リフレッシュレート」を「最適」に設定してください。

- 11 「閉じる」をクリックします。

アドバイス


メッセージが表示されたら

リフレッシュレートの調整を確認するメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。さらに、リフレッシュレートの設定の保存を確認するメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。

- 12 「OK」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが閉じます。
- 13 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
- 14 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

アドバイス

画面の設定を変更するには

解像度や発色数などの画面の設定を変更するには、『 困ったときのQ&A』の「画面の解像度や発色数を変えたい」をご覧ください。本パソコンのご購入時には、解像度は936Xは1024 × 768 ドット、936Tは800 × 600 ドット、発色数はHighColor (16 ビット) に設定されています。

936Tをお使いの方は

936Tをお使いの方は、解像度をご購入時の状態(800 × 600 ドット)に設定しないと、タッチパネル機能をお使いになれません。

アクティブデスクトップに設定してください

ご購入時の状態に戻すには、このあと、次の手順に従ってアクティブデスクトップに設定してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを付けます。
アクティブデスクトップに切り替わります。

サウンドドライバをインストールする




インストールを始める前に、必ず「インストールのときに気を付けること」(●▶P.110)をご覧ください。

サウンドドライバのインストールは、「アプリケーション CD」から行います。

アドバイス

メッセージが表示されたら

インストールの途中で「vscvol88」というメッセージが表示されたら、「OK」をクリックしてください。

- 1 それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2 「アプリケーション CD」を CD-ROM ドライブにセットします。
- 3 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 4  (アプリケーションの追加と削除) をクリックします。
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 5 「インストール」をクリックします。
「フロッピーディスクまたは CD-ROM からのインストール」ウィンドウが表示されます。
- 6 「次へ」をクリックします。
しばらくすると、「インストールプログラムの実行」ウィンドウが表示されます。
- 7 「インストールプログラムのコマンドライン」に次のファイル名を入力し、「完了」をクリックします。
`e:¥crystal¥win9x¥setup.exe`
- e には、お客様がお使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。
「Crystal Audio Setup」ウィンドウが表示されます。
- 8 「Install Driver」をクリックします。
しばらくすると、「If audio hardware needs to be installed:」というメッセージが表示されます。
- 9 「Restart」をクリックします。
本パソコンが再起動されます。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示され、「次の新しいドライバを検索していません: PCI Multimedia Audio Device」というメッセージが表示されます。
- 10 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というメッセージが表示されます。
- 11 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」が  になっていることを確認し、「次へ」をクリックします。
- 12 「検索場所の指定」の をクリックして にし、次のフォルダ名を入力します。
`e:¥crystal¥win9x`
- e には、お客様がお使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。
- 13 「検索場所の指定」以外の項目に があるときは、 をクリックして にします。

- 14 「次へ」をクリックします。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。:Crystal SoundFusion(tm)PCIオーディオアクセラレータ」というメッセージが表示されます。
- 15 「次へ」をクリックします。
ファイルがコピーされ、「Crystal SoundFusion(tm)PCIオーディオアクセラレータ 新しいハードウェアデバイスに必要なソフトウェアがインストールされました。」というメッセージが表示されます。
- 16 「完了」をクリックします。
しばらくすると、「Crystal SoundFusion(tm)ジョイスティック」、および「Crystal SoundFusion(tm)仮想 MPU-401」がインストールされます。

アドバイス

Windows98 の CD-ROM を要求するメッセージが表示されたときは

「OK」をクリックします。

表示されたウィンドウの「ファイルのコピー元」に `c:\windows\options\cabs` と入力し、「OK」をクリックしてください。

「再起動しますか?」と表示された場合は、「はい」をクリックし、本パソコンを再起動してください。

Crystal Sound Fusion™ ディスクを要求するメッセージが表示されたときは



「OK」をクリックします。

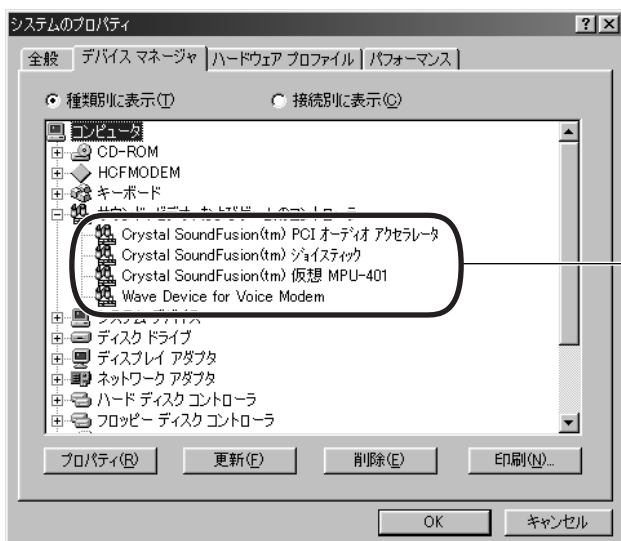
表示されたウィンドウの「ファイルのコピー元」に次のフォルダ名を入力し、「OK」をクリックしてください。
`e:\crystal\win9x`

- e には、お客様がお使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。

「ファイルが見つかりません。」というメッセージが表示された場合は、次のいずれかのフォルダ名を入力し、「OK」をクリックしてください。

`c:\windows\options\cabs` または `c:\windows\system`

- 17 「コントロールパネル」ウィンドウの  (システム) をクリックします。
- 18 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 19 「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」の  をクリックします。
一覧が表示されます。




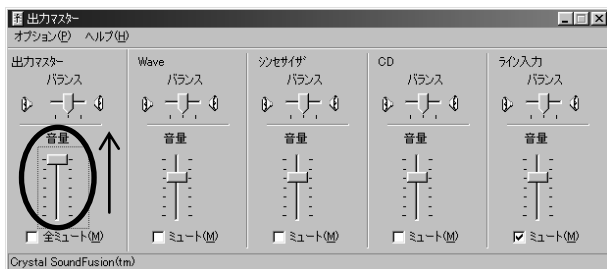
このように表示されることを確認します。


(お客様のお使いの状況により、表示される画面が異なる場合があります。)

アドバイス


「!」や「x」が表示されていたり、前ページの画面のように表示されていない場合
「!」や「x」が表示されていたり、前ページの画面のように表示されていない場合は、手順4(**▶P.115)
からやり直してください。それでも「!」や「x」が表示されている場合は、弊社パーソナルエコーセンター
にご相談ください。

- 20 「OK」をクリックします。
- 21 タスクバーの  (音量) をダブルクリックします。
「出力マスター」ウィンドウが表示されます。
- 22 「出力マスター」の音量つまみを上にドラッグして、音量を最大にします。

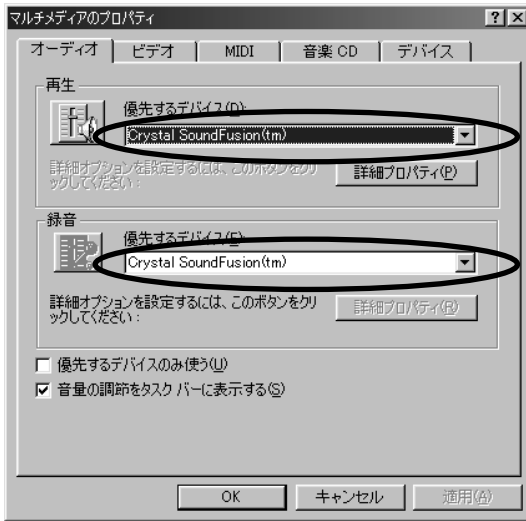


- 23 「オプション」メニューの「プロパティ」をクリックします。
- 24 「表示するコントロール」にある「マイクroフォン」の をクリックして にし、「OK」をクリックします。
「出力マスター」ウィンドウに「マイクroフォン」が表示されます。
- 25 「オプション」メニューの「トーン調整」をクリックします。
「出力マスター」ウィンドウの「マイクroフォン」のところに「トーン」が表示されます。
- 26 「マイクroフォン」の「トーン」をクリックします。
「マイクroフォンの詳細設定」ウィンドウが表示されます。
- 27 「そのほかの調整」の「マイクroフォンブースト」の をクリックして にし、「閉じる」をクリックします。
- 28 「オプション」メニューの「プロパティ」をクリックします。
- 29 「表示するコントロール」にある「電話」の をクリックして にし、「OK」をクリックします。
「出力マスター」ウィンドウに「電話」が表示されます。
- 30 「電話」にある「ミュート」の をクリックして にします。
- 31 「出力マスター」ウィンドウの右上にある  (閉じるボタン) をクリックします。
「出力マスター」ウィンドウが閉じます。

次に、MIDI の設定を行います。

- 32 「コントロールパネル」ウィンドウの  (マルチメディア) をクリックします。
「マルチメディアのプロパティ」ウィンドウが表示され、「オーディオ」タブが前面に表示されます。

- 33 「再生」、「録音」の「優先するデバイス」が「Crystal SoundFusion(tm)」になっていることを確認します。
なっていない場合は、右側の▼をクリックし、「Crystal SoundFusion(tm)」をクリックします。



- 34 「MIDI」タブをクリックします。
- 35 「単一の機器」が「Crystal SoundFusion(tm)」になっていることを確認し、「OK」をクリックします。
なっていない場合は、一覧から「Crystal SoundFusion(tm)」をクリックします。



- 36 「コントロールパネル」ウィンドウの右上にある **X** (閉じるボタン) をクリックします。
- 37 **CD** 「アプリケーション CD」を CD-ROM ドライブから取り出します。

38 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。

39 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

アドバイス

アクティブデスクトップに設定してください

ご購入時の状態に戻すには、このあと、次の手順に従ってアクティブデスクトップに設定してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを付けます。
アクティブデスクトップに切り替わります。

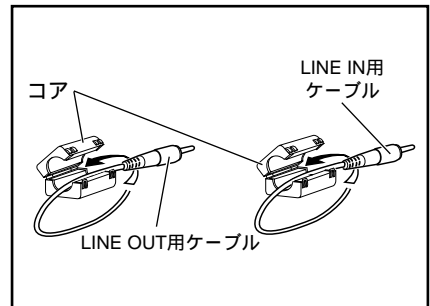
2

コアの取り付け

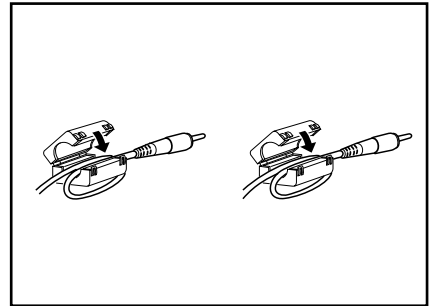
本パソコンは、LINE IN 端子とLINE OUT 端子を備えています。これらの端子に市販のオーディオ用ケーブルなどを接続するときは、不要電波の放射を軽減するために、添付のコアをケーブルに取り付けてください。

コアの取り付けかたは、次のとおりです。パソコン本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた状態で作業してください。

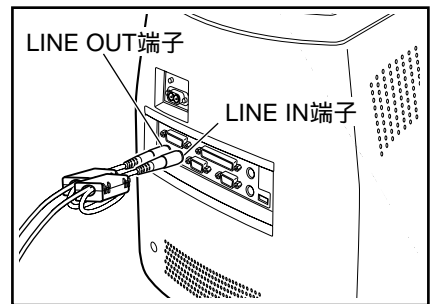
- 1 ケーブルのコネクタのすぐうしろで、コアにケーブルを1回巻き付けます。



- 2 コアを閉じます。



- 3 ケーブルを端子に取り付けます。



重要

コアでケーブルをはさまないようにしてください

コアを閉じるときに、コアでケーブルをはさまないように、注意してください。

936T についての注意事項

936Tをお使いの方のみご覧ください。

タッチパネルについて

936Tをお使いの方は、マウスの代わりにペンを使って操作することができます。

- タッチ操作は必ず添付のペンで行ってください。
- タッチ操作は800 × 600ドットの解像度(ご購入時の状態)でのみお使いになれます。その他の解像度、全画面モードのMS-DOSプロンプト、タッチパネルの部分表示画面、仮想デスクトップには対応していません。
- ペンでの操作は、すべてクリック、ダブルクリックになります。右クリック、ドラッグ、ポイントなどの操作はマウスをお使いください。
 クリック : 画面を軽く1回たたいて、すぐにペンを離します。
 この操作を「タッチ」といいます。
 ダブルクリック : 画面をすばやく2回タッチします。
- マウスが同時に動作しますので、アプリケーションで多用されている小さなアイコン、ボタン、メニュー、スクロールバーなどのウィンドウ操作にはマウスをお使いになることをお勧めします。

■ ペンについて ■

ペンをなくしたときなどは、予備のペンをご購入ください。

商品名 : タッチパネル用ペン VPPN1

商品番号 : 0635080

(富士通ピー・アンド・エス取り扱い品 お問い合わせ : 03-3434-0147)

■ 留意事項 ■

- 赤外線通信ポートをお使いになるときは、タッチパネル機能をご利用になれません。
- 「マウスのプロパティ」ウィンドウで、「ボタン」タブの「ボタンの選択」欄は必ず「右きき用」の設定でお使いください。また、「ダブルクリックの速度」欄は中間点と「遅く」の間に設定してください。「速く」の方向に設定すると、ダブルクリックが認識されない場合があります。
- 「マウスのプロパティ」ウィンドウで、「動作」タブの「ポインタの速度」欄の設定は無効です。また、「ポインタの軌跡」欄の設定は、ペンをタッチパネルに接触したまま移動する操作(ドラッグ)に対応します。
- IRQ(割り込み要求)(●▶P.104)を変更した場合に、一時的に操作が出来なくなることがあります。その場合は、本パソコンを再起動してください。
- タッチパネルにはガラスを使用しておりますので、強い衝撃を与えないようにしてください。



タッチパネルの補正

ペンでタッチした位置とマウスポインタの位置がずれているときには、入力補正アプリケーションで補正できます。画面の指示に従って補正してください。

重要

留意事項

- タッチパネルの補正をする前に、画面の設定をご購入時の状態に戻してください。本パソコンのご購入時は、解像度は800 × 600ドット、発色数はHighColor（16ビット）に設定されています。
- タッチパネルの補正をする前に、MS-IME98のツールバーをタスクバーに入れてください。ツールバーにマウスポインタを合わせ、マウスの右ボタンを1回押し、「タスクバーに入れる」をクリックすると、ツールバーの表示が消えます。
- 入力補正アプリケーション画面の[Ins]は **[Insert]**、[Return]は **[Enter]** と読み替えてください。
- ペンと画面の位置精度は±2mmです。そのため、タッチパネルの表示エリアの外周部分2mm程度は入力できない場合があります。
- タッチパネルの補正中は、タッチパネルに指を触れないでください。
- タッチパネルの補正では、十字のマークにペン先を合わせて離したときに認識されます。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
「ファイル名を指定して実行」ウィンドウが表示されます。
- 2 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
`c:¥fjuty¥tpanel¥calwinre.exe`
- 3 「表示されている各補正点を入力して下さい。」というメッセージが表示されたら、**[Insert]**を押します。
「補正パラメータ設定」ウィンドウが表示されます。
- 4 「パネルサイズ」: 12.1インチ、「引き出し線」: 左側、「補正点数」: 9点の  をクリックして  にし、「OK」をクリックします。
- 5 9カ所の赤い十字のマークをペンで順次タッチしていきます。
入力するたびに音がし、9カ所全ての色が変化します。
ここではマウスポインタは、±2cm程度大きくずれて表示されます。
- 6 入力が終了したら、**[Enter]**を押します。
画面がテスト画面になります。ここでは、自由に線画を入力できますので、ペンでタッチした位置とマウスポインタの位置が合っているか確認してください。
補正が不十分なときは、**[Home]**を押し、手順5からやり直してください。

アドバイス

「コマンド受付エラー」が表示された場合

「コマンド受付エラー」が表示された場合は、「OK」をクリックしてください。手順5の画面に戻ります。再び9カ所の入力をし直してください。

- 7 ペンでタッチした位置とマウスポインタの位置が合っていることを確認したら、**[Enter]**を押し、アプリケーションを終了します。





タッチパネルドライバのインストール

ペン入力の調子が悪いときは、その原因がドライバにある場合があります。そのときは、以下の手順に従って、ドライバを再インストールしてください。必ずマウスで操作してください。

アドバイス

「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示されたら

インストール中に「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示される場合があります。その場合は、「はい」をクリックしてください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (システム) をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 4 「マウス」の  をクリックします。
- 5 「FT Touch Panel Driver」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 6 「ドライバ」タブをクリックします。
- 7 「ドライバの更新」をクリックします。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 8 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というメッセージが表示されます。
- 9 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」の をクリックして にし、「次へ」をクリックします。
- 10 「ディスク使用」をクリックします。
「ディスクからインストール」ウィンドウが表示されます。
- 11  「プリシェ デバイスドライバ CD」を CD-ROM ドライブにセットします。
- 12 「配布先ファイルのコピー元」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
`e:¥tpanel¥pen`
- e には、お客様がお使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。
- 13 「次へ」をクリックします。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というメッセージが表示されます。
- 14 「次へ」をクリックします。
「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」というメッセージが表示されます。
- 15 「完了」をクリックします。
「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。
- 16  「プリシェ デバイスドライバ CD」を CD-ROM ドライブから取り出します。
- 17 「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

赤外線通信ポートをお使いになるときは

赤外線通信ポートはタッチパネル機能と同時にお使いになれません。そのためBIOSセットアップの設定を変更する必要があります。赤外線通信ポートをお使いになるときは、以下の手順に従って設定してください。

重要

ご購入時の状態では、赤外線通信ポートをお使いになれません

必ず、以下の手順に従って赤外線通信ポートが使えるように設定してください。

設定を行わずに Intellisync (**▶P.126) を起動すると、本パソコンが動かなくなることがあります。

- 1 BIOS セットアップを起動します。
詳しくは、「BIOS セットアップを起動する」(**▶P.73) をご覧ください。
- 2 を押して、Peripherals にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。
- 3 を押して、Serial Port 2 の Operation Mode にカーソルを合わせます。
- 4 を押して、設定を「Normal」から「IrDA」に変更します。
- 5 設定を保存して、BIOS セットアップを終了します。
詳しくは、「BIOS セットアップを終了する」(**▶P.76) をご覧ください。

アドバイス

タッチパネル機能が使えるように設定を元に戻す方法

赤外線通信ポートをお使いになったあと、以下の手順に従って設定を元に戻してください。

- 1 BIOS セットアップを起動します。
詳しくは、「BIOS セットアップを起動する」(**▶P.73) をご覧ください。
- 2 を押して、Peripherals にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。
- 3 を押して、Serial Port 2 の Operation Mode にカーソルを合わせます。
- 4 を押して、設定を「IrDA」から「Normal」に変更します。
- 5 設定を保存して、BIOS セットアップを終了します。
詳しくは、「BIOS セットアップを終了する」(**▶P.76) をご覧ください。

4

その他の注意事項

液晶ディスプレイの特性

- 液晶ディスプレイは、高精度な技術を駆使して作られていますが、画面上に常時点灯あるいは点灯しないドットが存在する場合があります。
また、表示する色により画面が点滅のように見える場合があります。
- 液晶ディスプレイはその特性上、液晶変化で明るさや色合いに多少むらが発生することがあります。

液晶ディスプレイの廃棄

液晶ディスプレイ内の蛍光管の中には水銀が含まれています。本パソコンの廃棄にあたっては、地方自治体の条例または規則に従ってください。

かんたんメールボタンについて

かんたんメールボタンを押すと以下の状態になります。

- 本パソコンの電源が入ることがあります。
- スタンバイから復帰します。

スタンバイ時の注意

- 電源スイッチなどで本パソコンをスタンバイにしても、まれに、すぐに復帰する場合があります。その場合には、一度マウスを動かしてから、再びスタンバイにしてください。
- WAVE/AVI/MPEG/DATなどのマルチメディア関連のファイルおよびCDを再生する場合は、「電源の管理のプロパティ」ウィンドウで「システムスタンバイ」を「なし」に設定してください。

画面表示について

- 次の場合に画面がちらついたり、ノイズが表示されたりすることがあります。
 - 解像度が切り替わる瞬間（起動中や、MS-DOS プロンプトの全画面モードへの切り替わり時など）
 - 再起動したとき
 - 電源を入れたとき、切ったとき
 - スタンバイになるとき、スタンバイから復帰するとき
 - 「画面のプロパティ」ウィンドウで「詳細」をクリックしたとき など
- 「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「詳細」をクリックしたときの注意
 - 「ここをクリックするとテストパターンを行います」と表示されている部分をクリックしないでください。ここをクリックしてから「キャンセル」をクリックし、再び「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「詳細」をクリックすると正しく表示されない場合があります。その場合は、「キャンセル」をクリックしてから再び操作してください。
 - 「調整」タブの「LCDパネルオプション」の「イメージをパネルサイズに」のチェックボックスの設定は「キャンセル」をクリックしてもキャンセルできません。チェックボックスを直接クリックして設定してください。

カラーイメージスキャナ (RapidScan) RS-100 についての注意

カラーイメージスキャナ (RapidScan) RS-100をお使いになる場合は、BIOSセットアップの設定を変更する必要があります。Peripheralsメニュー(●▶P.88)で、Parallel PortのOperation Modeを「ECP」に設定してください。その他のモードでは、正常に動作しません。キーボードやマウスの操作が出来なくなる場合があります。

市販の MIDI 機器を接続するには

本パソコンには、背面に MIDI 機器を接続するための端子 (MIDI/JOYSTICK 端子●▶P.4) があります。この端子と MIDI 機器とをケーブルで接続します。

接続には MIDI/JOYSTICK 変換ケーブルが必要です。別途ご購入ください。

MIDI 機器との接続について詳しくは、MIDI 機器のマニュアルをご覧ください。

外部 MIDI 使用時の注意

本パソコンの外部 MIDI 出力は、16パート32音までのデータしか転送できません。従って、16パート32音以上のデータは、正常に再生されないことがあります。

電源の切断について

システムが停止した状態で電源を切る際、電源スイッチを4秒以上押して電源が切れた状態で、電源スイッチから指を離したときに、電源が再投入される場合があります。この場合は、再起動時に画面の左下に「Enter Setup, Press F2 key」と表示されているのを確認し、もう一度電源スイッチを4秒以上押して電源を切ってください。

赤外線通信ポートをお使いになるうえでの注意

本パソコンの赤外線通信ポートを使って、パソコン間でデータをやり取りすることができます。これを赤外線通信といいます。

本パソコンには、赤外線通信のアプリケーションとして、「Intellisync」が用意されています。赤外線通信ポートをお使いになる前に次の制限事項をご覧になり、設定を行ってください。


重要

制限事項

- 必ず Intellisync を終了させてから、Windows98 を終了させてください。
- データの通信中に、パソコン本体前面の赤外線通信ポートをふさいだりして、通信エラーが発生した場合は、Intellisyncをいったん終了させてから、もう一度通信を行ってください。そのままお使いになると、正常に通信できないことがあります。
- Intellisyncのシンク機能では、全角文字のファイル名は指定しないでください。全角文字が含まれたファイルを指定すると、正しく動作しません。
- 「ファイル転送」機能のツールバーにある「一覧」ボタンのバルーンヘルプは表示できません。
- 赤外線通信中は、接続設定マネージャの「ローカルデバイス」タブの赤外線デバイスのプロパティを開いて「IR ウィザード」を行わないでください。
- ネットワークドライブ名に全角の文字が使用されていると、ドライブ名が文字化けする場合があります。

936Tをお使いの方は

ご購入時の状態では、赤外線通信ポートをお使いになれません。必ず、「936Tについての注意事項」の「赤外線通信ポートをお使いになるときは」(●▶P.124) をご覧になり、赤外線通信ポートが使えるように設定してください。

設定を行わずに Intellisync を起動すると、本パソコンが動かなくなることがあります。その場合は、 困ったときのQ&Aの「操作中に動かなくなった」をご覧ください。

アドバイス**転送速度について**

本パソコンは、Intellisync を搭載しており、最大 115Kbps の速度で通信できます。転送速度は、通信相手のパソコンにより異なります。

赤外線通信を行うときの注意


- 互いのパソコンの赤外線通信ポートを使用可能な状態にし、赤外線通信ポートが真正面に向き合うようにします。距離は、20 ~ 50cm の範囲内での使用をお勧めします。
- データの転送中にお互いのパソコンを動かすと、データ転送が失敗することがあります。
- 特に通信相手のパソコンがバッテリー運用時は、互いのパソコンの距離を離しすぎないでください。

次のようなときは、うまく通信ができない場合があります

- 互いの赤外線通信ポートの距離が離れすぎていたり、間に遮断物があるとき
- テレビ、ラジオなどのリモコンや、ワイヤレス・ヘッドホンなどが近くで動作しているとき
- 直射日光や蛍光灯・白熱灯などの強い光が赤外線通信ポートにあたっているとき

Windows98 の赤外線機能を使用しているとき

Windows98 に標準添付されている赤外線デバイスを実行していると、Intellisync が正常に動作しないことがあります。その場合、次の操作を行ってください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 （赤外線モニタ）をクリックします。
- 3 「オプション」タブをクリックします。
- 4 「赤外線通信を使用可能にする」の をクリックし、 にします。
- 5 「OK」をクリックします。

Intellisync の設定をする

BIOS セットアップの Peripherals メニュー（●▶P.88）にある次の項目の設定を確認してください。

Serial Port 2 Enabled
Base Address 3E8h
IRQ 10
Operation Mode IrDA

BIOS セットアップの設定のしかたについては「BIOS セットアップの操作のしかた」（●▶P.73）をご覧ください。

936T をお使いの方は、「936T についての注意事項」の「赤外線通信ポートをお使いになるときは」（●▶P.124）をご覧ください。

アドバイス**コンピュータ名について**

あらかじめインストールされている Intellisync は、「コンピュータ名」に「OEMCOMPUTER」が登録されています。通信相手の「コンピュータ名」が同じ名前になっていると通信できません。その場合は異なる名前になるように設定を変更してください。変更は Intellisync の「接続設定マネージャ」の「識別」タブの「コンピュータ名」で行います。

ZAURUS との通信について

Intellisync では、ZAURUS との通信はサポートされていません。

ACPIについて

本パソコンでは、省電力機能として、ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) 機能と APM (Advanced Power Management) 機能のどちらかを選んでお使いになれます。ただし、ACPI 機能に設定した場合には、下記のような注意事項があります。ご購入時の設定は APM 機能となっており、そのままお使いいただくことを強くお勧めします。

ACPI 機能をお使いになる場合は、下記の注意事項を十分ご確認ください。ACPI 機能へ設定を変更する場合は、設定を正しく行わないと Windows98 が起動しなくなる場合がありますので、十分ご注意ください。

重要

ハードディスクをご購入時の状態に戻してください

Windows98 の ACPI 機能に設定を変更するには、パソコンをご購入時の状態に戻す必要があります。ハードディスク (C ドライブ) 内のファイルはすべて消えることになるため、お客様が作成したデータなどの大切なファイルは、事前にフロッピーディスクなどにコピーして保存してください。

また、ご購入後にインストールされたアプリケーションは、もう一度インストールし直す必要があります。

拡張カードなどのオプション機器は ACPI に対応している必要があります

ACPI 機能は Windows98 がパソコン全体の電力を管理する機能であるため、パソコンに接続されているすべての拡張カードなどのオプション機器は、ACPI 機能に対応している必要があります。ACPI 機能に対応していないオプション機器を接続して使用する場合には、APM 機能のままお使いください。ACPI 機能に設定して、ACPI 機能に対応していない拡張カードなどのオプション機器を接続すると、接続したオプション機器が使用できない、省電力モードから復帰しない、などの不具合が発生する場合があります。


なお、お使いになるオプション機器によっては、デバイスドライバで ACPI 機能に対応できるものもあります。詳しくは、オプション機器のマニュアルをご覧ください。

APM 機能に戻すためには、再びハードディスクをご購入時の状態に戻す必要があります

ハードディスク内の Windows98 を残したまま、APM 機能へ設定を戻すことはできません。APM 機能へ設定を戻すには、『パソコンをふりだしにもどす本』をご覧ください。パソコンをご購入時の状態に戻してから設定を変更してください。

ACPI に切り替えた直後は電源スイッチを押すと電源が切れます

電源スイッチでスタンバイへの切り替えを行う場合は、以下の手順で設定を変更してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (電源の管理) をクリックし、「詳細」タブの「電源ボタン」の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定を「スタンバイ」にします。

かんたんメールボタンは、スタンバイから復帰できません

スタンバイの状態では、かんたんメールボタンを押してもスタンバイから復帰できません。電源スイッチを押してスタンバイから復帰させてから、かんたんメールボタンをお使いください。

IRQ9 は ACPI 機能で使われます

「IRQ9」を「ACPI バスで使用されている SCI IRQ」が使用しますので、拡張カードなどをお使いの場合は、IRQ (割り込み要求) (**▶P.104) の重複にご注意ください。

赤外線通信ポートはお使いになれません

ACPI 機能の設定では、赤外線通信ポートはお使いになれません。赤外線通信ポートをお使いになりたい方は、ご購入時の設定のまま、本パソコンをお使いください。

936T をお使いの方は

ACPI 機能の設定では、スタンバイから復帰した場合にタッチパネルが使用している IRQ (割り込み要求) (**▶P.104) が、通常の IRQ10 から IRQ11 などに変化する場合がありますが、動作には問題ありません。

最新情報を入手するには

ACPI 機能に関する最新の注意事項については、富士通インターネット情報ページ「FM WORLD」(<http://www.fmworld.ne.jp>) に掲載していますので、あわせてご確認ください。

Windows 98 の ACPI 機能を設定する

■ 必要なものを用意する ■

ACPI の設定には、本書のほかに以下のものがが必要です。

- ⑥『パソコンをふりだしにもどす本』
- 📄『取扱説明書』
- 📀『リカバリ CD-ROM 起動ディスク』
- Ⓜ『リカバリ CD-ROM』(1/2)(2/2)
- Ⓜ『アプリケーション CD』
- Ⓜ『プリシェ デバイスドライバ CD』(936T のみ)

■ ACPI 切り替えプログラムを使う ■

いったん ACPI 機能に切り替えると、APM 機能に戻すには、増設したオプション機器(拡張カードやプリンタ、スキャナなど)を取り外し、作成したデータを保存して、再びハードディスク(Cドライブ)をご購入時の状態に戻す必要があります。前述の注意事項をご確認の上、内容にご同意いただける場合のみ、次の操作を行ってください。

- 1 ⑥『パソコンをふりだしにもどす本』、📄『取扱説明書』をご覧になり、本パソコンをご購入時の状態に戻します。
ご購入後に増設されたオプション機器(拡張カード類やプリンタ、スキャナなど)は全て取り外してください。これらのオプション機器は、すべての作業が終了するまで取り付けないでください。
また、ご購入後に作成したデータ、インストールしたアプリケーションなどは、すべて削除されます。必要なデータは、あらかじめフロッピーディスクなどに保存しておいてください。
- 2 本パソコンの電源を入れます。
- 3 Ⓜ『アプリケーション CD』を CD-ROM ドライブにセットします。
- 4 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 5 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
`e:¥chgacpi¥chgacpi.exe`
- e には、お使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。
「FUJITSU ChgACPI」ウィンドウが表示されます。内容をよくお読みください。
- 6 「次へ」をクリックします。
- 7 「ACPI モードに設定する」の をクリックし、 にします。
- 8 「次へ」をクリックします。
- 9 「完了」をクリックします。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 10 「次へ」をクリックします。
「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というメッセージが表示されます。
- 11 「次へ」をクリックします。
- 12 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか?」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックし、「次へ」をクリックします。
「プラグアンドプレイで検出されなかった新しいデバイスを検索します。」というメッセージが表示されます。
- 13 「次へ」をクリックします。
新しいデバイスの検索が始まります。検索には数分かかります。
「ハードウェアの検出が完了し、インストールの準備ができました。」というメッセージが表示されます。

- 14 「完了」をクリックします。
- 15 「今すぐ再起動しますか?」というメッセージが表示されたら、フロッピーディスクがセットされていないことを確認し、「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動し、新しいハードウェアの検出が実行されます。

アドバイス



メッセージが表示されたら

- 「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。
- 「Windows98のCD-ROM」を要求するメッセージが表示された場合は、`c:\windows\options\cabs`と入力し、「OK」をクリックしてください。
- 「ディスプレイ設定に問題があります」というメッセージが表示された場合は、「OK」をクリックし、続いて表示される「画面のプロパティ」ウィンドウで「キャンセル」をクリックしてください。

- 16 「今すぐ再起動しますか?」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。
- 17 本パソコンが再起動したら、CD-ROMドライブから \odot 「アプリケーションCD」を取り出します。
- 18 ACPI機能に設定されたことを確認するため、電源スイッチを押します。
自動的に電源切断処理が行われ、Windows98が終了すれば、ACPI機能が正常に働いています。
- 19 電源が切れたら、10秒ほど待って、もう一度本パソコンの電源を入れます。
- 20 画面の設定をします。
ご購入時の状態に戻すには、解像度や発色数などの画面の設定を変更する必要があります。変更のしかたについて詳しくは、 $\textcircled{4}$ 『困ったときのQ&A』の「画面の解像度や発色数を変えたい」をご覧ください。

■ 3 モードフロッピードライブを再インストールする ■



- 1 「コントロールパネル」ウィンドウの PC (システム) をクリックします。
- 2 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、「フロッピーディスクコントローラ」の \oplus をクリックします。
- 3 「Fujitsu3-modeFloppy(FMVSeries)」をクリックし、「削除」をクリックします。
「デバイス削除の確認」ウィンドウが表示されます。
- 4 「OK」をクリックします。
- 5 「閉じる」をクリックします。
- 6 「コントロールパネル」ウィンドウの CD (ハードウェアの追加) をクリックします。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 7 「次へ」をクリックします。
- 8 「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というメッセージが表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 9 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか?」というメッセージが表示されたら、「いいえ」の \square をクリックして \odot にし、「次へ」をクリックします。
- 10 「ハードウェアの種類」で「フロッピーディスクコントローラ」をクリックし、「次へ」をクリックします。

- 11 「ディスク使用」をクリックします。
- 12  「アプリケーション CD」を CD-ROM ドライブにセットします。
- 13 「配布ファイルのコピー元」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
e:¥3mode
- e には、お使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。
- 14 「次へ」をクリックします。
- 15 「完了」をクリックします。
- 16 「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 17 本パソコンが再起動したら、CD-ROM ドライブから  「アプリケーション CD」を取り出します。

936X をお使いの方は、続いてネットワークアダプタの設定を行ってください。

936T をお使いの方は、続いてタッチパネルドライバの再インストールを行ってください。

■ ネットワークアダプタを設定する（936X のみ）■

- 1 「コントロールパネル」ウィンドウの （システム）をクリックします。
- 2 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、「ネットワークアダプタ」の  をクリックします。
- 3 「名前のないネットワークアダプタ」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 4 「全般」タブをクリックします。
- 5 「デバイスの使用」の「このハードウェアプロファイルで使用不可にする」の をクリックし、 にします。
- 6 「OK」をクリックします。
- 7 「閉じる」をクリックします。
- 8 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
- 9 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

■ タッチパネルドライバを再インストールする（936T のみ）■

「タッチパネルドライバのインストール」（**▶P.123）をご覧になり、タッチパネルドライバのインストールを行ってください。

これで ACPI 機能の設定は終了です。このあとにオプション機器の接続、アプリケーションのインストールを行ってください。

アドバイス

BIOS セットアップの設定を変更してください

必要に応じて、BIOS セットアップの Boot Options メニューの Fast Boot（**▶P.84）を「Auto」に変更してください。

索引

記号

109 キーボード	6
2DD フロッピーディスク	17
2HD フロッピーディスク	17
3 モードドライブ	17

A

ACPI	128
Alt キー	6
Application キー	6

B

Back space キー	6
BIOS セットアップ	72
- の設定時に使う各キーの役割	75
- の設定を変更する	74
- の操作のしかた	73
- の変更内容を取り消す	75
- メニューの詳細	80
- を起動する	73
- をご購入時の設定に戻す	78
- を終了する	76
BIOS メッセージ	97
Boot Options	84
BUSY ランプ	3

C

Caps Lock 英数キー	6
CD-ROM	20
- が取り出せないとき	22
- をセットする	21
- を取り出す	22
CD-ROM ドライブ	2
- のお手入れ	26
CMOS RAM	72
CRT ディスプレイ	103
- の解像度と発色数	103
- を使う	103
Ctrl キー	6

D

Date and Time	83
Delete キー	7
DIMM	39
Disk Drives	86

E

ECC	39
EJECT ボタン	2
End キー	7
Enter キー	7
Esc キー	6
Exit Setup Utility	95

F

FAX / ボイスモデムカード	44
- 仕様	101
F キー	6

H

Home キー	7
---------------	---

I

IDE	52
Insert キー	6
Intellisync	126
IRQ (割り込み要求)	104
- 一覧	104
- を解放する	105

L

LAN カード	44
LINE IN 端子	4
LINE OUT 端子	4
LINE 端子	5, 108

M

MB	17
MIDI	126
MIDI/JOYSTICK 端子	4, 108
MIDI 機器	126
MO	67
MO ドライブ	67

N

Num Lock キー	7
-------------------	---

P

Page Down キー	7
Page Up キー	7
Pause キー	7
PC/AT 互換機	29
PCI	45
PCI 拡張カード	46
PC カードスロット	44
Peripherals	88
PHONE 端子	5, 108
Plug&Play	45
PnP	45
PnP/PCI	92
Power Management	93
Print Screen キー	6
Product Information	82

S

Scroll Lock キー	6
SCSI	52, 67
SCSI カード	44, 53
SCSI ケーブル	53
SDRAM	39
Shift キー	6
SPD	39
System Information	81

T

TA	69
TWAIN	68

U

USB	5
USB 機器	70
USB コネクタ	2, 5, 108

V

Video	91
-------	----

W

Windows キー	6
------------	---

イ

インジケータ	7
インストール	29
インレット	4

エ

液晶ディスプレイ	3
- 仕様	101
- のお手入れ	23
- の解像度と発色数	102
- の特性	125
- の廃棄	125

オ

お手入れ	23
オプション機器	28, 67
音量つまみ	12
音量ボリューム	3, 12
音量を調節する	12

カ

カーソルキー	7
解像度	102
書き込み禁止タブ	19
拡張カード	43
- を増設する	43
- を取り付ける	47
拡張スロット	5, 45, 47
各部の名称と働き	2
かんたんメールボタン	2, 125

キ

キーボード	6
- のお手入れ	23
キーボードコネクタ	5, 108
強制終了できないとき	11

ク

空白キー	6
------	---

ケ

ケーブル	29
------	----

コ

コア	120
工具	30
コネクタのピン配列と信号名	107

サ

サウンド機能仕様	102
サウンドドライバをインストールする	115

シ

終端抵抗	53
終了	9
仕様一覧	100
シリアルコネクタ	5, 107

ス

スキャナ	68, 126
スタンバイ	11, 125
スピーカー	3, 12
- から音が聞こえないとき	13
- 仕様	101
- の音量を調節する	12
スペースキー	6
スロットカバー	49

セ

赤外線通信ポート	2, 126
セットする	
- CD-ROM	21
- フロッピーディスク	19
接続する	
- プリンタ	33

ソ

増設する	
- 拡張カード	43
- ハードディスク	51
- メモリ	38
外付けハードディスク	53
- を取り付ける	54

タ

ターミナルアダプタ	69
ターミネータ	53
タッチパネル	3, 121
- 仕様	102
- のお手入れ	23
- のドライバをインストールする	123
- の補正	122

チ

チルトフット	7
--------------	---

ツ

通風孔	4, 5
-----------	------

テ

ディスプレイ	102
ディスプレイコネクタ	5, 107
ディスプレイドライバをインストールする	111
ディスプレイのお手入れ	23
デバイス	105
テンキー	7
電源	8
- を入れる	8
- を切る	9
電源スイッチ	3, 11
電源ランプ	3

ト

取っ手	4
ドライバ	29
取り出す	
- CD-ROM	22
- フロッピーディスク	19
取り付ける	
- 拡張カード	47
- 外付けハードディスク	54
- 本体カバー	37
- メモリ	40
取り外す	
- 本体カバー	36

ハ

ハードディスク	51
- 増設時のドライブ名の割り当て	62
- の領域を削除する	61
- の領域を設定する	56
- を増設する	51
- をフォーマットする	63
ハードディスクアクセス表示ランプ	3
ハーフサイズ	45
パソコン本体	2
- 仕様	100
- のお手入れ	23
発色数	102
パラレルコネクタ	5, 107

ヒ

光磁気ディスクドライブ	67
ビデオキャプチャカード	44

フ

フォトタッチソフト	68
ブライツネスボリューム	3
プラグアンドプレイ	45
プラスのドライバー	30
プリンタ	31
- を接続する	33
プリンタケーブル	32
フロッピーディスク	17
- のデータを守る	19
- をセットする	19
- を取り出す	19
フロッピーディスクアクセス表示ランプ	2
フロッピーディスクドライブ	2
- のお手入れ	25
フロッピーディスク取り出しボタン	2

へ

ヘッドホン	14
- から音が聞こえないとき	15
ヘッドホン端子	3
ペン	3, 121

ホ

本体カバー	36
- を取り付ける	37
- を取り外す	36

マ

マイク	16
マイク端子	2
マウスコネクタ	5, 107
マウスのお手入れ	24

ミ

ミュート	12
------	----

メ

メモリ	38
- の組み合わせ	40
- の取り付け場所	39
- の持ち方	41
- 容量の数値が増えていないとき	42
- 容量を確認する	42
- を取り付ける	40
- を増やす	38
メモリスロット	39

モ

モデムカード	44
--------	----

リ

領域

- を削除する	61
- を設定する	56

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

ZAURUS は、シャープ株式会社の登録商標です。

Celeron は、米国インテル社の商標です。

RAGE は ATI Technologies Inc. の商標です。

K56flex は Lucent Technologies 社、Rockwell International 社の商標です。

その他の各製品名は、各社の商標または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 1999

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

FMV 本体 & オプションガイド

B3FH-4941-01-00

発行日 1999年2月

発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。

本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。

無断転載を禁じます。

落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。

㊦ 9901-1

ここでは、マニュアルの主な内容を紹介しています。

初めてのの方は...

『かるがるパソコン入門』

- ・基本の操作を覚える
- ・文字を打つ

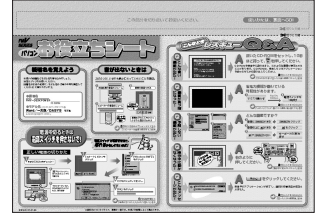


CD-ROMが
付いています



『お役立ちシート』

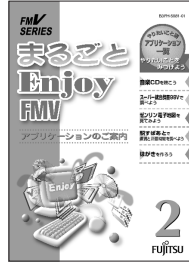
- ・お手元に置いてお使いください。



FMVを使いこなそう!

『まるごとEnjoy FMV』

- ・FMVでできること
- ・地図で調べる
- ・電車の経路を調べる
- ・はがきを作る



『はじめよう! インターネット』

- ・インターネットをはじめる
- ・ホームページを見る
- ・Eメールで手紙を出す

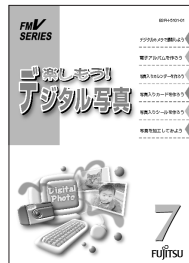
5時間
無料体験付き



『楽しもう! デジタル写真』

- ・デジタルカメラで写真を撮る
- ・写真でカレンダーを作る
- ・電子アルバムを作る

次の機種には添付されません。
FMV-DESKPOWER MIX36L / MIX367 / MIX365
FMV-BIBLO NEIX26 / NSIX26X / MFX26



パソコンの取り扱い

『FMV 本体&オプションガイド』

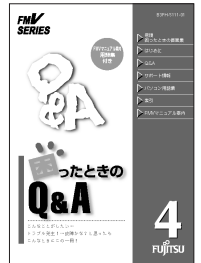
- ・各部の名前を知る
- ・プリンタをつなぐ
- ・メモリを増やす
- ・ハードディスクを増やす



トラブル解決!

『困ったときのQ & A』

- ・困ったときの画面集
- ・画面の設定を変える
- ・サポート情報
- ・パソコン用語集



『パソコンをふりだしにもどす本』

- ・買って来た状態にもどす



パソコンのしくみを知る

『パソコンがおもしろくなる本』

- ・パソコンのしくみを知る
- ・使いかたのコツをつかむ



T 4988618872041